

授業科目及び担当者

■建築・都市学専攻（主要科目）

授業科目（博士前期）	授業を行う年次	単位（演習）
建築学系		
建築・都市計画設計研究 1	1	2
建築・都市計画設計研究 2	1	2
建築・都市計画設計研究 3	2	4
建築・都市計画設計研究 4	2	4
建築構造・建築材料研究 1	1	2
建築構造・建築材料研究 2	1	2
建築構造・建築材料研究 3	2	4
建築構造・建築材料研究 4	2	4
建築環境・建築設備研究 1	1	2
建築環境・建築設備研究 2	1	2
建築環境・建築設備研究 3	2	4
建築環境・建築設備研究 4	2	4
国際建築都市デザイン系		
Architecture and Urban Design Studies 1	1	2
Architecture and Urban Design Studies 2	1	2
Architecture and Urban Design Studies 3	2	2
Architecture and Urban Design Studies 4	2	6
総合芸術系		
総合芸術研究 1	1	2
総合芸術研究 2	1	2
総合芸術研究 3	2	4
総合芸術研究 4	2	4

担当者			博士前期担当	博士後期担当
建築学系				
専任教授	博士(工学)	青井哲人	○	○
専任教授	博士(工学)	上野佳奈子	○	○
専任教授	博士(工学)	大河内学	○	○
専任教授	博士(工学)	梶川久光	○	○
専任教授	博士(工学)	門脇耕三	○	○
専任准教授	博士(工学)	川島範久	○	
専任教授	博士(工学)	熊谷知彦	○	○
専任教授	博士(工学)	小林正人	○	○
専任教授	博士(工学)	小山明男	○	○
専任教授	博士(工学)	酒井孝司	○	○
専任准教授	博士(工学)	晋沂雄	○	
専任准教授	博士(工学)	富澤徹弥	○	
専任准教授	博士(工学)	松沢晃一	2024年度未開講	
専任教授	博士(工学)	樋山恭助	○	○
専任講師	博士(工学)	光永威彦	○	
専任講師	博士(学術)	連勇太朗	○	
専任教授	博士(学術)	山本俊哉	○	○
国際建築都市デザイン系				
専任教授	博士(芸術工学)	佐々木宏幸	○	○
専任教授	博士(環境学)	庄ゆた夏	秋学期のみ開講	
専任教授	博士(建築学)	田中友章	○	○
特任准教授	博士(工学)	田村順子	○	
特任教授		ヴァンアカー, ミッシェル A.	○	
総合芸術系				
専任教授		清岡智比古	○	
専任教授		倉石信乃	○	
専任准教授	博士(人間・環境学)	鞍田崇	○	○
専任教授		管啓次郎	○	
専任准教授	博士(文学)	山本洋平	○	

■建築・都市学専攻（特修科目）

授業科目	授業を行う年次	単位		備考	担当者
		講義	演習		
(博士後期課程)					
博士人材のキャリアパス	1~3	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学) 樋山 恭助 他
				2024年度未開講	専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏 他
(博士前期課程)					
建築学系					
建築史特論	1	2		2024年度未開講	兼任講師 博士(工学) 松崎 照明
建築構法計画特論	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学) 門脇 耕三
近代建築史特論	1	2			兼任講師 博士(工学) 渡邊 研司
建築意匠特論	1	2			専任教授 博士(工学) 大河内 学
都市史特論	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学) 青井 哲人
建築計画特論	1	2			専任講師 博士(学術) 連 勇太朗
都市計画特論	1	2			専任教授 博士(学術) 山本 俊哉
建築マネジメント特論	1	2			兼任講師 博士(工学) 田村 誠邦
都市解析特論	1	2			兼任講師 博士(工学) 薄井 宏行
設計スタジオA	1		4		専任教授 博士(工学) 大河内 学 他
設計スタジオB	1		4		専任講師 博士(学術) 連 勇太朗 他
構造的機能特論	1	2			兼任講師 博士(工学) 福田 隆介
木質構造特論	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学) 梶川 久光
鉄筋コンクリート構造特論	1	2			専任准教授 博士(工学) 晉 沂雄
先端建築特論	1	2			専任教授 博士(工学) 門脇 耕三 他
鋼構造特論	1	2		2024年度未開講	専任准教授 博士(工学) 富澤 徹弥
シェル・空間構造特論	1	2			専任教授 博士(工学) 熊谷 知彦
耐震構造特論	1	2		2024年度未開講	未定
建築振動特論	1	2			専任教授 博士(工学) 小林 正人
建築材料特論	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学) 小山 明男
資源循環特論	1	2			専任教授 博士(工学) 小山 明男
建築施工特論	1	2			専任准教授 博士(工学) 松沢 晃一
構造設計演習A	1		2		兼任講師 博士(工学) 兼近 稔
構造設計演習B	1		2		兼任講師 博士(工学) 對比地 健一
建築環境工学特論	1	2			専任教授 博士(工学) 酒井 孝司
建築環境解析特論	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学) 酒井 孝司
建築環境評価特論	1	2			専任教授 博士(工学) 上野 佳奈子
建築水環境特論	1	2			専任講師 博士(工学) 光永 威彦
給排水設備特論	1	2		2024年度未開講	専任講師 博士(工学) 光永 威彦
建築音響特論	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学) 上野 佳奈子
建築数理情報分析特論 [M]	1	2			兼任講師 博士(工学) 池田 伸太郎
空調設備特論	1	2			専任教授 博士(工学) 樋山 恭助
建築設備設計演習	1		2		兼任講師 博士(工学) 生田 紀夫
先端環境設備設計スタジオ	1		2		専任教授 博士(工学) 樋山 恭助
地域デザイン特論	1	2			専任准教授 博士(工学) 川島 範久
国際建築都市デザイン系					
Independent Study A	1		2		専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸
Independent Study B	1		2		専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸
Advanced Design Studio A	1		6		専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸 他
Advanced Design Studio B	1		6		専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏 他
Advanced Design Studio C	2		6		専任教授 博士(建築学) 田中 友章 他
Advanced Design Studio D	1		3		専任教授 博士(建築学) 田中 友章 他
Advanced Architectural Design	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏 他
Advanced Urban Design	1	2			専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸
Advanced Methodology in Architecture	1	2			専任教授 博士(建築学) 田中 友章
Advanced Sustainable Design	1	2			特任准教授 博士(工学) 田村 順子
Advanced Project Management	1	2			兼任講師 杉山 久哉
総合芸術系					
現代美術特論	1	2			専任教授 倉石 信乃
フィルム・アダプテーション特論	1	2		2024年度未開講	
ポストモダン文化特論	1	2		2024年度未開講	
映画史特論	1	2			専任教授 菅 啓次郎

授業科目	授業を行う年次	単位		備考	担当者	
		講義	演習			
音楽コンテンツ特論	1	2			兼任講師	陣野俊史
写真コンテンツ特論	1	2			兼任講師	笹岡啓子
空間表象特論	1	2			専任准教授 博士(文学)	山本洋平
文芸コンテンツ特論	1	2			兼任講師 博士(学術)	宮川絹代
写真史特論	1	2			専任教授	倉石信乃
批評特論	1	2			専任教授	管啓次郎
ワークショップ・デザイン特論	1	2			専任准教授 博士(文学)	山本洋平
映画と都市	1	2			専任教授	清岡智比古
文学と都市	1	2			専任教授	清岡智比古
環境と人文	1	2			専任准教授 博士(人間・環境学)	鞍田崇
環境とデザイン	1	2			専任准教授 博士(人間・環境学)	鞍田崇
総合芸術特論	1	2			専任教授	倉石信乃
(共通総合科目)						
科学論文英語特論	1	2			兼任講師 博士(工学)	野瀬裕之
科学論文英語特論	1	2			専任准教授 Ph.D.	マクタガート, イアン
理工学研究科総合講義A	1	2			専任准教授 博士(理学)	宮部賢志
理工学研究科総合講義B	1	2			専任教授 博士(工学)	嶋田 総太郎 他
理工学研究科総合講義C	1	2		2024年度未開講		
理工学研究科総合講義D	1	2		2024年度未開講		
学際領域特論A	1	2			専任教授 博士(工学)	小澤 隆太 他
学際領域特論B	1	2			専任教授 工学博士	久保田 寿夫 他
学際領域特論C	1	2		2024年度未開講	専任教授 博士(工学)	関根 かをり 他
学際領域特論D	1	2			特任教授 工学博士	久保田 孝
(共通基礎科目)						
理工学研究科基礎特論A	1	2				
理工学研究科基礎特論B	1	2				
理工学研究科基礎特論C	1	2				
理工学研究科基礎特論D	1	2				
理工学研究科基礎特論E	1	2				

※ [M] : メディア授業科目 (詳細は P.16 参照)

建築・都市学専攻 科目振替措置表

2022年度以前入学者用科目名	2023年度以降入学者用科目名
設備計画特論	
	建築数理情報分析特論
	先端環境設備設計スタジオ
2021年度以前入学者用科目名	2022年度以降入学者用科目名
設計スタジオC	Advanced Design Studio D
Urban and Architectural History	Advanced Methodology in Architecture
アート造形学	現代美術特論
デザインアート史	フィルム・アダプテーション特論
メディア図書館論	ポストモダン文化特論
映像文化特論	映画史特論
社会表象特論	空間表象特論
アーカイブ・コンテンツ特論	写真史特論
コンテンツ批評特論	批評特論
プレゼンテーション法	ワークショップ・デザイン特論
2020年度以前入学者用科目名	2021年度以降入学者用科目名
インターンシップ(意匠・構造・設備)	
まちづくり特論	
	地域デザイン特論

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 青井 哲人		

授業の概要・到達目標

建築史，都市史，建築論に関する課題を掲げて研究を行う。

授業内容

[第1回] ガイダンス
[第2回～13回] 発表・討議・個別指導
[第14回] まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表に必要なレジュメを用意して臨むこと。

教科書

なし。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説するなどのかたちでフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%，中間発表20%，最終発表30%とし，合計60%以上を合格とする。

その他

指導テーマ

[建築史，都市史，建築論]

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 青井 哲人		

授業の概要・到達目標

建築史，都市史，建築論に関する課題を掲げて研究を行う。

授業内容

[第1回] ガイダンス
[第2回～13回] 発表・討議・個別指導
[第14回] まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表に必要なレジュメを用意して臨むこと。

教科書

なし。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説するなどのかたちでフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%，中間発表20%，最終発表30%とし，合計60%以上を合格とする。

その他

指導テーマ

[建築史，都市史，建築論]

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学) 青井 哲人		

授業の概要・到達目標

建築史，都市史，建築論に関する課題を掲げて研究を行う。

授業内容

[第1回] ガイダンス
[第2回～13回] 発表・討議・個別指導
[第14回] まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表に必要なレジュメを用意して臨むこと。

教科書

なし。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説するなどのかたちでフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%，中間発表20%，最終発表30%とし，合計60%以上を合格とする。

その他

指導テーマ

[建築史，都市史，建築論]

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学) 青井 哲人		

授業の概要・到達目標

建築史，都市史，建築論に関する課題を掲げて研究を行う。

授業内容

[第1回] ガイダンス
[第2回～13回] 発表・討議・個別指導
[第14回] まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

発表に必要なレジュメを用意して臨むこと。

教科書

なし。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説するなどのかたちでフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%，中間発表20%，最終発表30%とし，合計60%以上を合格とする。

その他

指導テーマ

[建築史，都市史，建築論]

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 上野 佳奈子		

授業の概要・到達目標

建築音響学・環境心理学に関わるテーマについて、フィールド調査、実験室実験等を通じて研究を行う。人の社会的・文化的活動を支える建築空間づくりに有用な知見を得ること、人の行為に伴う環境の認知についてより深い理解を得ることを目指し、音響学、心理学のみならず認知科学等の関連分野についても見識を深める。

授業内容

各自の研究テーマに従い、以下のスケジュールで演習形式の授業を実施する。

- [第1回] 研究の進め方、研究テーマの解説
- [第2回] 既往研究、関連文献の調査
- [第3回] 既往研究、関連文献の調査
- [第4回] 既往研究、関連文献の調査
- [第5回] 研究計画の立案
- [第6回] 研究計画の立案
- [第7回] 研究進捗状況の報告
- [第8回] 研究進捗状況の報告
- [第9回] 研究進捗状況の報告
- [第10回] 研究進捗状況の報告
- [第11回] 研究進捗状況の報告
- [第12回] 研究進捗状況の報告
- [第13回] 研究進捗状況の報告
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

自らの研究テーマだけでなく、研究室で取組んでいる他のテーマについても理解を深め、研究活動に積極的に参加することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の研究テーマに関連する論文・学会発表について継続的に情報収集を行い、理解を深めること。

教科書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

参考書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

研究進捗の報告に対するフィードバックは授業中に行う。

成績評価の方法

研究進捗状況の報告内容、研究討議における積極性や論理性、学会への参加・発表、研究に対する全般的な姿勢等を総合的に評価する。

その他

指導テーマ

〈研究テーマの例〉

- 1) 各種建築物の音環境評価・音響設計法
- 2) 各種建築物に対する要求性能の分析・入居後評価
- 3) パフォーマンス空間に求められる音場特性の解明
- 4) 音楽演奏行為と室内音響特性との関係
- 5) 個人特性を考慮した環境評価・分析手法
- 6) 騒音影響の脳活動計測による評価
- 7) 身体運動との関係を考慮した聴覚認知メカニズム

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学) 上野 佳奈子		

授業の概要・到達目標

建築音響学・環境心理学に関わるテーマについて、フィールド調査、実験室実験等を通じて研究を行う。人の社会的・文化的活動を支える建築空間づくりに有用な知見を得ること、人の行為に伴う環境の認知についてより深い理解を得ることを目指し、音響学、心理学のみならず認知科学等の関連分野についても見識を深める。

授業内容

各自の研究テーマに従い、以下のスケジュールで演習形式の授業を実施する。

- [第1回] 研究計画の再構築
- [第2回] 研究進捗状況の報告
- [第3回] 研究進捗状況の報告
- [第4回] 研究進捗状況の報告
- [第5回] 研究進捗状況の報告
- [第6回] 研究進捗状況の報告
- [第7回] 研究進捗状況の報告
- [第8回] 研究進捗状況の報告
- [第9回] 研究進捗状況の報告
- [第10回] 研究進捗状況の報告
- [第11回] 研究進捗状況の報告
- [第12回] 研究進捗状況の報告
- [第13回] 研究進捗状況の報告
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

自らの研究テーマだけでなく、研究室で取組んでいる他のテーマについても理解を深め、研究活動に積極的に参加することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の研究テーマに関連する論文・学会発表について継続的に情報収集を行い、理解を深めること。

教科書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

参考書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

研究進捗の報告に対するフィードバックは授業中に行う。

成績評価の方法

研究進捗状況の報告内容、研究討議における積極性や論理性、学会への参加・発表、研究に対する全般的な姿勢等を総合的に評価する。

その他

指導テーマ

〈研究テーマの例〉

- 1) 各種建築物の音環境評価・音響設計法
- 2) 各種建築物に対する要求性能の分析・入居後評価
- 3) パフォーマンス空間に求められる音場特性の解明
- 4) 音楽演奏行為と室内音響特性との関係
- 5) 個人特性を考慮した環境評価・分析手法
- 6) 騒音影響の脳活動計測による評価
- 7) 身体運動との関係を考慮した聴覚認知メカニズム

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学) 上野 佳奈子		

授業の概要・到達目標

建築音響学・環境心理学に関わるテーマについて、フィールド調査、実験室実験等を通じて研究を行う。人の社会的・文化的活動を支える建築空間づくりに有用な知見を得ること、人の行為に伴う環境の認知についてより深い理解を得ることを目指し、音響学、心理学のみならず認知科学等の関連分野についても見識を深める。

授業内容

各自の研究テーマに従い、以下のスケジュールで演習形式の授業を実施する。

- [第1回] 修士論文作成に向けた研究テーマの設定
- [第2回] 研究計画の立案
- [第3回] 研究進捗状況の報告
- [第4回] 研究進捗状況の報告
- [第5回] 研究進捗状況の報告
- [第6回] 研究進捗状況の報告
- [第7回] 研究進捗状況の報告
- [第8回] 研究進捗状況の報告
- [第9回] 研究進捗状況の報告
- [第10回] 研究進捗状況の報告
- [第11回] 研究進捗状況の報告
- [第12回] 研究進捗状況の報告
- [第13回] 研究進捗状況の報告
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

自らの研究テーマだけでなく、研究室で取組んでいる他のテーマについても理解を深め、研究活動に積極的に参加することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の研究テーマに関連する論文・学会発表について継続的に情報収集を行い、理解を深めること。

教科書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

参考書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

研究進捗の報告に対するフィードバックは授業中に行う。

成績評価の方法

修士論文のテーマ設定、研究の進捗状況、研究成果レポート等を総合的に評価する。

その他

指導テーマ

〈研究テーマの例〉

- 1) 各種建築物の音環境評価・音響設計法
- 2) 各種建築物に対する要求性能の分析・入居後評価
- 3) パフォーマンス空間に求められる音場特性の解明
- 4) 音楽演奏行為と室内音響特性との関係
- 5) 個人特性を考慮した環境評価・分析手法
- 6) 騒音影響の脳活動計測による評価
- 7) 身体運動との関係を考慮した聴覚認知メカニズム

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学) 上野 佳奈子		

授業の概要・到達目標

建築音響学・環境心理学に関わるテーマについて、フィールド調査、実験室実験等を通じて研究を行う。人の社会的・文化的活動を支える建築空間づくりに有用な知見を得ること、人の行為に伴う環境の認知についてより深い理解を得ることを目指し、音響学、心理学のみならず認知科学等の関連分野についても見識を深める。

授業内容

各自の研究テーマに従い、以下のスケジュールで演習形式の授業を実施する。

- [第1回] 研究計画の再構築
- [第2回] 研究進捗状況の報告
- [第3回] 研究進捗状況の報告
- [第4回] 研究進捗状況の報告
- [第5回] 研究進捗状況の報告
- [第6回] 研究進捗状況の報告
- [第7回] 研究進捗状況の報告
- [第8回] 研究進捗状況の報告
- [第9回] 研究進捗状況の報告
- [第10回] 研究進捗状況の報告
- [第11回] 研究進捗状況の報告
- [第12回] 研究進捗状況の報告
- [第13回] 研究進捗状況の報告
- [第14回] 修士論文審査

履修上の注意

自らの研究テーマだけでなく、研究室で取組んでいる他のテーマについても理解を深め、研究活動に積極的に参加することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の研究テーマに関連する論文・学会発表について継続的に情報収集を行い、理解を深めること。

教科書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

参考書

研究内容に応じて、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

研究進捗の報告に対するフィードバックは授業中に行う。

成績評価の方法

修士論文のテーマ設定、研究成果、論文の内容等を総合的に評価する。

その他

指導テーマ

〈研究テーマの例〉

- 1) 各種建築物の音環境評価・音響設計法
- 2) 各種建築物に対する要求性能の分析・入居後評価
- 3) パフォーマンス空間に求められる音場特性の解明
- 4) 音楽演奏行為と室内音響特性との関係
- 5) 個人特性を考慮した環境評価・分析手法
- 6) 騒音影響の脳活動計測による評価
- 7) 身体運動との関係を考慮した聴覚認知メカニズム

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	大河内 学	

授業の概要・到達目標

[建築設計論と空間計画]

1. 都市・建築に内在する計画の論理を定量的に分析し、得られた知見を現実の計画や設計の方法論に還元する手法の開発を行う。
2. 空間計画・計画理論について研究する。
具体的な研究課題は以下の通り。
 - 1) 都市空間の解析・評価手法に関する研究
 - 2) 都市空間構成に関する形態学的研究
 - 3) 建築空間の構成に関する研究
 - 4) 空間計画の手法、概念に関する研究
 設計手法に関する研究を行う。また建築の意匠論、空間論を題材にした、講読を行う。

授業内容

学生がそれぞれの研究テーマについて、資料収集・分析を行い、ゼミの場で発表と議論を行う。さらに建築のデザイン論に関する書籍を題材とした輪講形式の勉強会を並行して行う。学期末には研究成果の発表会を行う。

- [第1回] ガイダンス
- [第2回] 発表, 討論
- [第3回] 発表, 討論
- [第4回] 発表, 討論
- [第5回] 発表, 討論
- [第6回] 発表, 討論
- [第7回] 発表, 討論
- [第8回] 中間発表会
- [第9回] 発表, 討論
- [第10回] 発表, 討論
- [第11回] 発表, 討論
- [第12回] 発表, 討論
- [第13回] 発表, 討論
- [第14回] 研究発表会

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に十分な資料収集、分析を行うこと。勉強会については、事前に所定の書籍や関連書籍に目を通しておくこと。不明な部分があればゼミナールで質問すること。

教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書

講義の内容に応じて、参考図書リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に適宜アドバイスをするほか、コミュニケーションツールにおいても適宜コメントする。

成績評価の方法

評価の配点は、課題への取り組み、討議への積極的な参加20%、中間発表20%、最終発表60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	大河内 学	

授業の概要・到達目標

[建築設計論と空間計画]

1. 都市・建築に内在する計画の論理を定量的に分析し、得られた知見を現実の計画や設計の方法論に還元する手法の開発を行う。
2. 空間計画・計画理論について研究する。
具体的な研究課題は以下の通り。
 - 1) 都市空間の解析・評価手法に関する研究
 - 2) 都市空間構成に関する形態学的研究
 - 3) 建築空間の構成に関する研究
 - 4) 空間計画の手法、概念に関する研究
 設計手法に関する研究を行う。また建築の意匠論、空間論を題材にした、講読を行う。

授業内容

学生がそれぞれの研究テーマについて、資料収集・分析を行い、ゼミの場で発表と議論を行う。さらに建築のデザイン論に関する書籍を題材とした輪講形式の勉強会を並行して行う。学期末には研究成果の発表会を行う。

- [第1回] ガイダンス
- [第2回] 発表, 討論
- [第3回] 発表, 討論
- [第4回] 発表, 討論
- [第5回] 発表, 討論
- [第6回] 発表, 討論
- [第7回] 発表, 討論
- [第8回] 中間発表会
- [第9回] 発表, 討論
- [第10回] 発表, 討論
- [第11回] 発表, 討論
- [第12回] 発表, 討論
- [第13回] 発表, 討論
- [第14回] 研究発表会

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に十分な資料収集、分析を行うこと。勉強会については、事前に所定の書籍や関連書籍に目を通しておくこと。不明な部分があればゼミナールで質問すること。

教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書

講義の内容に応じて、参考図書リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に適宜アドバイスをするほか、コミュニケーションツールにおいても適宜コメントする。

成績評価の方法

評価の配点は、課題への取り組み、討議への積極的な参加20%、中間発表20%、最終発表60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	大河内 学	

授業の概要・到達目標

[建築設計論と空間計画]

1. 都市・建築に内在する計画の論理を定量的に分析し、得られた知見を現実の計画や設計の方法論に還元する手法の開発を行う。
2. 空間計画・計画理論について研究する。
具体的な研究課題は以下の通り。
 - 1) 都市空間の解析・評価手法に関する研究
 - 2) 都市空間構成に関する形態学的研究
 - 3) 建築空間の構成に関する研究
 - 4) 空間計画の手法、概念に関する研究
 設計手法に関する研究を行う。また建築の意匠論、空間論を題材にした、講読を行う。

授業内容

学生がそれぞれの研究テーマについて、資料収集・分析を行い、ゼミの場で発表と議論を行う。さらに建築のデザイン論に関する書籍を題材とした輪講形式の勉強会を並行して行う。学期末には研究成果の発表会を行う。

- [第1回] ガイダンス
- [第2回] 発表, 討論
- [第3回] 発表, 討論
- [第4回] 発表, 討論
- [第5回] 発表, 討論
- [第6回] 発表, 討論
- [第7回] 発表, 討論
- [第8回] 中間発表会
- [第9回] 発表, 討論
- [第10回] 発表, 討論
- [第11回] 発表, 討論
- [第12回] 発表, 討論
- [第13回] 発表, 討論
- [第14回] 研究発表会

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に十分な資料収集、分析を行うこと。勉強会については、事前に所定の書籍や関連書籍に目を通しておくこと。不明な部分があればゼミナールで質問すること。

教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書

講義の内容に応じて、参考図書リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に適宜アドバイスをするほか、コミュニケーションツールにおいても適宜コメントする。

成績評価の方法

評価の配点は、課題への取り組み、討議への積極的な参加20%、中間発表20%、最終発表60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	大河内 学	

授業の概要・到達目標

[建築設計論と空間計画]

1. 都市・建築に内在する計画の論理を定量的に分析し、得られた知見を現実の計画や設計の方法論に還元する手法の開発を行う。
2. 空間計画・計画理論について研究する。
具体的な研究課題は以下の通り。
 - 1) 都市空間の解析・評価手法に関する研究
 - 2) 都市空間構成に関する形態学的研究
 - 3) 建築空間の構成に関する研究
 - 4) 空間計画の手法、概念に関する研究
 設計手法に関する研究を行う。また建築の意匠論、空間論を題材にした、講読を行う。

授業内容

学生がそれぞれの研究テーマについて、資料収集・分析を行い、ゼミの場で発表と議論を行う。さらに建築のデザイン論に関する書籍を題材とした輪講形式の勉強会を並行して行う。学期末には研究成果の発表会を行う。

- [第1回] ガイダンス
- [第2回] 発表, 討論
- [第3回] 発表, 討論
- [第4回] 発表, 討論
- [第5回] 発表, 討論
- [第6回] 発表, 討論
- [第7回] 発表, 討論
- [第8回] 中間発表会
- [第9回] 発表, 討論
- [第10回] 発表, 討論
- [第11回] 発表, 討論
- [第12回] 発表, 討論
- [第13回] 発表, 討論
- [第14回] 研究発表会

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に十分な資料収集、分析を行うこと。勉強会については、事前に所定の書籍や関連書籍に目を通しておくこと。不明な部分があればゼミナールで質問すること。

教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書

講義の内容に応じて、参考図書リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中に適宜アドバイスをするほか、コミュニケーションツールにおいても適宜コメントする。

成績評価の方法

評価の配点は、課題への取り組み、討議への積極的な参加20%、中間発表20%、最終発表60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	梶川 久光	

- (8)木質材料特性に関する研究
- (9)木質建物における耐震改修に関する研究開発
- (10)小規模建築物の基礎に関する研究

授業の概要・到達目標

木質構造の広汎な知識を得ることを目標に、自然災害が構造に与える影響だけでなく、木質構造が建築に与える様々な事象について検討を行い、実際の建築への道へ通ずる能力を養う。力学的挙動については実験や計算等を通し、また建築への影響については実地調査等により、情報分析や数値解析を行うことによって社会的に有用な形で解明し工学の分野に貢献することを目標とする。

授業内容

〈授業内容〉

- [第1回] 研究テーマの解説及び決定
- [第2回] 既往研究・関連文献の調査(1)
- [第3回] 既往研究・関連文献の調査(2)
- [第4回] 既往研究・関連文献の調査(3)
- [第5回] 研究目的及び計画の立案
- [第6回] 研究の進捗状況の報告1(1)
- [第7回] 研究の進捗状況の報告1(2)
- [第8回] 研究の進捗状況の報告1(3)
- [第9回] 研究の進捗状況の報告1(4)
- [第10回] 研究の進捗状況の報告1(5)
- [第11回] 研究の進捗状況の報告1(6)
- [第12回] 研究の進捗状況の報告1(7)
- [第13回] 研究の中間成果の作成
- [第14回] 研究の中間成果報告

履修上の注意

研究課題に関する既往の研究を十分に理解し、主体性を持って討論及び探究することができること。

準備学習(予習・復習等)の内容

提出課題に対して、事前に文献調査や資料作成を行うこと。

教科書

日本建築学会出版の構造及び木質構造関係書籍

参考書

研究の進捗状況によって、資料・文献・論文等を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

各進捗状況の報告書及び面接により評価する。
60%以上を合格とする。

その他

特になし。

指導テーマ

以下に指導テーマの例を示す。

- (1)木質建物における水平抵抗機構に関する研究
- (2)木質建物の振動性状(制振)に関する研究
- (3)建築防災システムに関する研究
- (4)木質ラーメン構造の接合部の力学的挙動に関する研究
- (5)耐力壁の力学的挙動に関する研究
- (6)釘接合部の力学的挙動に関する研究
- (7)木質構造の設計法に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻（建築学系）	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士（工学）	梶川	久光

- (8)木質材料特性に関する研究
- (9)木質建物における耐震改修に関する研究開発
- (10)小規模建築物の基礎に関する研究

授業の概要・到達目標

木質構造の広汎な知識を得ることを目標に、自然災害が構造に与える影響だけでなく、木質構造が建築に与える様々な事象について検討を行い、実際の建築への道へ通ずる能力を養う。力学的挙動については実験や計算等を通し、また建築への影響については実地調査等により、情報分析や数値解析を行うことによって社会的に有用な形で解明し工学の分野に貢献することを目標とする。

授業内容

〈授業内容〉

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究目的及び計画の見直し
- [第2回] 研究の進捗状況の報告2 (1)
- [第3回] 研究の進捗状況の報告2 (2)
- [第4回] 研究の進捗状況の報告2 (3)
- [第5回] 研究の進捗状況の報告2 (4)
- [第6回] 研究の進捗状況の報告2 (5)
- [第7回] 研究の進捗状況の報告2 (6)
- [第8回] 研究の進捗状況の報告2 (7)
- [第9回] 研究成果の作成 (1)
- [第10回] 研究成果の作成 (2)
- [第11回] 研究発表用資料の作成 (1)
- [第12回] 研究発表用資料の作成 (2)
- [第13回] 研究発表の練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

研究課題に関する目的を十分に理解し、主体性を持って討論及び探究することができること。

準備学習（予習・復習等）の内容

提出課題に対して、事前に文献調査や資料作成を行ってくこと。

教科書

日本建築学会出版の構造及び木質構造関係書籍

参考書

研究の進捗状況によって、資料・文献・論文等を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

各進捗状況の報告書及び面接により評価する。
60%以上を合格とする。

その他

特になし。

指導テーマ

以下に指導テーマの例を示す。

- (1)木質建物における水平抵抗機構に関する研究
- (2)木質建物の振動性状(制振)に関する研究
- (3)建築防災システムに関する研究
- (4)木質ラーメン構造の接合部の力学的挙動に関する研究
- (5)耐力壁の力学的挙動に関する研究
- (6)釘接合部の力学的挙動に関する研究
- (7)木質構造の設計法に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	梶川	久光

- (8)木質材料特性に関する研究
- (9)木質建物における耐震改修に関する研究開発
- (10)小規模建築物の基礎に関する研究

授業の概要・到達目標

木質構造の広汎な知識を得ることを目標に、自然災害が構造に与える影響だけでなく、木質構造が建築に与える様々な事象について検討を行い、実際の建築への道へ通ずる能力を養う。力学的挙動については実験や計算等を通し、また建築への影響については実地調査等により、情報分析や数値解析を行うことによって社会的に有用な形で解明し工学の分野に貢献することを目標とする。

授業内容

〈授業内容〉

- [第1回] 研究テーマの解説及び決定
- [第2回] 既往研究・関連文献の調査(1)
- [第3回] 既往研究・関連文献の調査(2)
- [第4回] 既往研究・関連文献の調査(3)
- [第5回] 研究目的及び計画の立案
- [第6回] 研究の進捗状況の報告1(1)
- [第7回] 研究の進捗状況の報告1(2)
- [第8回] 研究の進捗状況の報告1(3)
- [第9回] 研究の進捗状況の報告1(4)
- [第10回] 研究の進捗状況の報告1(5)
- [第11回] 研究の進捗状況の報告1(6)
- [第12回] 研究の進捗状況の報告1(7)
- [第13回] 研究の中間成果の作成
- [第14回] 研究の中間成果報告

履修上の注意

研究課題に関する既往の研究を十分に理解し、主体性を持って討論及び探究することができること。

準備学習(予習・復習等)の内容

提出課題に対して、事前に文献調査や資料作成を行うこと。

教科書

日本建築学会出版の構造及び木質構造関係書籍

参考書

研究の進捗状況によって、資料・文献・論文等を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

各進捗状況の報告書及び面接により評価する。
60%以上を合格とする。

その他

特になし。

指導テーマ

以下に指導テーマの例を示す。

- (1)木質建物における水平抵抗機構に関する研究
- (2)木質建物の振動性状(制振)に関する研究
- (3)建築防災システムに関する研究
- (4)木質ラーメン構造の接合部の力学的挙動に関する研究
- (5)耐力壁の力学的挙動に関する研究
- (6)釘接合部の力学的挙動に関する研究
- (7)木質構造の設計法に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	梶川	久光

- (8)木質材料特性に関する研究
- (9)木質建物における耐震改修に関する研究開発
- (10)小規模建築物の基礎に関する研究

授業の概要・到達目標

木質構造の広汎な知識を得ることを目標に、自然災害が構造に与える影響だけでなく、木質構造が建築に与える様々な事象について検討を行い、実際の建築への道へ通ずる能力を養う。力学的挙動については実験や計算等を通し、また建築への影響については実地調査等により、情報分析や数値解析を行うことによって社会的に有用な形で解明し工学の分野に貢献することを目標とする。

授業内容

〈授業内容〉

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究目的及び計画の見直し
- [第2回] 研究の進捗状況の報告2(1)
- [第3回] 研究の進捗状況の報告2(2)
- [第4回] 研究の進捗状況の報告2(3)
- [第5回] 研究の進捗状況の報告2(4)
- [第6回] 研究の進捗状況の報告2(5)
- [第7回] 研究の進捗状況の報告2(6)
- [第8回] 研究の進捗状況の報告2(7)
- [第9回] 研究成果の作成(1)
- [第10回] 研究成果の作成(2)
- [第11回] 研究発表用資料の作成(1)
- [第12回] 研究発表用資料の作成(2)
- [第13回] 研究発表の練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

研究課題に関する目的を十分に理解し、主体性を持って討論及び探究することができること。

準備学習(予習・復習等)の内容

提出課題に対して、事前に文献調査や資料作成を行ってくこと。

教科書

日本建築学会出版の構造及び木質構造関係書籍

参考書

研究の進捗状況によって、資料・文献・論文等を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

各進捗状況の報告書及び面接により評価する。
60%以上を合格とする。

その他

特になし。

指導テーマ

以下に指導テーマの例を示す。

- (1)木質建物における水平抵抗機構に関する研究
- (2)木質建物の振動性状(制振)に関する研究
- (3)建築防災システムに関する研究
- (4)木質ラーメン構造の接合部の力学的挙動に関する研究
- (5)耐力壁の力学的挙動に関する研究
- (6)釘接合部の力学的挙動に関する研究
- (7)木質構造の設計法に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	門脇	耕三

授業の概要・到達目標

都市および建築に関する最先端の課題を理解し、この解決に寄与する建築構法に関するテーマおよび目標を履修者各自が具体的に設定し、研究する。

履修者は、自身が設定したテーマの背景についての理解を深めるとともに、目標を設定する能力および研究計画を企画・立案する能力を習得することを目標とする。

研究にあたっては、対象に関する情報収集および学外実習(フィールドワーク)を行い、専門知識を深める。

授業内容

- [第1回] 研究方法の基礎の習得
- [第2回] 研究方法の基礎の習得
- [第3回] 研究方法の基礎の習得
- [第4回] 研究方法の基礎の習得
- [第5回] 研究方法の基礎の習得
- [第6回] 既往研究の調査とレビュー
- [第7回] 既往研究の調査とレビュー
- [第8回] 既往研究の調査とレビュー
- [第9回] 既往研究の調査とレビュー
- [第10回] 既往研究の調査とレビュー
- [第11回] 研究目標の設定および研究計画の立案
- [第12回] 研究目標の設定および研究計画の立案
- [第13回] 研究目標の設定および研究計画の立案
- [第14回] 研究目標の設定および研究計画の立案

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

自身の研究計画にしたがい、随時レジユメの提出および発表を求める。また、授業に際しては既往論文や既往文献の読み込みが必要となるため、毎回の授業時に各自のテーマにあわせて指導する。

教科書

特に指定しない。

参考書

履修者のテーマに基づき、適宜指示する。

成績評価の方法

評価の配点は、研究への取り組み40%、最終提出物60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

指導テーマ

建築構法、構法計画に関する研究・開発・設計およびその方法論。

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	門脇	耕三

授業の概要・到達目標

都市および建築に関する最先端の課題を理解し、この解決に寄与する建築構法に関するテーマおよび目標を履修者各自が具体的に設定し、研究する。

履修者は、自身が設定したテーマの背景についての理解を深めるとともに、設定したおよび立案した研究計画に基づき、これを遂行する能力を習得することを目標とする。

研究にあたっては、対象に関する情報収集および学外実習(フィールドワーク)を行い、専門知識を深める。

授業内容

- [第1回] 自身が立案した研究計画に基づく調査あるいは実験または理論構築
- [第2回] 自身が立案した研究計画に基づく調査あるいは実験または理論構築
- [第3回] 自身が立案した研究計画に基づく調査あるいは実験または理論構築
- [第4回] 自身が立案した研究計画に基づく調査あるいは実験または理論構築
- [第5回] 自身が立案した研究計画に基づく調査あるいは実験または理論構築
- [第6回] 分析および検証
- [第7回] 分析および検証
- [第8回] 分析および検証
- [第9回] 分析および検証
- [第10回] 分析および検証
- [第11回] 研究成果のとりまとめ
- [第12回] 研究成果のとりまとめ
- [第13回] 研究成果のとりまとめ
- [第14回] 研究成果のとりまとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

自身の研究計画にしたがい、随時レジユメの提出および発表を求める。また、授業に際しては既往論文や既往文献の読み込みが必要となるため、毎回の授業時に各自のテーマにあわせて指導する。

教科書

特に指定しない。

参考書

履修者のテーマに基づき、適宜指示する。

成績評価の方法

評価の配点は、研究への取り組み40%、最終提出物60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

指導テーマ

建築構法、構法計画に関する研究・開発・設計およびその方法論。

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	門脇	耕三

授業の概要・到達目標

都市および建築に関する最先端の課題を理解し、この解決に寄与する建築構法に関するテーマおよび目標を履修者各自が具体的に設定し、研究する。

履修者は、自身が設定した目標および研究計画に基づき、研究を遂行する能力を培うことを目標とする。

研究にあたっては、対象に関する情報収集および学外実習(フィールドワーク)を行い、専門知識を深める。

授業内容

- [第1回] 設定した研究目標と研究計画の妥当性についての検証
- [第2回] 設定した研究目標と研究計画の妥当性についての検証
- [第3回] 設定した研究目標と研究計画の妥当性についての検証
- [第4回] 設定した研究目標と研究計画の妥当性についての検証
- [第5回] 設定した研究目標と研究計画の妥当性についての検証
- [第6回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第7回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第8回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第9回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第10回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第11回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第12回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第13回] 調査・実験等によるデータ収集
- [第14回] 調査・実験等によるデータ収集

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

自身の研究計画にしたがい、随時レジュメの提出および発表を求める。また、授業に際しては既往論文や既往文献の読み込みが必要となるため、毎回の授業時に各自のテーマにあわせて指導する。

教科書

特に指定しない。

参考書

履修者のテーマに基づき、適宜指示する。

成績評価の方法

評価の配点は、研究への取り組み40%、最終提出物60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

指導テーマ

建築構法、構法計画に関する研究・開発・設計およびその方法論。

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	門脇	耕三

授業の概要・到達目標

都市および建築に関する最先端の課題を理解し、この解決に寄与する建築構法に関するテーマおよび目標を履修者各自が具体的に設定し、研究する。

履修者は、自身が設定した目標および研究計画に基づき、研究を遂行するとともに、これを学術的な成果物としてとりまとめることを目標とする。

研究にあたっては、対象に関する情報収集および学外実習(フィールドワーク)を行い、専門知識を深める。

授業内容

- [第1回] 収集したデータの分析
- [第2回] 収集したデータの分析
- [第3回] 収集したデータの分析
- [第4回] 収集したデータの分析
- [第5回] 収集したデータの分析
- [第6回] 分析結果の検証
- [第7回] 分析結果の検証
- [第8回] 分析結果の検証
- [第9回] 分析結果の検証
- [第10回] 分析結果の検証
- [第11回] 研究成果のとりまとめ
- [第12回] 研究成果のとりまとめ
- [第13回] 研究成果のとりまとめ
- [第14回] 研究成果のとりまとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

自身の研究計画にしたがい、随時レジュメの提出および発表を求める。また、授業に際しては既往論文や既往文献の読み込みが必要となるため、毎回の授業時に各自のテーマにあわせて指導する。

教科書

特に指定しない。

参考書

履修者のテーマに基づき、適宜指示する。

成績評価の方法

評価の配点は、研究への取り組み40%、最終提出物60%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

指導テーマ

建築構法、構法計画に関する研究・開発・設計およびその方法論。

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(工学) 川島 範久		

成績評価の方法

毎週のレポート40%、発表・討論30%、最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

授業の概要・到達目標

地域デザインに関する研究テーマを設定して、具体的な地域における地域デザインに関する問題・課題を把握し、研究課題を見つけ、既往の研究成果等を踏まえ、自ら研究計画を立案し、調査を行い分析し、研究成果をまとめる。この研究の指導を通して、自分で「考え抜く力」「計画する力」「まとめる力」「プレゼンテーションする力」の向上をはかる。

具体的には、1) 既往の文献や資料調査等を通して、各自の研究課題を明確にする。2) 研究課題に係わる地域・地区を探して、予備的なフィールド調査を行い、研究課題の方向性を探る。3) 関連学会等の文献検索の手法を指導して、研究手法や方法論を探る。4) 具体的なフィールドを探すと共に、調査手法や分析手法等を指導し、研究計画を作成する。5) 研究計画に基づき本調査を実施、調査結果の分析や解析等を踏まえて研究成果をまとめる。6) 論文としてまとめ、研究成果の発表を行う。

授業内容

都市近郊や農山村地域を主な対象として、地域デザインの課題に着目して計画学としての研究を行う。

- [第1回] 研究の進め方と研究テーマの選定
- [第2回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第3回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第4回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第5回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第6回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第7回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第8回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第9回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第10回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第11回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第12回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第13回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第14回] 研究成果の報告と講評

履修上の注意

事前に各自で研究課題を設定し、4月に年度研究計画を提出すること。

週1回の頻度で研究会を実施する。この研究会では、1週間の成果をレポートにまとめて提出すること。このレポートをもとに発表し、討論を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の発表に対して、事前に資料収集等を行い、当日発表するレジメをまとめて参加すること。また、問題・課題の指摘に対しては、次週までに、必ず回答できるようにすること。

教科書

適宜紹介

参考書

適宜紹介

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表に対してコメントする。

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(工学) 川島 範久		

成績評価の方法

毎週のレポート40%、中間発表・討論30%、最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

授業の概要・到達目標

地域デザインに関する研究テーマを設定して、具体的な地域における地域デザインにおける問題・課題を把握し、研究課題を見つけ、既往の研究成果等を踏まえ、自ら研究計画を立案し、調査を行い分析し、研究成果をまとめる。この研究の指導を通して、自分で「考え抜く力」「計画する力」「まとめる力」「プレゼンテーションする力」の向上をはかる。

具体的には、1) 既往の文献や資料調査等を通して、各自の研究課題を明確にする。2) 研究課題に係わる地域・地区を探して、予備的なフィールド調査を行い、研究課題の方向性を探る。3) 関連学会等の文献検索の手法を指導して、研究手法や方法論を探る。4) 具体的なフィールドを探すと共に、調査手法や分析手法等を指導し、研究計画を作成する。5) 研究計画に基づき本調査を実施、調査結果の分析や解析等を踏まえて研究成果をまとめる。6) 論文としてまとめ、研究成果の発表を行う。

授業内容

都市近郊や農山村地域を主な対象として、地域デザインの課題に着目して計画学としての研究を行う。

- [第1回] 研究の進め方と研究テーマの選定
- [第2回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第3回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第4回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第5回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第6回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第7回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第8回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第9回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第10回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第11回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第12回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第13回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第14回] 研究成果の報告と講評

履修上の注意

各自の研究課題について、8月～9月に予備的なフィールド調査の実施すること。

週1回の頻度で研究会を実施する。この研究会では、1週間の成果をレポートにまとめて提出すること。このレポートをもとに発表し、討論を行う

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の発表に対して、事前に資料収集等を行い、当日発表するレジメをまとめて参加すること。また、問題・課題の指摘に対しては、次週までに、必ず回答できるようにすること。

教科書

適宜紹介

参考書

適宜紹介

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表に対してコメントする。

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(工学) 川島 範久		

成績評価の方法

毎週のレポート40%、中間発表・討論30%、最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

授業の概要・到達目標

地域デザインに関する研究テーマを設定して、具体的な地域における地域デザインにおける問題・課題を把握し、研究課題を見つけ、既往の研究成果等を踏まえ、自ら研究計画を立案し、調査を行い分析し、研究成果をまとめる。この研究の指導を通して、自分で「考え抜く力」「計画する力」「まとめる力」「プレゼンテーションする力」の向上をはかる。

具体的には、1) 既往の文献や資料調査等を通して、各自の研究課題を明確にする。2) 研究課題に係わる地域・地区を探して、予備的なフィールド調査を行い、研究課題の方向性を探る。3) 関連学会等の文献検索の手法を指導して、研究手法や方法論を探る。4) 具体的なフィールドを探すと同時に、調査手法や分析手法等を指導し、研究計画を作成する。5) 研究計画に基づき本調査を実施、調査結果の分析や解析等を踏まえて研究成果をまとめる。6) 論文としてまとめ、研究成果の発表を行う。

授業内容

都市近郊や農山村地域を主な対象として、地域デザインの課題に着目して計画学としての研究を行う。

- [第1回] 研究の進め方と研究テーマの選定
- [第2回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第3回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第4回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第5回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第6回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第7回] 研究進捗状況の発表と評価(中間発表会)
- [第8回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第9回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第10回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第11回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第12回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第13回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第14回] 研究成果の報告と講評(最終発表会)

履修上の注意

各自の研究課題について、8月～9月に予備的なフィールド調査の実施すること。

週1回の頻度で研究会を実施する。この研究会では、1週間の成果をレポートにまとめて提出すること。このレポートをもとに発表し、討論を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の発表に対して、事前に資料収集等を行い、当日発表するレジメをまとめて参加すること。また、問題・課題の指摘に対しては、次週までに、必ず回答できるようにすること。

教科書

適宜紹介

参考書

適宜紹介

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表に対してコメントする。

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(工学) 川島 範久		

成績評価の方法

毎週のレポート40%、中間発表・討論30%、最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

授業の概要・到達目標

地域デザインに関する研究テーマを設定して、具体的な地域における地域デザインにおける問題・課題を把握し、研究課題を見つけ、既往の研究成果等を踏まえ、自ら研究計画を立案し、調査を行い分析し、研究成果をまとめる。この研究の指導を通して、自分で「考え抜く力」「計画する力」「まとめる力」「プレゼンテーションする力」の向上をはかる。

具体的には、1) 既往の文献や資料調査等を通して、各自の研究課題を明確にする。2) 研究課題に係わる地域・地区を探して、予備的なフィールド調査を行い、研究課題の方向性を探る。3) 関連学会等の文献検索の手法を指導して、研究手法や方法論を探る。4) 具体的なフィールドを探すと同時に、調査手法や分析手法等を指導し、研究計画を作成する。5) 研究計画に基づき本調査を実施、調査結果の分析や解析等を踏まえて研究成果をまとめる。6) 論文としてまとめ、研究成果の発表を行う。

授業内容

都市近郊や農山村地域を主な対象として、地域デザインの課題に着目して計画学としての研究を行う。

- [第1回] 研究の進め方と研究テーマの選定
- [第2回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第3回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第4回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第5回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第6回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第7回] 研究進捗状況の発表と評価(中間発表会)
- [第8回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第9回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第10回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第11回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第12回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第13回] 研究進捗状況の発表と評価
- [第14回] 研究成果の報告と講評(最終発表会)

履修上の注意

各自の研究課題について、8月～9月に予備的なフィールド調査の実施すること。

週1回の頻度で研究会を実施する。この研究会では、1週間の成果をレポートにまとめて提出すること。このレポートをもとに発表し、討論を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の発表に対して、事前に資料収集等を行い、当日発表するレジメをまとめて参加すること。また、問題・課題の指摘に対しては、次週までに、必ず回答できるようにすること。

教科書

適宜紹介

参考書

適宜紹介

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表に対してコメントする。

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	熊谷 知彦	

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、積雪等に対して建築物の構造安全性を確保するためには、それらの荷重下における建築物の挙動を把握し、評価することが重要となる。本科目では、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、崩壊挙動、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。

〈到達目標〉

既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造の中でも主にシェル・空間構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進め方、研究テーマの選定
- [第2回] 既往研究・関連文献の調査1
- [第3回] 既往研究・関連文献の調査2
- [第4回] 研究計画の立案1
- [第5回] 研究計画の立案2
- [第6回] 研究進捗状況の報告1
- [第7回] 研究進捗状況の報告2
- [第8回] 研究進捗状況の報告3
- [第9回] 研究進捗状況の報告4
- [第10回] 研究進捗状況の報告5
- [第11回] 研究発表用資料の作成1
- [第12回] 研究発表用資料の作成2
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

週1回の頻度で研究報告書に基づいて個別のミーティングを実施する。また、定期的に履修者全員による研究報告会を開催し、研究テーマ毎に発表し、討論を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された専門書の該当箇所を読み、次回の報告内容に関する専門用語について調べておくこと。また、復習として、指摘された事項について確認すること。

教科書

適宜研究に必要な専門書を指定する。

参考書

適宜文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度フィードバックする。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行う。

その他

指導テーマ

研究テーマとして、下記に示すようなものが挙げられる。

- 1) 制振・免震技術を利用した空間構造物の地震応答制御
- 2) 空間構造物と地盤の動的相互作用
- 3) 空間構造物の動的崩壊性状の解明と許容変形評価
- 4) 空間構造物の静的座屈性状の解明と座屈荷重評価
- 5) 形状最適化による空間構造物の構造性能の向上化
- 6) 空間構造物に用いる新形式部材の提案・開発など

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻 (建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	熊谷 知彦	

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、積雪等に対して建築物の構造安全性を確保するためには、それらの荷重下における建築物の挙動を把握し、評価することが重要となる。本科目では、建築構造・建築材料研究1に引き続き、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、崩壊挙動、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。

〈到達目標〉

既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造の中でも主にシェル・空間構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 論文・研究発表用資料の作成1
- [第12回] 論文・研究発表用資料の作成2
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

週1回の頻度で研究報告書に基づいて個別のミーティングを実施する。また、定期的に履修者全員による研究報告会を開催し、研究テーマ毎に発表し、討論を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された専門書の該当箇所を読み、次回の報告内容に関する専門用語について調べておくこと。また、復習として、指摘された事項について確認すること。

教科書

適宜研究に必要な専門書を指定する。

参考書

適宜文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度フィードバックする。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行う。

その他

指導テーマ

研究テーマとして、下記に示すようなものが挙げられる。

- 1) 制振・免震技術を利用した空間構造物の地震応答制御
- 2) 空間構造物と地盤の動的相互作用
- 3) 空間構造物の動的崩壊性状の解明と許容変形評価
- 4) 空間構造物の静的座屈性状の解明と座屈荷重評価
- 5) 形状最適化による空間構造物の構造性能の向上化
- 6) 空間構造物に用いる新形式部材の提案・開発など

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	熊谷 知彦	

その他

指導テーマ

研究テーマとして、下記に示すようなものが挙げられる。

- 1) 制振・免震技術を利用した空間構造物の地震応答制御
- 2) 空間構造物と地盤の動的相互作用
- 3) 空間構造物の動的崩壊性状の解明と許容変形評価
- 4) 空間構造物の静的座屈性状の解明と座屈荷重評価
- 5) 形状最適化による空間構造物の構造性能の向上化
- 6) 空間構造物に用いる新形式部材の提案・開発など

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、積雪等に対して建築物の構造安全性を確保するためには、それらの荷重下における建築物の挙動を把握し、評価することが重要となる。本科目では、建築構造・建築材料研究2に引き続き、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、振動性状、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。

〈到達目標〉

既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造の中でも主にシェル・空間構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 論文・研究発表用資料の作成1
- [第12回] 論文・研究発表用資料の作成2
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

週1回の頻度で研究報告書に基づいて個別のミーティングを実施する。また、定期的に履修者全員による研究報告会を開催し、研究テーマ毎に発表し、討論を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された専門書の該当箇所を読み、次回の報告内容に関する専門用語について調べておくこと。また、復習として、指摘された事項について確認すること。

教科書

適宜研究に必要な専門書を指定する。

参考書

適宜文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度フィードバックする。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行う。

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	熊谷 知彦	

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、積雪等に対して建築物の構造安全性を確保するためには、それらの荷重下における建築物の挙動を把握し、評価することが重要となる。本科目では、建築構造・建築材料研究3に引き続き、シェル・空間構造を対象として、構造力学、振動理論等に基づき、振動性状、座屈挙動、制振や免震による振動制御、形態創生などに関する研究を行う。

〈到達目標〉

既往研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造の中でも主にシェル・空間構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 論文・研究発表用資料の作成1
- [第12回] 論文・研究発表用資料の作成2
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

週1回の頻度で研究報告書に基づいて個別のミーティングを実施する。また、定期的に履修者全員による研究報告会を開催し、研究テーマ毎に発表し、討論を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された専門書の該当箇所を読み、次回の報告内容に関する専門用語について調べておくこと。また、復習として、指摘された事項について確認すること。

教科書

適宜研究に必要な専門書を指定する。

参考書

適宜文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度フィードバックする。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行うとともに、修士論文の研究成果および論文の内容等を

総合的に評価する。

その他

指導テーマ

研究テーマとして、下記に示すようなものが挙げられる。

- 1) 制振・免震技術を利用した空間構造物の地震応答制御
- 2) 空間構造物と地盤の動的相互作用
- 3) 空間構造物の動的崩壊性状の解明と許容変形評価
- 4) 空間構造物の静的座屈性状の解明と座屈荷重評価
- 5) 形状最適化による空間構造物の構造性能の向上化
- 6) 空間構造物に用いる新形式部材の提案・開発など

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	小林 正人	

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、津波などの自然災害に対して、建物の居住性や安全性を確保するには、その外乱の荷重効果と建物の構造性能の評価が重要な課題となる。本科目では、構造力学、振動・制御理論、構造解析技術を用いた、外乱の荷重効果の制御(耐震、免震、制振)に関する研究を行う。

〈到達目標〉

先行研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を修得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進め方、研究テーマの選定
- [第2回] 先行研究・関連文献の調査1
- [第3回] 先行研究・関連文献の調査2
- [第4回] 研究計画の立案1
- [第5回] 研究計画の立案2
- [第6回] 研究進捗状況の報告1
- [第7回] 研究進捗状況の報告2
- [第8回] 研究進捗状況の報告3
- [第9回] 研究進捗状況の報告4
- [第10回] 研究進捗状況の報告5
- [第11回] 研究進捗状況の報告6
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

定期的に履修者全員による意見交換会を開催し、研究テーマごとに発表と討論を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと

授業前：各自のテーマ・課題に関する調査・研究資料をあらかじめ作成し、授業時に提出・配布すること

授業後：各自のテーマ・課題に関する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に定めない。

研究内容に応じて適宜、資料を紹介する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関する発表およびディスカッション時に、解説や助言を適宜行う。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行う。

その他

指導テーマ

主な研究テーマ

- 1) 制振デバイスを用いた建物の耐震性能の向上化に関する研究
- 2) 免震建物の振動特性と地震応答性状、構造設計法に関する研究
- 3) 広帯域強震動に対する建物の地震応答評価に関する研究
- 4) 津波予想浸水地域における構造計画に関する研究など

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	小林	正人

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、津波などの自然災害に対して、建物の居住性や安全性を確保するには、その外乱の荷重効果と建物の構造性能の評価が重要な課題となる。本科目では、建築構造・建築材料研究1に引き続き、構造力学、振動・制御理論、構造解析技術を用いた、外乱の荷重効果の制御(耐震、免震、制振)に関する研究を行う。

〈到達目標〉

先行研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を修得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 研究進捗状況の報告9
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

定期的に履修者全員による意見交換会を開催し、研究テーマごとに発表と討論を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと

授業前：各自のテーマ・課題に関する調査・研究資料をあらかじめ作成し、授業時に提出・配布すること

授業後：各自のテーマ・課題に関する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に定めない。

研究内容に応じて適宜、資料を紹介する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関する発表およびディスカッション時に、解説や助言を適宜行う。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行う。

その他

指導テーマ

主な研究テーマ

- 1) 制振デバイスをを用いた建物の耐震性能の向上化に関する研究
- 2) 免震建物の振動特性と地震応答性状、構造設計法に関する研究
- 3) 広帯域強震動に対する建物の地震応答評価に関する研究
- 4) 津波予想浸水地域における構造計画に関する研究など

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	小林	正人

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、津波などの自然災害に対して、建物の居住性や安全性を確保するには、その外乱の荷重効果と建物の構造性能の評価が重要な課題となる。本科目では、建築構造・建築材料研究2に引き続き、構造力学、振動・制御理論、構造解析技術を用いた、外乱の荷重効果の制御(耐震、免震、制振)に関する研究を行う。

〈到達目標〉

先行研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を修得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 研究進捗状況の報告9
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

定期的に履修者全員による意見交換会を開催し、研究テーマごとに発表と討論を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと

授業前：各自のテーマ・課題に関する調査・研究資料をあらかじめ作成し、授業時に提出・配布すること

授業後：各自のテーマ・課題に関する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に定めない。

研究内容に応じて適宜、資料を紹介する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関する発表およびディスカッション時に、解説や助言を適宜行う。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行う。

その他

指導テーマ

主な研究テーマ

- 1) 制振デバイスを用いた建物の耐震性能の向上化に関する研究
- 2) 免震建物の振動特性と地震応答性状、構造設計法に関する研究
- 3) 広帯域強震動に対する建物の地震応答評価に関する研究
- 4) 津波予想浸水地域における構造計画に関する研究など

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻 (建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	小林	正人

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

地震、台風、津波などの自然災害に対して、建物の居住性や安全性を確保するには、その外乱の荷重効果と建物の構造性能の評価が重要な課題となる。本科目では、建築構造・建築材料研究3に引き続き、構造力学、振動・制御理論、構造解析技術を用いた、外乱の荷重効果の制御(耐震、免震、制振)に関する研究を行う。

〈到達目標〉

先行研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得する。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を修得する。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 研究進捗状況の報告9
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

定期的に履修者全員による意見交換会を開催し、研究テーマごとに発表と討論を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと

授業前：各自のテーマ・課題に関する調査・研究資料をあらかじめ作成し、授業時に提出・配布すること

授業後：各自のテーマ・課題に関する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に定めない。

研究内容に応じて適宜、資料を紹介する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関する発表およびディスカッション時に、解説や助言を適宜行う。

成績評価の方法

国内外における研究発表および研究ミーティングにおける研究報告ならびに研究の進捗状況に基づいて成績評価を行う。

その他

指導テーマ

主な研究テーマ

- 1) 制振デバイスを用いた建物の耐震性能の向上化に関する研究
- 2) 免震建物の振動特性と地震応答性状、構造設計法に関する研究
- 3) 広帯域強震動に対する建物の地震応答評価に関する研究
- 4) 津波予想浸水地域における構造計画に関する研究など

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	小山	明男

らに、今後の建築材料・建築生産に求められる環境配慮要件およびLCA手法について習得する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに係わる基礎知識について、復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

研究の進捗状況に応じ、研究計画、実施、考察といった内容で毎週打合せを行う。計画性、実行力を含めた研究成果によって評価する。

その他

指導テーマ

個別の研究テーマとして以下のようなものがあげられる。

- A. コンクリートの品質評価および材料設計手法に関する研究
 - ・多孔質骨材コンクリートの開発ならびに品質評価方法
 - ・コンクリート用混和材料が品質に及ぼす影響
 - ・RC建築物の耐用年数予測および補修方法の評価
- B. 資源循環型建築材料の開発・研究
 - ・副産物を用いたコンクリートの構造部材への適用
 - ・廃プラスチックを利用したリサイクル製品の開発
 - ・解体工事および建設廃棄物処理の適正化に関する研究
- C. 建築仕上げ材に関する研究
 - ・非構造帳壁の耐震安全性に関する研究
 - ・タイル剥落防止方法とその評価方法に関する研究
 - ・窯業系外装材の長期耐久性に関する研究

授業の概要・到達目標

建築材料に関する知識と研究的アプローチの方法について学ぶことを目的に、建築材料に関する研究を実施する。

授業内容

[建築材料(建築材料の性能に関する研究)]

- 主に建築材料の要求性能に関する研究指導を行う。
- [第1回～2回] 建築材料に要求される性能と品質(その1. 要求性能とその推移)
- 建築物の種類や建築物が受ける環境条件が異なれば自ずと建築あるいはそれに用いられる建築材料に要求される性能は異なる。これに対して建築材料が有する品質との関係を社会的な背景、技術開発の推移などを分析しながら建築材料に要求される性能を認識させる。
- [第3回～4回] 建築材料に要求される性能と品質(その2. 用途からみた要求性能)
- 建築材料とは建築を構成するあらゆるところに使われる材料をいい、当然、使用される用途・部位によって要求品質は異なる。ここでは、構造材料・仕上材料などの分類あるいは、柱、梁、壁、床、屋根などの使用部位による分類ごとに建築材料に要求される性能を整理・認識する。
- [第5回～7回] 建築材料の性能(その1. 生産性)
- 建築材料に要求される生産性は、コスト、品質確保などと密接に関わる性能であり、材料そのものの特性を生かす上でも重要な要素となる。ここでは、数多い工場生産品と異なり、建築現場において生産される特殊な建築材料であるコンクリートを中心に最新の技術を紹介し、建築物に求められる要求品質と生産性確保・向上のための技術のあり方について習得する。
- [第8回～10回] 建築材料の性能(その2. 安全性)
- 建築材料のうち、構造材料には主として地震に対する安全性が要求され、一方、仕上げ材料には健康等に対する安全性が要求される。ここでは、建築材料の種別・用途ごとに要求される安全性とそのレベルとを整理するとともに、安全性に関わる材料特性について習得する。
- [第11回～13回] 建築材料の性能(その3. 耐久性)
- 耐久性は、建築物の物理的な寿命を決定する要素であり、環境に及ぼす影響にも関連する重要な性能である。ここでは、コンクリートを中心に耐久性に影響を及ぼす劣化因子とそのメカニズムについて学ぶ。また、建築物の寿命と耐久性について、メンテナンスなども含めて耐久性確保のために必要な条件を考える。
- [第14回] 建築材料が及ぼす環境影響
- 省資源・省エネルギー、地球温暖化、有害物排出、健康など個々の環境影響を地球環境、地域環境、室内居住環境などに分類・整理し、これらの環境影響に建築材料が及ぼす因子について考える。さ

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	小山	明男

- B. 資源循環型建築材料の開発・研究
 - ・副産物を用いたコンクリートの構造部材への適用
 - ・廃プラスチックを利用したリサイクル製品の開発
 - ・解体工事および建設廃棄物処理の適正化に関する研究
- C. 建築仕上げ材に関する研究
 - ・非構造帳壁の耐震安全性に関する研究
 - ・タイル剥落防止方法とその評価方法に関する研究
 - ・窯業系外装材の長期耐久性に関する研究

授業の概要・到達目標

建築材料に関する知識と研究的アプローチの方法について学ぶことを目的に、建築材料に関する研究を実施する。

授業内容

[建築材料(建築材料の性能に関する研究)]

主に建築材料の性能・品質評価に関する研究指導を行う。

[第1回～5回] 評価の仕組みと基本的な考え方

第三者評価をはじめとした建築材料の性能評価に関する社会的な仕組みについて認識する。また、事例を通じて評価に対する基本的な考え方を紹介し、個別の研究成果などに対する一般的な評価について、評価を受ける側のアプローチの仕方、考え方および表現の仕方を習得する。

[第6回～10回] 建築材料に要求される性能と品質確保のための技術の要点について概説し、品質の保証システムのあり方について考える。また、全体的な品質確保の重要性を認識し、相反する個々の要求性能に関して、プライオリティ、バランスを考へながら最適な品質確保のための材料設計の手法について習得する。

[第11回～14回] 個別研究

研究的アプローチの仕方として研究目的・背景の明確化、既往研究・データベースの活用、研究計画、結果のまとめ方、成果の公表方法などについて習得する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに係わる基礎知識について、復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

研究の進捗状況に応じ、研究計画、実施、考察といった内容で毎週打合せを行う。計画性、実行力を含めた研究成果によって評価する。

その他

指導テーマ

個別の研究テーマとして以下のようなものがあげられる。

- A. コンクリートの品質評価および材料設計手法に関する研究
 - ・多孔質骨材コンクリートの開発ならびに品質評価方法
 - ・コンクリート用混和材料が品質に及ぼす影響
 - ・RC建築物の耐用年数予測および補修方法の評価

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	小山	明男

らに、今後の建築材料・建築生産に求められる環境配慮要件およびLCA手法について習得する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに係わる基礎知識について、復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

研究の進捗状況に応じ、研究計画、実施、考察といった内容で毎週打合せを行う。修士論文の内容および研究発表によって評価する。

その他

指導テーマ

個別の研究テーマとして以下のようなものがあげられる。

- A. コンクリートの品質評価および材料設計手法に関する研究
 - ・多孔質骨材コンクリートの開発ならびに品質評価方法
 - ・コンクリート用混和材料が品質に及ぼす影響
 - ・RC建築物の耐用年数予測および補修方法の評価
- B. 資源循環型建築材料の開発・研究
 - ・副産物を用いたコンクリートの構造部材への適用
 - ・廃プラスチックを利用したりサイクル製品の開発
 - ・解体工事および建設廃棄物処理の適正化に関する研究
- C. 建築仕上げ材に関する研究
 - ・非構造帳壁の耐震安全性に関する研究
 - ・タイル剥落防止方法とその評価方法に関する研究
 - ・窯業系外装材の長期耐久性に関する研究

授業の概要・到達目標

建築材料に関する知識と研究的アプローチの方法について学ぶことを目的に、建築材料に関する研究を実施する。

授業内容

[建築材料(建築材料の性能に関する研究)]

- 主に建築材料の要求性能に関する研究指導を行う。
- [第1回～2回] 建築材料に要求される性能と品質(その1. 要求性能とその推移)
- 建築物の種類や建築物が受ける環境条件が異なれば自ずと建築あるいはそれに用いられる建築材料に要求される性能は異なる。これに対して建築材料が有する品質との関係を社会的な背景、技術開発の推移などを分析しながら建築材料に要求される性能を認識させる。
- [第3回～4回] 建築材料に要求される性能と品質(その2. 用途からみた要求性能)
- 建築材料とは建築を構成するあらゆるところに使われる材料をいい、当然、使用される用途・部位によって要求品質は異なる。ここでは、構造材料・仕上材料などの分類あるいは、柱、梁、壁、床、屋根などの使用部位による分類ごとに建築材料に要求される性能を整理・認識する。
- [第5回～7回] 建築材料の性能(その1. 生産性)
- 建築材料に要求される生産性は、コスト、品質確保などと密接に関わる性能であり、材料そのものの特性を生かす上でも重要な要素となる。ここでは、数多い工場生産品と異なり、建築現場において生産される特殊な建築材料であるコンクリートを中心に最新の技術を紹介し、建築物に求められる要求品質と生産性確保・向上のための技術のあり方について習得する。
- [第8回～10回] 建築材料の性能(その2. 安全性)
- 建築材料のうち、構造材料には主として地震に対する安全性が要求され、一方、仕上げ材料には健康等に対する安全性が要求される。ここでは、建築材料の種別・用途ごとに要求される安全性とそのレベルとを整理するとともに、安全性に関わる材料特性について習得する。
- [第11回～13回] 建築材料の性能(その3. 耐久性)
- 耐久性は、建築物の物理的な寿命を決定する要素であり、環境に及ぼす影響にも関連する重要な性能である。ここでは、コンクリートを中心に耐久性に影響を及ぼす劣化因子とそのメカニズムについて学ぶ。また、建築物の寿命と耐久性について、メンテナンスなども含めて耐久性確保のために必要な条件を考える。
- [第14回] 建築材料が及ぼす環境影響
- 省資源・省エネルギー、地球温暖化、有害物排出、健康など個々の環境影響を地球環境、地域環境、室内居住環境などに分類・整理し、これらの環境影響に建築材料が及ぼす因子について考える。さ

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	小山	明男

- B. 資源循環型建築材料の開発・研究
 - ・副産物を用いたコンクリートの構造部材への適用
 - ・廃プラスチックを利用したリサイクル製品の開発
 - ・解体工事および建設廃棄物処理の適正化に関する研究
- C. 建築仕上げ材に関する研究
 - ・非構造帳壁の耐震安全性に関する研究
 - ・タイル剥落防止方法とその評価方法に関する研究
 - ・窯業系外装材の長期耐久性に関する研究

授業の概要・到達目標

建築材料に関する知識と研究的アプローチの方法について学ぶことを目的に、建築材料に関する研究を実施する。

授業内容

[建築材料(建築材料の性能に関する研究)]

主に建築材料の性能・品質評価に関する研究指導を行う。

[第1回～5回] 評価の仕組みと基本的な考え方

第三者評価をはじめとした建築材料の性能評価に関する社会的な仕組みについて認識する。また、事例を通じて評価に対する基本的な考え方を紹介し、個別の研究成果などに対する一般的な評価について、評価を受ける側のアプローチの仕方、考え方および表現の仕方を習得する。

[第6回～10回] 建築材料に要求される性能と品質確保のための技術の要点について概説し、品質の保証システムのあり方について考える。また、全体的な品質確保の重要性を認識し、相反する個々の要求性能に関して、プライオリティ、バランスを考えたながら最適な品質確保のための材料設計の手法について習得する。

[第11回～14回] 個別研究

研究的アプローチの仕方として研究目的・背景の明確化、既往研究・データベースの活用、研究計画、結果のまとめ方、成果の公表方法などについて習得する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに係わる基礎知識について、復習しておくこと。

教科書

参考書

成績評価の方法

研究の進捗状況に応じ、研究計画、実施、考察といった内容で毎週打合せを行う。修士論文の内容および研究発表によって評価する。

その他

指導テーマ

個別の研究テーマとして以下のようなものがあげられる。

- A. コンクリートの品質評価および材料設計手法に関する研究
 - ・多孔質骨材コンクリートの開発ならびに品質評価方法
 - ・コンクリート用混和材料が品質に及ぼす影響
 - ・RC建築物の耐用年数予測および補修方法の評価

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	酒井 孝司	

授業の概要・到達目標

概要：地球環境問題の顕在化に伴い、建物の環境負荷低減が極めて重要な課題となっている。建物における環境負荷の大部分は、建築環境・設備分野が担っており、長期的な対策を講じる必要がある。熱・空気環境分野においては、自然エネルギーの有効利用やエネルギー消費量の低減手法に関する研究の推進が急務となっている。環境負荷低減方法は、建物内の熱移動プロセスの基本的特性と気候特性の組み合わせにより構築される。従って、建築内外の物理現象を建築計画原論的なアプローチで個別に評価することが、新たな手法構築の基礎になると考えられる。これらを背景に、実測・数値解析手法を用いた物理現象の基本特性把握、非定常室内温熱環境数値予測法の確立に関する研究を行う。個別の研究テーマとして、自然エネルギーの利用可能性検証、環境共生手法の効果検証、熱・空気移動現象の解明、熱・湿気移動現象の解明などが挙げられる。

到達目標：本講義では、ミーティングにおける研究報告、研究討議における積極性や論理性を講義で実践的に行い、学会への参加・発表可能な水準に達することを到達目標とする。

授業内容

- [第1回] 環境・設備研究のテーマ解説
- [第2回] 研究計画の策定
- [第3回～13回] 研究進捗状況のレポート
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

建築環境・設備に関する科目を受講していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義では、各自研究テーマの進捗状況を毎回確認する。時間外に、各自研究テーマに対する学会誌等の文献調査、予備検討、プレゼン資料作成等を行う。

教科書

適宜、資料配布。

参考書

適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートの解説および点数については、Oh-oi Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける研究報内容、研究討議における積極性や論理性、研究成果レポートの内容、学会への参加・発表、研究に対する全般的な姿勢等を総合的に評価する。環境設備研究者として、理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

指導テーマ

- ①太陽エネルギーの利用可能性検証
太陽熱の暖房利用を目的とした蓄熱・集熱装置の開発
都市表層の日射反射率がヒートアイランドに及ぼす影響の解析
- ②熱・空気移動現象の解明
冷暖房室内の温熱環境実測・気流解析
壁面における熱伝達現象の実測・数値解析
建物出入り口における外気侵入現象の実測・数値解析
- ③環境共生手法の効果検証
通風・夜間換気・地中熱利用の効果検証
環境共生住宅の温熱環境の実測評価
- ④人体の快適性評価
日射・熱放射環境解析手法の構築
温冷感指標・人体生理反応モデルの構築

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	酒井 孝司	

授業の概要・到達目標

概要：地球環境問題の顕在化に伴い、建物の環境負荷低減が極めて重要な課題となっている。建物における環境負荷の大部分は、建築環境・設備分野が担っており、長期的な対策を講じる必要がある。熱・空気環境分野においては、自然エネルギーの有効利用やエネルギー消費量の低減手法に関する研究の推進が急務となっている。環境負荷低減方法は、建物内の熱移動プロセスの基本的特性と気候特性の組み合わせにより構築される。従って、建築内外の物理現象を建築計画原論的なアプローチで個別に評価することが、新たな手法構築の基礎になると考えられる。これらを背景に、建築環境・建築設備研究1に引き続き、実測・数値解析手法を用いた物理現象の基本特性把握、非定常室内温熱環境数値予測法の確立に関する研究を行う。個別の研究テーマとして、自然エネルギーの利用可能性検証、環境共生手法の効果検証、熱・空気移動現象の解明、熱・湿気移動現象の解明などが挙げられる。

到達目標：本講義では、ミーティングにおける研究報告、研究討議における積極性や論理性を講義で実践に行い、学会への参加・発表可能な水準に達することを到達目標とする。

授業内容

- [第1回] 環境・設備研究テーマの自己点検
- [第2回] 研究計画の再設定
- [第3回～13回] 研究進捗状況のレポート
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

建築環境・設備に関する科目を受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義では、各自研究テーマの進捗状況を毎回確認する。時間外に、各自研究テーマに対する学会誌等の文献調査、予備検討、プレゼン資料作成等を行う。

教科書

特になし。適宜、資料配布。

参考書

特になし。適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートの解説および点数については、Oh-ol Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける研究報内容、研究討議における積極性や論理性、研究成果レポートの内容、学会への参加・発表、研究に対する全般的な姿勢等を総合的に評価する。環境設備研究者として、理解すべき水準に達している

か否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

指導テーマ

- ①太陽エネルギーの利用可能性検証
太陽熱の暖房利用を目的とした蓄熱・集熱装置の開発
都市表層の日射反射率がヒートアイランドに及ぼす影響の解析
- ②熱・空気移動現象の解明
冷暖房室内の温熱環境実測・気流解析
壁面における熱伝達現象の実測・数値解析
建物出入り口における外気侵入現象の実測・数値解析
- ③環境共生手法の効果検証
通風・夜間換気・地中熱利用の効果検証
環境共生住宅の温熱環境の実測評価
- ④人体の快適性評価
日射・熱放射環境解析手法の構築
温冷感指標・人体生理反応モデルの構築

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	酒井 孝司	

授業の概要・到達目標

概要：地球環境問題の顕在化に伴い、建物の環境負荷低減が極めて重要な課題となっている。建物における環境負荷の大部分は、建築環境・設備分野が担っており、長期的な対策を講じる必要がある。熱・空気環境分野においては、自然エネルギーの有効利用やエネルギー消費量の低減手法に関する研究の推進が急務となっている。環境負荷低減方法は、建物内の熱移動プロセスの基本的特性と気候特性の組み合わせにより構築される。従って、建築内外の物理現象を建築計画原論的なアプローチで個別に評価することが、新たな手法構築の基礎になると考えられる。これらを背景に、建築環境・建築設備研究2に引き続き、実測・数値解析手法を用いた物理現象の基本特性把握、非定常室内温熱環境数値予測法の確立に関する研究を行う。個別の研究テーマとして、自然エネルギーの利用可能性検証、環境共生手法の効果検証、熱・空気移動現象の解明、熱・湿気移動現象の解明などが挙げられる。

到達目標：本講義では、ミーティングにおける研究報告、研究討議における積極性や論理性を講義で実践的に行い、学会への参加・発表可能な水準に達することを到達目標とする。

授業内容

- [第1回] 研究計画の再構築
- [第2回～13回] 研究進捗状況のレポート
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

建築環境・設備に関する科目を受講していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義では、各自研究テーマの進捗状況を毎回確認する。時間外に、各自研究テーマに対する学会誌等の文献調査、予備検討、プレゼン資料作成等を行う。

教科書

特になし。適宜、資料配布。

参考書

特になし。適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートの解説および点数については、Oh-oi Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける研究報内容、研究討議における積極性や論理性、研究成果レポートの内容、学会への参加・発表、研究に対する全般的な姿勢等を総合的に評価する。環境設備研究者として、理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

指導テーマ

- ①太陽エネルギーの利用可能性検証
太陽熱の暖房利用を目的とした蓄熱・集熱装置の開発
都市表層の日射反射率がヒートアイランドに及ぼす影響の解析
- ②熱・空気移動現象の解明
冷暖房室内の温熱環境実測・気流解析
壁面における熱伝達現象の実測・数値解析
建物出入り口における外気侵入現象の実測・数値解析
- ③環境共生手法の効果検証
通風・夜間換気・地中熱利用の効果検証
環境共生住宅の温熱環境の実測評価
- ④人体の快適性評価
日射・熱放射環境解析手法の構築
温冷感指標・人体生理反応モデルの構築

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	酒井 孝司	

授業の概要・到達目標

概要：地球環境問題の顕在化に伴い、建物の環境負荷低減が極めて重要な課題となっている。建物における環境負荷の大部分は、建築環境・設備分野が担っており、長期的な対策を講じる必要がある。熱・空気環境分野においては、自然エネルギーの有効利用やエネルギー消費量の低減手法に関する研究の推進が急務となっている。環境負荷低減方法は、建物内の熱移動プロセスの基本的特性と気候特性の組み合わせにより構築される。従って、建築内外の物理現象を建築計画原論的なアプローチで個別に評価することが、新たな手法構築の基礎になると考えられる。これらを背景に、建築環境・建築設備研究3に引き続き、実測・数値解析手法を用いた物理現象の基本特性把握、非定常室内温熱環境数値予測法の確立に関する研究を行う。個別の研究テーマとして、自然エネルギーの利用可能性検証、環境共生手法の効果検証、熱・空気移動現象の解明、熱・湿気移動現象の解明などが挙げられる。

到達目標：本講義では、ミーティングにおける研究報告、研究討議における積極性や論理性を講義で実践に行い、修士論文を完成させることを到達目標とする。

授業内容

- [第1回] 研究計画の再確認
- [第2回～13回] 研究進捗状況および修士論文の進捗状況レポート
- [第14回] 論文内容の最終確認

履修上の注意

建築環境・設備に関する科目を受講していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義では、各自研究テーマの進捗状況を毎回確認する。時間外に、修士論文作成、プレゼン資料作成等を行う。

教科書

特になし。適宜、資料配布。

参考書

特になし。適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートの解説および点数については、Oh-oi Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける研究報内容、研究討議における積極性や論理性、研究成果レポートの内容、学会への参加・発表、研究に対する全般的な姿勢等を総合的に評価する。環境設備研究者として、理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

指導テーマ

- ①太陽エネルギーの利用可能性検証
太陽熱の暖房利用を目的とした蓄熱・集熱装置の開発
都市表層の日射反射率がヒートアイランドに及ぼす影響の解析
- ②熱・空気移動現象の解明
冷暖房室内の温熱環境実測・気流解析
壁面における熱伝達現象の実測・数値解析
建物出入り口における外気侵入現象の実測・数値解析
- ③環境共生手法の効果検証
通風・夜間換気・地中熱利用の効果検証
環境共生住宅の温熱環境の実測評価
- ④人体の快適性評価
日射・熱放射環境解析手法の構築
温冷感指標・人体生理反応モデルの構築

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(工学)	晉	沂雄

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

本講義では日本のみならず世界各地の地震被害を軽減すべく、コンクリート系建物の耐震性能を検討・評価するとともに、その耐震性能を向上させるための研究に取り組む。より具体的には、代表的な構造形式である鉄筋コンクリート(RC)構造、鋼材に緊張力を与え長スパン化・軽量化したプレストレストコンクリート(PC)構造、また無補強組積造(URM)壁を有するRC造建物における耐震安全性を実験および解析的に検討する。そして各種設計指針や規準等に盛り込むことを目指し、その成果の実用化に向けた研究を行う。

〈授業の目標〉

研究の推進に当たり、既往の研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員並びに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

- [第1回] 研究テーマの解説、研究の進め方
- [第2回] 既往研究・関連文献の調査1
- [第3回] 既往研究・関連文献の調査2
- [第4回] 研究計画の立案1
- [第5回] 研究計画の立案2
- [第6回] 研究進捗状況の報告1
- [第7回] 研究進捗状況の報告2
- [第8回] 研究進捗状況の報告3
- [第9回] 研究進捗状況の報告4
- [第10回] 研究進捗状況の報告5
- [第11回] 研究進捗状況の報告6
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

〈研究テーマの例〉

- 1) 鉄筋コンクリート(RC)構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 2) プレストレストコンクリート(PC)構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 3) 無補強組積造(URM)壁を有するRC構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
- など。

履修上の注意

研究テーマは、鉄筋コンクリート構造及び建築構造分野に関する科目との関連性が深いので、これらの科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究分野の既往の研究を十分に探求することが最も重要であり、理解した内容を討論することが望まれる。

教科書

日本建築学会出版の構造関係書籍

参考書

日本建築学会、日本コンクリート工学会、日本地震工学会、ACI、FEMA、EERI等の指針及び学術論文誌

成績評価の方法

研究発表及び研究打ち合わせにおける研究報告並びに研究の進捗状況に基づいて成績を評価する。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(工学)	晉	沂雄

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

本講義では日本のみならず世界各地の地震被害を軽減すべく、コンクリート系建物の耐震性能を検討・評価するとともに、その耐震性能を向上させるための研究に取り組む。より具体的には、代表的な構造形式である鉄筋コンクリート(RC)構造、鋼材に緊張力を与え長スパン化・軽量化したプレストレストコンクリート(PC)構造、また無補強組積造(URM)壁を有するRC造建物における耐震安全性を実験および解析的に検討する。そして各種設計指針や規準等に盛り込むことを目指し、その成果の実用化に向けた研究を行う。

〈授業の目標〉

研究の推進に当たり、既往の研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員並びに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認及び研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 研究進捗状況の報告9
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

〈研究テーマの例〉

- 1) 鉄筋コンクリート(RC)構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 2) プレストレストコンクリート(PC)構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 3) 無補強組積造(URM)壁を有するRC構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
- など。

履修上の注意

研究テーマは、鉄筋コンクリート構造及び建築構造分野に関する科目との関連性が深いので、これらの科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究分野の既往の研究を十分に探求することが最も重要であり、理解した内容を討論することが望まれる。

教科書

日本建築学会出版の構造関係書籍

参考書

日本建築学会, 日本コンクリート工学会, 日本地震工学会, ACI, FEMA, EERI等の指針及び学術論文誌

成績評価の方法

研究発表及び研究打ち合わせにおける研究報告並びに研究の進捗状況に基づいて成績を評価する。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(工学)	晉	沂雄

参考書

日本建築学会, 日本コンクリート工学会, 日本地震工学会, ACI, FEMA, EERI等の指針及び学術論文誌

成績評価の方法

研究発表及び研究打ち合わせにおける研究報告並びに研究の進捗状況に基づいて成績を評価する。

その他

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

本講義では日本のみならず世界各地の地震被害を軽減すべく、コンクリート系建物の耐震性能を検討・評価するとともに、その耐震性能を向上させるための研究に取り組む。より具体的には、代表的な構造形式である鉄筋コンクリート(RC)構造、鋼材に緊張力を与え長スパン化・軽量化したプレストレストコンクリート(PC)構造、また無補強組積造(URM)壁を有するRC造建物における耐震安全性を実験および解析的に検討する。そして各種設計指針や規準等に盛り込むことを目指し、その成果の実用化に向けた研究を行う。

〈授業の目標〉

研究の推進に当たり、既往の研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員並びに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認及び研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 研究進捗状況の報告9
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

〈研究テーマの例〉

- 1) 鉄筋コンクリート(RC)構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 2) プレストレストコンクリート(PC)構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 3) 無補強組積造(URM)壁を有するRC構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
- など。

履修上の注意

研究テーマは、鉄筋コンクリート構造及び建築構造分野に関する科目との関連性が深いので、これらの科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究分野の既往の研究を十分に探求することが最も重要であり、理解した内容を討論することが望まれる。

教科書

日本建築学会出版の構造関係書籍

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻 (建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士 (工学)	晉	沂雄

参考書

日本建築学会, 日本コンクリート工学会, 日本地震工学会, ACI, FEMA, EERI等の指針及び学術論文誌

成績評価の方法

研究発表及び研究打ち合わせにおける研究報告並びに研究の進捗状況に基づいて成績を評価する。

その他

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

本講義では日本のみならず世界各地の地震被害を軽減すべく、コンクリート系建物の耐震性能を検討・評価するとともに、その耐震性能を向上させるための研究に取り組む。より具体的には、代表的な構造形式である鉄筋コンクリート (RC) 構造, 鋼材に緊張力を与え長スパン化・軽量化したプレストレストコンクリート (PC) 構造, また無補強組積造 (URM) 壁を有するRC造建物における耐震安全性を実験および解析的に検討する。そして各種設計指針や規準等に盛り込むことを目指し、その成果の実用化に向けた研究を行う。

〈授業の目標〉

研究の推進に当たり、既往の研究・関連文献の調査、研究計画の立案、研究の進捗状況の報告を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員並びに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認及び研究計画の見直し
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3回] 研究進捗状況の報告1
- [第4回] 研究進捗状況の報告2
- [第5回] 研究進捗状況の報告3
- [第6回] 研究進捗状況の報告4
- [第7回] 研究進捗状況の報告5
- [第8回] 研究進捗状況の報告6
- [第9回] 研究進捗状況の報告7
- [第10回] 研究進捗状況の報告8
- [第11回] 研究進捗状況の報告9
- [第12回] 研究発表用資料の作成
- [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
- [第14回] 研究発表

〈研究テーマの例〉

- 1) 鉄筋コンクリート (RC) 構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 2) プレストレストコンクリート (PC) 構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
 - 3) 無補強組積造 (URM) 壁を有するRC構造における耐震性能の評価及び向上化に関する研究
- など。

履修上の注意

研究テーマは、鉄筋コンクリート構造及び建築構造分野に関する科目との関連性が深いので、これらの科目を履修していることが望ましい。

準備学習 (予習・復習等) の内容

研究分野の既往の研究を十分に探求することが最も重要であり、理解した内容を討論することが望まれる。

教科書

日本建築学会出版の構造関係書籍

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(工学) 富澤 徹弥		

授業の概要・到達目標

(到達目標)

構造技術者にとって現状の建築構造に関する問題点の抽出・提起とその解決法の解明、技術の改良および新技術の開発は極めて重要な課題であり、構造技術者をを目指す者はこれらに対応する能力を養成する必要がある。

建築構造・建築材料研究1では、耐震設計や構造物の振動制御などに関する新しい技術を課題とし、その研究を行うために必要な既往の研究・関連文献の調査、既往の技術の問題点の抽出・提起とその解決法の解明などを行い、研究計画を立案する。これらの研究を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに学外の研究者や実務者とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

[第1回] 研究の進め方、研究テーマの解説

[第2回] ～ [第13回] 既往研究・関連文献の調査

研究計画の立案

研究進捗状況の報告

研究発表用資料の作成

研究発表のプレゼンテーションの準備・練習

[第14回] 研究成果の報告と講評

(研究テーマの例)

建築構造・建築材料研究の具体的な課題例を以下に記す。

- 1) 構造物の振動制御に関する研究
- 2) 応答制御構造の設計法に関する研究
- 3) 建築構造に用いる特殊材料・構法に関する研究
- 4) 大振幅地震動に対する構造物の挙動に関する研究

など

履修上の注意

建築構造・建築材料研究1で扱う内容は、建築構造に関する科目との関連が深いため、建築構造に関する科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと

授業前：各自のテーマ・課題について関連する資料を収集し、その概要を理解しておくこと。また、その内容を資料としてまとめ、授業時に提出・配布すること

授業後：各自のテーマ・課題に対する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

参考書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の担当回におけるゼミ発表に対して、授業時間内にフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価の配点は研究への取り組み20%、研究計画の立案40%・発表40%とし、合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(工学) 富澤 徹弥		

授業の概要・到達目標

(到達目標)

構造技術者にとって現状の建築構造に関する問題点の抽出・提起とその解決法の解明、技術の改良および新技術の開発は極めて重要な課題であり、構造技術者をを目指す者はこれらに対応する能力を養成する必要がある。

建築構造・建築材料研究2では、建築構造・建築材料研究1で立案した研究計画に基づき、耐震設計や構造物の振動制御などの新しい技術の研究を行うとともにその成果を論文としてまとめることにより、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

[第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し

[第2回] 研究計画の再構築

[第3回] ～ [第10回] 研究進捗状況の報告

[第11回] ～ [第12回] 研究発表用資料の作成

[第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習

[第14回] 研究発表

(研究テーマの例)

建築構造・建築材料研究の具体的な課題例を以下に記す。

- 1) 構造物の振動制御に関する研究
- 2) 応答制御構造の設計法に関する研究
- 3) 建築構造に用いる特殊材料・構法に関する研究
- 4) 大振幅地震動に対する構造物の挙動に関する研究

など

履修上の注意

建築構造・建築材料研究2で扱う内容は、建築構造に関する科目との関連が深いため、建築構造に関する科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと

授業前：各自のテーマ・課題について関連する資料を収集し、その概要を理解しておくこと。また、その内容を資料としてまとめ、授業時に提出・配布すること

授業後：各自のテーマ・課題に対する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

参考書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の担当回におけるゼミ発表に対して、授業時間内にフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価の配点は研究への取り組み20%、研究計画の立案40%・発表40%とし、合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(工学) 富澤 徹弥		

授業の概要・到達目標

(到達目標)

構造技術者にとって現状の建築構造に関する問題点の抽出・提起とその解決法の解明、技術の改良および新技術の開発は極めて重要な課題であり、構造技術者をを目指す者はこれらに対応する能力を養成する必要がある。

建築構造・建築材料研究3では、耐震設計や構造物の振動制御などに関する新しい技術を課題とし、その研究を行うために必要な既往の研究・関連文献の調査、既往の技術の問題点の抽出・提起とその解決法の解明などを行い、研究計画を立案する。これらの研究を通じて、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を修得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに学外の研究者や実務者とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

- [第1回] 研究の進め方、研究テーマの確認
 [第2回] ～ [第13回] 既往研究・関連文献の調査
 研究計画の立案
 研究進捗状況の報告
 研究発表用資料の作成
 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
 [第14回] 研究成果の報告と講評
 〈研究テーマの例〉
 建築構造・建築材料研究の具体的な課題例を以下に記す。
 1) 構造物の振動制御に関する研究
 2) 応答制御構造の設計法に関する研究
 3) 建築構造に用いる特殊材料・構法に関する研究
 4) 大振幅地震動に対する構造物の挙動に関する研究
 など

履修上の注意

建築構造・建築材料研究3で扱う内容は、建築構造に関する科目との関連が深いため、建築構造に関する科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと
 授業前：各自のテーマ・課題について関連する資料を収集し、その概要を理解しておくこと。また、その内容を資料としてまとめ、授業時に提出・配布すること
 授業後：各自のテーマ・課題に対する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

参考書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の担当回におけるゼミ発表に対して、授業時間内にフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価の配点は研究への取り組み20%、研究計画の立案40%・発表40%とし、合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築構造・建築材料研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(工学) 富澤 徹弥		

授業の概要・到達目標

(到達目標)

構造技術者にとって現状の建築構造に関する問題点の抽出・提起とその解決法の解明、技術の改良および新技術の開発は極めて重要な課題であり、構造技術者をを目指す者はこれらに対応する能力を養成する必要がある。

建築構造・建築材料研究4では、建築構造・建築材料研究3で立案した研究計画に基づき、耐震設計や構造物の振動制御などの新しい技術の研究を行うとともにその成果を論文としてまとめることにより、建築構造に関する専門知識とそれを研究へ応用する能力を習得することを目的としている。また、各自の研究内容に関するプレゼンテーションを行い、指導教員ならびに研究発表会における複数の教員とのディスカッションを通じてコミュニケーション能力とコーディネート能力を習得することを目的としている。

授業内容

- [第1回] 研究の進捗状況の確認と研究計画の見直し
 [第2回] 研究計画の再構築
 [第3回] ～ [第10回] 研究進捗状況の報告
 [第11回] ～ [第12回] 研究発表用資料の作成
 [第13回] 研究発表のプレゼンテーションの準備・練習
 [第14回] 研究発表
 〈研究テーマの例〉
 建築構造・建築材料研究の具体的な課題例を以下に記す。
 1) 構造物の振動制御に関する研究
 2) 応答制御構造の設計法に関する研究
 3) 建築構造に用いる特殊材料・構法に関する研究
 4) 大振幅地震動に対する構造物の挙動に関する研究
 など

履修上の注意

建築構造・建築材料研究4で扱う内容は、建築構造に関する科目との関連が深いため、建築構造に関する科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者各自のテーマ・課題について、次のことを準備学習として行うこと
 授業前：各自のテーマ・課題について関連する資料を収集し、その概要を理解しておくこと。また、その内容を資料としてまとめ、授業時に提出・配布すること
 授業後：各自のテーマ・課題に対する質疑・指摘事項への回答、補足資料を作成すること

教科書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

参考書

特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の担当回におけるゼミ発表に対して、授業時間内にフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価の配点は研究への取り組み20%、研究計画の立案40%・発表40%とし、合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	樋山 恭助	

授業の概要・到達目標

建築におけるエネルギー使用に関わるテーマについて、コンピューターシミュレーション技術を用いた分析、フィールド調査及び実験を通じて研究を行う。

建築を通じたエネルギー消費の多寡は、建築の形、外皮計画や設置される設備等、多くの要素が有機的に組み合わさった結果として決まる。この複雑系を理解し、建築使用者に快適な環境を提供しながらも、周囲環境への負荷を最低限に抑える建築のデザイン手法について見識を深める。

授業内容

- [第1回] 研究の進め方の解説
- [第2回] 研究テーマの検討
- [第3回] 研究計画の立案
- [第4―6回] 研究背景の調査、既往研究・関連文献の調査
- [第7―13回] 研究進捗の報告と討論
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

特に無し。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに限らず、関係するテーマに対して興味を持ち、建築環境設備全般の知識を深めること。

教科書

指定なし。

参考書

研究テーマごとに指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は講義内に行う。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける自身の研究テーマに関する研究報告の内容、及び他の研究テーマに関する討論への参加から、論理性及び積極性をふまえ総合的に評価する。

その他

指導テーマ

- ・建築物の環境性能評価
- ・建築物における省エネ設備開発
- ・地域におけるエネルギー需給構造の把握と最適化 等

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	樋山 恭助	

授業の概要・到達目標

建築におけるエネルギー使用に関わるテーマについて、コンピューターシミュレーション技術を用いた分析、フィールド調査及び実験を通じて研究を行う。

建築を通じたエネルギー消費の多寡は、建築の形、外皮計画や設置される設備等、多くの要素が有機的に組み合わさった結果として決まる。この複雑系を理解し、建築使用者に快適な環境を提供しながらも、周囲環境への負荷を最低限に抑える建築のデザイン手法について見識を深める。

授業内容

- [第1回] 研究テーマの再確認
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3―13回] 研究進捗の報告と討論
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

特に無し。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに限らず、関係するテーマに対して興味を持ち、建築環境設備全般の知識を深めること。

教科書

指定なし。

参考書

研究テーマごとに指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は講義内に行う。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける自身の研究テーマに関する研究報告の内容、及び他の研究テーマに関する討論への参加から、論理性及び積極性をふまえ総合的に評価する。

その他

指導テーマ

- ・建築物の環境性能評価
- ・建築物における省エネ設備開発
- ・地域におけるエネルギー需給構造の把握と最適化 等

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	樋山 恭助	

授業の概要・到達目標

建築におけるエネルギー使用に関わるテーマについて、コンピューターシミュレーション技術を用いた分析、フィールド調査及び実験を通じて研究を行う。

建築を通じたエネルギー消費の多寡は、建築の形、外皮計画や設置される設備等、多くの要素が有機的に組み合わさった結果として決まる。この複雑系を理解し、建築使用者に快適な環境を提供しながらも、周囲環境への負荷を最低限に抑える建築のデザイン手法について見識を深める。

授業内容

- [第1回] 研究テーマの最終決定
- [第2回] 研究計画の再構築
- [第3—13回] 研究進捗の報告と討論
- [第14回] 研究成果レポートの提出

履修上の注意

特に無し。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに限らず、関係するテーマに対して興味を持ち、建築環境設備全般の知識を深めること。

教科書

指定なし。

参考書

研究テーマごとに指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は講義内に行う。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける自身の研究テーマに関する研究報告の内容、及び他の研究テーマに関する討論への参加から、論理性及び積極性をふまえて総合的に評価する。

その他

指導テーマ

- ・建築物の環境性能評価
- ・建築物における省エネ設備開発
- ・地域におけるエネルギー需給構造の把握と最適化 等

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学)	樋山 恭助	

授業の概要・到達目標

建築におけるエネルギー使用に関わるテーマについて、コンピューターシミュレーション技術を用いた分析、フィールド調査及び実験を通じて研究を行う。

建築を通じたエネルギー消費の多寡は、建築の形、外皮計画や設置される設備等、多くの要素が有機的に組み合わさった結果として決まる。この複雑系を理解し、建築使用者に快適な環境を提供しながらも、周囲環境への負荷を最低限に抑える建築のデザイン手法について見識を深める。

授業内容

- [第1回] 研究計画の再構築
- [第2—13回] 研究進捗の報告と討論
- [第14回] 修士論文審査

履修上の注意

特に無し。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究テーマに限らず、関係するテーマに対して興味を持ち、建築環境設備全般の知識を深めること。

教科書

指定なし。

参考書

研究テーマごとに指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は講義内に行う。

成績評価の方法

研究ミーティングにおける自身の研究テーマに関する研究報告の内容、及び他の研究テーマに関する討論への参加から、論理性及び積極性をふまえて総合的に評価する。

その他

指導テーマ

- ・建築物の環境性能評価
- ・建築物における省エネ設備開発
- ・地域におけるエネルギー需給構造の把握と最適化 等

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任講師 博士(工学)	光永 威彦	

授業の概要・到達目標

給排水衛生設備に関わる研究テーマを個別に設定し、研究の「文献等調査」「計画の立案」「実行」「まとめ」「プレゼンテーション」という過程を通して、建築設備の専門知識を習得すること、および建築技術者に求められる問題解決能力やコミュニケーション能力を習得することを目標とする。

授業内容

- [第1回] ガイダンス
- [第2～5回] 既往文献等の調査、研究計画の立案
- [第6回] 研究計画の発表
- [第7～12回] 研究進捗状況の報告・討論
- [第13回] 研究発表の準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

研究テーマは、建築設備、建築環境に関する科目との関連が深いため、これらの関連科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者のテーマ・課題について、授業前に各自のテーマ・課題に関する資料を事前に作成して授業時に提出・配布すること。授業後には授業での指摘事項への回答、補足資料の作成をすること。

教科書

特に定めない。テーマに応じて関連資料を配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する解説は、次回以降の課題に対する発表をうけて討論の中で実施する。

成績評価の方法

研究の取り組み方で評価する。建築設備技術者として、理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

特になし。

指導テーマ

給排水衛生設備の最適化
 拡張排水システムの適用と設計法
 建物内の水の見える化 など

進行計画

授業内容を参照

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任講師 博士(工学)	光永 威彦	

授業の概要・到達目標

給排水衛生設備に関わる研究テーマを個別に設定し、研究の「文献等調査」「計画の立案」「実行」「まとめ」「プレゼンテーション」という過程を通して、建築設備の専門知識を習得すること、および建築技術者に求められる問題解決能力やコミュニケーション能力を習得することを目標とする。

建築環境・建築設備研究2では、建築環境・建築設備研究1の内容を継続し、研究を進める。

授業内容

- [第1回] ガイダンス
- [第2～12回] 研究進捗状況の報告・討論
- [第13回] 研究発表の準備・練習
- [第14回] 研究発表

履修上の注意

研究テーマは、建築設備、建築環境に関する科目との関連が深いため、これらの関連科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者のテーマ・課題について、授業前に各自のテーマ・課題に関する資料を事前に作成して授業時に提出・配布すること。授業後には授業での指摘事項への回答、補足資料の作成をすること。

教科書

特に定めない。テーマに応じて関連資料を配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する解説は、次回以降の課題に対する発表をうけて討論の中で実施する。

成績評価の方法

研究の取り組み方で評価する。建築設備技術者として、理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

特になし。

指導テーマ

給排水衛生設備の最適化
 拡張排水システムの適用と設計法
 建物内の水の見える化 など

進行計画

授業内容を参照

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任講師 博士(工学)	光永 威彦	

授業の概要・到達目標

給排水衛生設備に関わる研究テーマを個別に設定し、研究の「文献等調査」「計画の立案」「実行」「まとめ」「プレゼンテーション」という過程を通して、建築設備の専門知識を習得すること、および建築技術者に求められる問題解決能力やコミュニケーション能力を習得することを目標とする。

授業内容

[第1～12回] 研究進捗状況の報告・討論
[第13回] 研究発表の準備・練習
[第14回] 研究発表

履修上の注意

研究テーマは、建築設備、建築環境に関する科目との関連が深いため、これらの関連科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者のテーマ・課題について、授業前に各自のテーマ・課題に関する資料を事前に作成して授業時に提出・配布すること。授業後には授業での指摘事項への回答、補足資料の作成をすること。

教科書

特に定めない。テーマに応じて関連資料を配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する解説は、次回以降の課題に対する発表をうけて討論の中で実施する。

成績評価の方法

研究の取り組み方で評価する。その下限は60%とする。

その他

特になし。

指導テーマ

給排水衛生設備の最適化
拡張排水システムの適用と設計法
建物内の水の見える化 など

進行計画

授業内容を参照

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境・建築設備研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任講師 博士(工学)	光永 威彦	

授業の概要・到達目標

給排水衛生設備に関わる研究テーマを個別に設定し、研究の「文献等調査」「計画の立案」「実行」「まとめ」「プレゼンテーション」という過程を通して、建築設備の専門知識を習得すること、および建築技術者に求められる問題解決能力やコミュニケーション能力を習得することを目標とする。

授業内容

[第1～12回] 研究進捗状況の報告・討論
[第13回] 研究発表の準備・練習
[第14回] 発表会

履修上の注意

研究テーマは、建築設備、建築環境に関する科目との関連が深いため、これらの関連科目を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者のテーマ・課題について、授業前に各自のテーマ・課題に関する資料を事前に作成して授業時に提出・配布すること。授業後には授業での指摘事項への回答、補足資料の作成をすること。

教科書

特に定めない。テーマに応じて関連資料を配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する解説は、次回以降の課題に対する発表をうけて討論の中で実施する。

成績評価の方法

評価は、①自己学習・研究への取り組み(合計20点)、②論文の内容(合計40点)、③口頭発表と質疑応答(合計40点)で行う。なお、評価は指導教員が行う。

①は、毎週の卒業研究の指導時に確認する。②③は、環境・設備系修士論文発表会時に確認する。合格の下限を60%とする。

その他

特になし。

指導テーマ

給排水衛生設備の最適化
拡張排水システムの適用と設計法
建物内の水の見える化 など

進行計画

授業内容を参照

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任講師 博士(学術)	連	勇太郎

授業の概要・到達目標

ソーシャルイノベーション(=社会変革)としての建築を構想し探求することを目的とする。現代社会は高次元の不確実性と複雑性によって、解決や定義が困難な様々な社会的課題(=wicked problem)に直面しており、こうした背景を踏まえ、建築(=設計、建築物、空間、環境、思考方法、デザイン)を、社会を漸進的に改革・改良していくための方法論として積極的に捉え、その実現のために必要な「設計方法」や「計画理論」を探求する。

授業内容

[第1回] ガイダンス
 [第2回] 発表, 討論
 [第3回] 発表, 討論
 [第4回] 発表, 討論
 [第5回] 発表, 討論
 [第6回] 発表, 討論
 [第7回] 発表, 討論
 [第8回] 発表, 討論
 [第9回] 発表, 討論
 [第10回] 発表, 討論
 [第11回] 発表, 討論
 [第12回] 発表, 討論
 [第13回] 発表, 討論
 [第14回] 研究発表会

履修上の注意

なし

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の十分な準備をすること

教科書

なし

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%, 中間発表20%, 最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

なし

指導テーマ

- ・社会変革としての建築
- ・INVISIBLE SLUM(見えないスラム)
- ・コモンズアプローチ
- ・Research through Design

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任講師 博士(学術)	連	勇太郎

授業の概要・到達目標

ソーシャルイノベーション(=社会変革)としての建築を構想し探求することを目的とする。現代社会は高次元の不確実性と複雑性によって、解決や定義が困難な様々な社会的課題(=wicked problem)に直面しており、こうした背景を踏まえ、建築(=設計、建築物、空間、環境、思考方法、デザイン)を、社会を漸進的に改革・改良していくための方法論として積極的に捉え、その実現のために必要な「設計方法」や「計画理論」を探求する。

授業内容

[第1回] ガイダンス
 [第2回] 発表, 討論
 [第3回] 発表, 討論
 [第4回] 発表, 討論
 [第5回] 発表, 討論
 [第6回] 発表, 討論
 [第7回] 発表, 討論
 [第8回] 発表, 討論
 [第9回] 発表, 討論
 [第10回] 発表, 討論
 [第11回] 発表, 討論
 [第12回] 発表, 討論
 [第13回] 発表, 討論
 [第14回] 研究発表会

履修上の注意

なし

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の十分な準備をすること

教科書

なし

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%, 中間発表20%, 最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

なし

指導テーマ

- ・社会変革としての建築
- ・INVISIBLE SLUM(見えないスラム)
- ・コモンズアプローチ
- ・Research through Design

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任講師 博士(学術)	連	勇太郎

授業の概要・到達目標

ソーシャルイノベーション(=社会変革)としての建築を構想し探求することを目的とする。現代社会は高次元の不確実性と複雑性によって、解決や定義が困難な様々な社会的課題(=wicked problem)に直面しており、こうした背景を踏まえ、建築(=設計、建築物、空間、環境、思考方法、デザイン)を、社会を漸進的に改革・改良していくための方法論として積極的に捉え、その実現のために必要な「設計方法」や「計画理論」を探求する。

授業内容

[第1回] ガイダンス
 [第2回] 発表, 討論
 [第3回] 発表, 討論
 [第4回] 発表, 討論
 [第5回] 発表, 討論
 [第6回] 発表, 討論
 [第7回] 発表, 討論
 [第8回] 発表, 討論
 [第9回] 発表, 討論
 [第10回] 発表, 討論
 [第11回] 発表, 討論
 [第12回] 発表, 討論
 [第13回] 発表, 討論
 [第14回] 研究発表会

履修上の注意

なし

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の十分な準備をすること

教科書

なし

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%, 中間発表20%, 最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

なし

指導テーマ

- ・社会変革としての建築
- ・INVISIBLE SLUM(見えないスラム)
- ・コモンズアプローチ
- ・Research through Design

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任講師 博士(学術)	連	勇太郎

授業の概要・到達目標

ソーシャルイノベーション(=社会変革)としての建築を構想し探求することを目的とする。現代社会は高次元の不確実性と複雑性によって、解決や定義が困難な様々な社会的課題(=wicked problem)に直面しており、こうした背景を踏まえ、建築(=設計、建築物、空間、環境、思考方法、デザイン)を、社会を漸進的に改革・改良していくための方法論として積極的に捉え、その実現のために必要な「設計方法」や「計画理論」を探求する。

授業内容

[第1回] ガイダンス
 [第2回] 発表, 討論
 [第3回] 発表, 討論
 [第4回] 発表, 討論
 [第5回] 発表, 討論
 [第6回] 発表, 討論
 [第7回] 発表, 討論
 [第8回] 発表, 討論
 [第9回] 発表, 討論
 [第10回] 発表, 討論
 [第11回] 発表, 討論
 [第12回] 発表, 討論
 [第13回] 発表, 討論
 [第14回] 研究発表会

履修上の注意

なし

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の十分な準備をすること

教科書

なし

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

発表内容と議論への貢献50%, 中間発表20%, 最終発表30%とし、合計60%以上を合格とする。

その他

なし

指導テーマ

- ・社会変革としての建築
- ・INVISIBLE SLUM(見えないスラム)
- ・コモンズアプローチ
- ・Research through Design

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	山本	俊哉

授業の概要・到達目標

既往の都市計画の枠組みにとらわれず、現実の都市や都市計画が抱えている問題や課題から研究テーマを設定し、多角的な視点から先行研究のレビューや事例研究などのフィジビリティ・スタディを重ね、研究計画を遂行する。

授業内容

- [第1回] 研究の進め方と研究計画の方法
- [第2回] 先行研究のレビュー
- [第3回] フィジビリティ・スタディ1
- [第4回] フィジビリティ・スタディ2
- [第5回] フィジビリティ・スタディ3
- [第6回] 研究計画の立案と修正1
- [第7回] 研究計画の立案と修正2
- [第8回] 研究の進捗状況の報告1
- [第9回] 研究の進捗状況の報告2
- [第10回] 研究の進捗状況の報告3
- [第11回] 研究の進捗状況の報告4
- [第12回] 研究の進捗状況の報告5
- [第13回] 研究の進捗状況の報告6
- [第14回] 中間発表会

履修上の注意

自ら研究計画を立案して着実に遂行すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジュメ・資料を作成して授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、内容に応じて、参考図書や参考事例などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎月1回の合同発表会にて研究の進捗状況を点検するとともに、発表内容について講評してフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価の配点は、研究への取り組み20%、最終提出物80%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

指導テーマ

主な研究ジャンル:都市計画・まちづくりのプロジェクトに関する事例研究/建築・都市のリノベーションのプロジェクトに関する事例研究/エビデンスに基づいた安全・安心(防災・事故・犯罪予防等)に関する研究/住民参加や地域のコラボレーションを促進する計画技術に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC519J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術)	山本	俊哉

授業の概要・到達目標

既往の都市計画の枠組みにとらわれず、現実の都市や都市計画が抱えている問題や課題、先行研究の知見等から研究目的と仮説を設定し、文献スタディやフィールドワーク、関係者インタビュー、事例研究、データベースの作成等を重ね、研究計画を遂行する。

授業内容

- [第1回] 研究計画の確認と見直し
- [第2回] 研究の進捗状況の報告1
- [第3回] 研究の進捗状況の報告2
- [第4回] 研究の進捗状況の報告3
- [第5回] 研究の進捗状況の報告4
- [第6回] 研究の進捗状況の報告5
- [第7回] 研究の進捗状況の報告6
- [第8回] 研究の進捗状況の報告7
- [第9回] 研究の進捗状況の報告8
- [第10回] 中間発表会
- [第11回] 研究の進捗状況の報告9
- [第12回] 研究の進捗状況の報告10
- [第13回] 研究成果のとりまとめ
- [第14回] 発表会

履修上の注意

自ら研究計画を立案して着実に遂行すること。
発表会では、研究の目的と方法、得られた結論と課題等をまとめたものを提出すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジュメ・資料を作成して授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、内容に応じて、参考図書や参考事例などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎月1回の合同発表会にて研究の進捗状況を点検するとともに、発表内容について講評してフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価の配点は、研究への取り組み20%、最終提出物80%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

指導テーマ

主な研究ジャンル:都市計画・まちづくりのプロジェクトに関する事例研究/建築・都市のリノベーションのプロジェクトに関する事例研究/エビデンスに基づいた安全・安心(防災・事故・犯罪予防等)に関する研究/住民参加や地域のコラボレーションを促進する計画技術に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(学術) 山本 俊哉		

授業の概要・到達目標

これまでの研究成果を踏まえて、研究課題を絞り込み、文献スタディやフィールドワーク、関係者インタビュー、事例研究等の本調査を重ね、研究に係る調査結果の分析・評価等、研究計画を遂行する。

授業内容

- [第1回] 研究計画の確認と見直し
- [第2回] 研究の進捗状況の報告1
- [第3回] 研究の進捗状況の報告2
- [第4回] 研究の進捗状況の報告3
- [第5回] 研究の進捗状況の報告4
- [第6回] 研究の進捗状況の報告5
- [第7回] 研究の進捗状況の報告6
- [第8回] 研究の進捗状況の報告7
- [第9回] 研究の進捗状況の報告8
- [第10回] 研究成果の中間発表
- [第11回] 研究の進捗状況の報告9
- [第12回] 研究の進捗状況の報告10
- [第13回] 研究成果のとりまとめ
- [第14回] 中間発表会

履修上の注意

自ら立案した研究計画を着実に遂行すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジュメ・資料を作成して授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、内容に応じて、参考図書や参考事例などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎月1回の合同発表会にて研究の進捗状況を点検するとともに、発表内容について講評してフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価の配点は、研究への取り組み20%、最終提出物80%とし、合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

指導テーマ

主な研究ジャンル:都市計画・まちづくりのプロジェクトに関する事例研究/建築・都市のリノベーションのプロジェクトに関する事例研究/エビデンスに基づいた安全・安心(防災・事故・犯罪予防等)に関する研究/住民参加や地域のコラボレーションを促進する計画技術に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC619J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築・都市計画設計研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(学術) 山本 俊哉		

授業の概要・到達目標

これまでの研究成果を踏まえて、補足調査を実施し、調査結果の分析・評価、研究論文の構成検討・執筆、研究成果の取りまとめ等を進める。

授業内容

- [第1回] 研究計画の確認
- [第2回] 研究の進捗状況の報告1
- [第3回] 研究の進捗状況の報告2
- [第4回] 研究の進捗状況の報告3
- [第5回] 研究の進捗状況の報告4
- [第6回] 研究の進捗状況の報告5
- [第7回] 研究の進捗状況の報告6
- [第8回] 研究成果のとりまとめ1
- [第9回] 研究成果のとりまとめ2
- [第10回] 研究成果のとりまとめ3
- [第11回] 研究成果のとりまとめ4
- [第12回] 研究成果のとりまとめ5
- [第13回] 研究成果のとりまとめ6
- [第14回] 発表会

履修上の注意

自ら立案した研究計画を着実に遂行すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回レジュメ・資料を作成して授業に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

最終成果の発表会にて講評をしてフィードバックするだけでなく、毎月1回の合同発表会にて研究の進捗状況を点検するとともに、発表内容について講評してフィードバックを行う。

成績評価の方法

研究成果の発表内容を総合的に評価する。

その他

指導テーマ

主な研究ジャンル:都市計画・まちづくりのプロジェクトに関する事例研究/建築・都市のリノベーションのプロジェクトに関する事例研究/エビデンスに基づいた安全・安心(防災・事故・犯罪予防等)に関する研究/住民参加や地域のコラボレーションを促進する計画技術に関する研究

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall select a study theme through the research theme guidance by all instructors.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

<Session Topics>

- 1st week: Guidance: each AUDES1 instructor gives a presentation about his/her study topic and students select a topic that he/she is interested in.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

- 11th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 12th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their study.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in each class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
- (3) Acquisition of technical and design expertise.
- (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.

5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

on Tuesdays 12:40-13:30

@ Nakano Campus 7th floor instructors' room

指導テーマ

Architecture and Urban Design

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall continue to work on the study theme that he/she worked on Architecture and Urban Design Studies 1 in the spring semester.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: instructor gives a guidance on continuous research from the last spring semester.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

- 11th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 14th week: Final Presentation: all students present the summary of their study.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in each class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
 (I) Ethics and Conceptual Ability
 (J) Technical and Design Expertise
 (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

on Tuesdays 12:40-13:30

@ Nakano Campus 7th floor instructors' room

指導テーマ

Architecture and Urban Design

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 3		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students set a specific theme of his/her research on architecture and urbanism and explore it through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about the theme.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- ・Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: each student designates his/her primary instructor. Each instructor gives a guidance about the process of thesis study.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 11th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in each class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

on Tuesdays 12:40-13:30

@ Nakano Campus 7th floor instructors' room

指導テーマ

Architecture and Urban Design

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 4		
開講期	秋学期集中	単位	演6
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

According to the research theme that each student sets for AUDES3, each student proposes specific design while applying the findings from the research implemented in AUDES3.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: each student consults with his/her primary instructor and discuss a theme of his/her design project based on his/her findings from the research implemented in AUDES3.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the definition of his/her design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the definition of their design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 9th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project,

reports the results to the instructor and discuss.

10th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

11th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

12th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their design project to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in review sessions as well as in each class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective

(I) Ethics and Conceptual Ability
 (J) Technical and Design Expertise
 (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 (L) Applied Ability of Technical Knowledge.
 〈Office Hours〉
 on Tuesdays 12:40-13:30
 @ Nakano Campus 7th floor instructors' room

指導テーマ

Architecture and Urban Design

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall select a study theme through the research theme guidance by all instructors.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

- 1st week: Guidance: each AUDS1 instructor gives a presentation about his/her study topic and students select a topic that he/she is interested in.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

11th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
 12th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
 13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
 14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their study.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation for the class based on the handouts, and Review of the class through the group discussion are recommended.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and the final presentation (50%). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

< Correspondence to Study/Education Goals of the Department >

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

on Wednesdays 12:30 - 13:00
 @ Nakano Campus 7th floor instructors' room
 email: mkob@gol.com

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall continue to work on the study theme that he/she worked on Architecture and Urban Design Studies 1 in the spring semester.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: instructor gives a guidance on continuous research from the last spring semester.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

11th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
 12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
 13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
 14th week: Final Presentation: all students present the summary of their study.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in each class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
- (3) Acquisition of technical and design expertise.
- (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.

5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

指導テーマ

Architecture and Urban Design

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 3		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students set a specific theme of his/her research on architecture and urbanism and explore it through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about the theme.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- ・Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: each student designates his/her primary instructor. Each instructor gives a guidance about the process of thesis study.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 11th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in each class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
- (3) Acquisition of technical and design expertise.
- (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.

5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

< Correspondence to Study/Education Goals of the Department >

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

< Office Hours >

Consultation by email appointment.

指導テーマ

Architecture and Urban Design

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 4		
開講期	秋学期集中	単位	演6
担当者	専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

According to the research theme that each student sets for AUDES3, each student proposes specific design while applying the findings from the research implemented in AUDES3.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- ・Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: each student consults with his/her primary instructor and discuss a theme of his/her design project based on his/her findings from the research implemented in AUDES3..
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the definition of his/her design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the definition of their design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 9th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project,

reports the results to the instructor and discuss.

10th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

11th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

12th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their design project to all instructors and get feedbacks from instructors.

- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

指導テーマ

Architecture and Urban Design

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in review sessions as well as in each class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
- (3) Acquisition of technical and design expertise.
- (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.

5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(建築学) 田中 友章		

授業の概要・到達目標

Learning Objectives

Based on the knowledge acquired through researches and studies, students propose specific physical environment design and acquire practical strength in architectural and urban design through Architecture and Urban Design Studies 1, 2, 3 and 4.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge

Course Summary

- ・Each student shall decide research and study theme through the construction with an advisor.
- ・Each student shall implement the research and study under the supervision of the advisor
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study to the advisor regularly and discuss.

Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

- 1st week: Guidance: each AUDS1 instructor gives a presentation about his/her study topic and students select a topic that he/she is interested in.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 11th week: each student implements supplemental

- research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 12th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their study.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

Preparation for the class based on the handouts, and Review of the class through the group discussion are recommended.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in class each time.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and final presentation (50 %). A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and broad perspective
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability to technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and Broad Perspective
 - (I) Ethics and Conceptual Ability
 - (J) Technical and Design Expertise
 - (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 - (L) Applied Ability of Technical Knowledge
- [Office Hour]

On Wednesday 12 : 00-13 : 00 at Nakano Campus 7th floor instructors' room
email: tomo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士 (建築学) 田中 友章		

授業の概要・到達目標

Learning Objectives

Based on the knowledge acquired through researches and studies, students propose specific physical environment design and acquire practical strength in architectural and urban design through Architecture and Urban Design Studies 1, 2, 3 and 4.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge

Course Summary

- ・Each student shall continue to work on the study theme that he/she worked on Architecture and Urban Design Studies 1 in the spring semester.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

- 1st week: Guidance: instructor gives a guidance on continuous research from the last spring semester.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

- 11th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 14th week: Final Presentation: all students present the summary of their study.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習 (予習・復習等) の内容

Preparation for the class based on the handouts, and Review of the class through the group discussion are recommended.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in class each time.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and final presentation (50%). A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and broad perspective
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability to technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and Broad Perspective
 - (I) Ethics and Conceptual Ability
 - (J) Technical and Design Expertise
 - (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 - (L) Applied Ability of Technical Knowledge
- [Office Hour]

On Wednesday 12 : 30-13 : 30 at Nakano Campus 7th floor instructors' room
email: tomo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 3		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(建築学) 田中 友章		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students set a specific theme of his/her research on architecture and urbanism and explore it through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about the theme.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- ・Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

- 1st week: Guidance: each student designates his/her primary instructor. Each instructor gives a guidance about the process of thesis study.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 11th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

Preparation for the class based on the handouts, and Review of the class through the group discussion are recommended.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in class each time.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and final presentation (50%). A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and broad perspective
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability to technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge

<Office Hours>

on Wednesdays 12:30 - 13:30 @ Nakano Campus 7th floor instructors' room

email: tomo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 4		
開講期	秋学期集中	単位	演6
担当者	専任教授 博士(建築学) 田中 友章		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

According to the research theme that each student sets for AUDES3, each student proposes specific design while applying the findings from the research implemented in AUDES3.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

- 1st week: Guidance: each student consults with his/her primary instructor and discuss a theme of his/her design project based on his/her findings from the research implemented in AUDES3.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the definition of his/her design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the definition of their design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 9th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 10th week: each student implements field work, research,

and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

11th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

12th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their design project to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

Preparation for the class based on the handouts, and Review of the class through the group discussion are recommended.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in class each time.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and final presentation (50%). A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and broad perspective
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability to technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge

<Office Hours>

on Wednesdays 12:30 - 13:30

@ Nakano Campus 7th floor instructors' room

email: tomo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	特任准教授 博士(工学) 田村 順子		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall select a study theme through the research theme guidance by all instructors.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

- 1st week: Guidance: each AUDS1 instructor gives a presentation about his/her study topic and students select a topic that he/she is interested in.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 11th week: each student implements supplemental

research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

12th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their study.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and the final presentation (50%). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	特任准教授 博士(工学) 田村 順子		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall continue to work on the study theme that he/she worked on Architecture and Urban Design Studies 1 in the spring semester.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

- 1st week: Guidance: instructor gives a guidance on continuous research from the last spring semester.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 11th week: Summarize the findings obtained through all

the research and field work.

12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation: all students present the summary of their study.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and the final presentation (50%). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

< Correspondence to Study/Education Goals of the Department >

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 3		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	特任准教授 博士(工学) 田村 順子		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

Students set a specific theme of his/her research on architecture and urbanism and explore it through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about the theme.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- ・Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

- 1st week: Guidance: each student designates his/her primary instructor. Each instructor gives a guidance about the process of thesis study.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 11th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.
- 13th week: Summarize the findings obtained through all

the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and the final presentation (50%). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 4		
開講期	秋学期集中	単位	演6
担当者	特任准教授 博士(工学) 田村 順子		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

According to the research theme that each student sets for AUDES3, each student proposes specific design while applying the findings from the research implemented in AUDES3.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

- 1st week: Guidance: each student consults with his/her primary instructor and discuss a theme of his/her design project based on his/her findings from the research implemented in AUDES3.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the definition of his/her design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the definition of their design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 9th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and

discuss.

10th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

11th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

12th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their design project to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week. All instructions shall be conducted in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Nothing in particular

参考書

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and the final presentation (50%). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

< Correspondence to Study/Education Goals of the Department >

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	特任教授 ヴァンアカー, ミッシェル A.		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Learning Objectives

<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall select a study theme through the research theme guidance by all instructors.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

<Session Topics>

- 1st week: Guidance: each AUDS1 instructor gives a presentation about his/her study topic and students select a topic that he/she is interested in.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental

research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

11th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

12th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their study.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

< Correspondence to Study/Education Goals of the Department >

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability
- (J) Technical and Design Expertise
- (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC519E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	特任教授 ヴァンアカー, ミッシェル A.		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Learning Objectives
<Learning Objectives>

Students explore specific themes set by the instructor regarding urban space in Tokyo through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about urban space in Tokyo.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall continue to work on the study theme that he/she worked on Architecture and Urban Design Studies 1 in the spring semester.
- ・Each student shall implement the research with other group members under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research and study that he/she is in charge to the advisor regularly and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and study and present it in the final review session.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: instructor gives a guidance on continuous research from the last spring semester.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implement research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental

research and field work, report the results to the instructor and other students, and discuss.

11th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

12th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation: all students present the summary of their study.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
(I) Ethics and Conceptual Ability
(J) Technical and Design Expertise
(K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
(L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 3		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	特任教授 ヴァンアカー, ミッシェル A.		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Learning Objectives

<Learning Objectives>

Students set a specific theme of his/her research on architecture and urbanism and explore it through literature review, fieldwork, and their analysis and gain knowledge about the theme.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- ・Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: each student designates his/her primary instructor. Each instructor gives a guidance about the process of thesis study.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements research and field work, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the findings obtained through the research and field work implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 9th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 10th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 11th week: each student implements supplemental research and field work, reports the results to the instructor, and discuss.
- 12th week: Summarize the findings obtained through all

the research and field work.

13th week: Summarize the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their findings to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

< Correspondence to Study/Education Goals of the Department >

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
 (I) Ethics and Conceptual Ability
 (J) Technical and Design Expertise
 (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC619E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Architecture and Urban Design Studies 4		
開講期	秋学期集中	単位	演6
担当者	特任教授 ヴァンアカー, ミッシェル A.		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Learning Objectives

<Learning Objectives>

According to the research theme that each student sets for AUDES3, each student proposes specific design while applying the findings from the research implemented in AUDES3.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective.
- (2) Acquire ethics and conceptual ability.
- (3) Acquire technical and design expertise.
- (4) Acquire expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge.

<Course Summary>

- ・Each student shall set a study theme through the consultation with his/her instructor.
- ・Each student shall implement the research under the supervision of the advisor.
- ・Each student shall report and present the ongoing research to his/her instructor and discuss.
- ・Each student shall summarize the knowledge acquired through the research and present it in the mid-term and final review sessions.

授業内容

Session Topics

- 1st week: Guidance: each student consults with his/her primary instructor and discuss a theme of his/her design project based on his/her findings from the research implemented in AUDES3.
- 2nd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 3rd week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 4th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 5th week: Following instructor's directions, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 6th week: Summarize the definition of his/her design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far.
- 7th week: Mid-term Presentation and Review: all students present the definition of their design project as well as the results of field work, research, and analysis implemented so far to all instructors and discuss.
- 8th week: Based on the discussion in the mid-term review, each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.
- 9th week: each student implements field work, research,

and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

10th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

11th week: each student implements field work, research, and analysis necessary for the design project, reports the results to the instructor and discuss.

12th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

13th week: Summarize the design of the project as well as the findings obtained through all the research and field work.

14th week: Final Presentation and Review: all students present the summary of their design project to all instructors and get feedbacks from instructors.

履修上の注意

Prerequisites and Registration Requirements

According to the predetermined schedule, students shall give presentations regarding ongoing studies every week.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation and Review

Based on discussions in previous sessions, each student shall prepare presentation materials.

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50 %) and the final presentation (50 %). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

<Correspondence to Study/Education Goals of the Department>

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
- (I) Ethics and Conceptual Ability

- (J) Technical and Design Expertise
 (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 (L) Applied Ability of Technical Knowledge.

<Office Hours>

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授	清岡 智比古	

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けて、テーマの選定から文献リストの作成、その読解まで、準備を進めてゆく。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 研究テーマ相談
- 第3回 研究計画作成
- 第4回 先行研究論文調査
- 第5回 文献リスト作成・指導
- 第6回 文献の確認・指導
- 第7回 基本資料講読および討論(1)前半
- 第8回 基本資料講読および討論(1)後半
- 第9回 論文構想の確認
- 第10回 基本資料講読および討論(2)前半
- 第11回 基本資料講読および討論(2)後半
- 第12回 研究作業の課題の確認
- 第13回 論文のテーマの修正案の提示
- 第14回 今後の研究方針の検討

履修上の注意

具体的に作品検討を行う場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

検討対象となる文献、および作品について、あらかじめ調べておくことが必要となる。

教科書

なし。

参考書

成績評価の方法

- ・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
 - ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)
- 以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授	清岡 智比古	

授業の概要・到達目標

修士論文作成に向けて、テーマの選定から文献リストの作成、その読解まで、準備を進めてゆく。

授業内容

- 第1回 インTRODククシヨン
- 第2回 研究テーマ確認
- 第3回 研究計画進行状況確認
- 第4回 先行研究論文要旨発表・1
- 第5回 先行研究論文要旨発表・2
- 第6回 先行研究論文要旨発表・3
- 第7回 論文構想の確認
- 第8回 先行研究論文要旨発表・4
- 第9回 先行研究論文要旨発表・5
- 第10回 文章チェック・1
- 第11回 文章チェック・2
- 第12回 研究計画の確認
- 第13回 論文のテーマの修正の検討
- 第14回 今後の研究方針の検討

履修上の注意

具体的に作品検討を行う場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

検討対象となる文献、および作品について、あらかじめ調べておくことが必要となる。

教科書

なし

参考書

成績評価の方法

・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
 ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)
 以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授	清岡 智比古	

授業の概要・到達目標

修士研究指導。各自がそれぞれの主題について発表し、それについてグループで討議してゆく。まずはテーマの設定そのものの適否から出発し、テーマを絞り込んだ上で、それを各自の研究にフィードバックすることで、より精密な論文の執筆を目指す。また、それと同時に、幅広い視野を養うべく、さまざまなテーマについての討議も行う。

授業内容

- 第1回：INTROダククシヨン
- 第2回～第7回：課題の設定、討議
- 第8回～第13回：論文の具体的な書き直し
- 第14回：まとめ

履修上の注意

修士論文作成のための授業であるので、そのための準備を怠らないこと。

また、随時発表することが求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

討議の材料となる資料の読み込み

教科書

なし

参考書

成績評価の方法

・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
 ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)
 以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授	清岡	智比古

授業の概要・到達目標

「研究3」にひきつづき、各自の研究対象を広く深く分析してゆく修士研究指導。各自がそれぞれの主題について発表し、それについてグループで討議してゆく。まずはテーマの設定そのものの適否から出発し、テーマを絞り込んだ上で、それを各自の研究にフィードバックすることで、より精密な論文の執筆を目指す。また、それと同時に、幅広い視野を養うべく、さまざまなテーマについての討議も行う。

授業内容

- 第1回 インTRODダクション
- 第2～7回 章立て、序論と結論のまとめ方
- 第8～13回 論文の具体的な書き直し
- 第14回 まとめ

履修上の注意

修士論文作成のための授業であるので、そのための準備を怠らないこと。
また、随時発表することが求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

討議の材料となる文献の読み込み

教科書

なし

参考書

成績評価の方法

- ・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
 - ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)
- 以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授	倉石	信乃

授業の概要・到達目標

本科目では、美術、写真、映画など主に視覚芸術の各分野を貫く通有性を持ち、今日の芸術を理解するための基礎となるべき作品・資料・文献を精選し、読解を行なう。その際、今日の芸術が、独立した閉域に存立するのではなく、自然や社会とより密接な関係を結ぶものとして不可避に再編されていることに留意する。また、各自が修士論文の作成はもとより、修士研究の一環として作品制作を手がける場合にも、クラスにおいて構想力と表現力を高めるための発表および討議を行なう。

授業内容

- 第1回 インTRODダクション
- 第2回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第3回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第4回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第5回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第6回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第7回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第8回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第9回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第10回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第11回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第12回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第13回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第14回 まとめ。

履修上の注意

修士研究に関連する事項については、自らの足で現場に出かけることを厭わない態度が求められる。国内外のさまざまな土地の人びと・事物・風景との邂逅や、そこで開催される展覧会などのイベントに進んで参加することは、研究のための必須条件である。なお本授業は、必要に応じて他の教員との連携を十分に保った授業とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で扱う資料・文献等は事前に指定されるので、目を通しておく必要がある。また授業で扱った内容については、各人の関心にしたがって、復習しなければならない。

教科書

指定しない。

参考書

本授業の参加者が共通して講読する課題図書について、学期の初めに指定する。また、各人の研究対象にふさわし

い個別的な課題図書も別途、学期の初めに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する。

成績評価の方法

- ・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
 - ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)
- 以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授	倉石 信乃	

授業の概要・到達目標

本科目では、総合芸術研究1を踏まえ、各分野における重要な作品・資料・文献について継続して読解を進めるとともに、特に今日の芸術を考察する上でよりアクチュアルな問題意識を醸成するためのトピックについても認識を深める。

各自の研究については、12月に予定されている修士論文中間発表会を目的に、修士研究の概要を整備するため、このクラスにおいて発表と討議を反復する。また各自の計画に基づいて、研究のための資料調査、フィールドワークを実施する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第3回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第4回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第5回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第6回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第7回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第8回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第9回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第10回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第11回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第12回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第13回 研究課題の設定、調査、発表、討議。展覧会・ワークショップ等の立案・準備または実施。
- 第14回 まとめ

履修上の注意

修士研究に関連する事項については、自らの足で現場に出かけることを厭わない態度が求められる。国内外のさまざまな土地の人びと・事物・風景との邂逅や、そこで開催される展覧会などのイベントに進んで参加することは、研究のための必須条件である。なお本授業は、必要に応じて他の教員との連携を十分に保った授業とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で扱う資料・文献等は事前に指定されるので、目を通しておく必要がある。また授業で扱った内容については、各人の関心にしたがって、復習しなければならない。

教科書

特に用いない。

参考書

本授業の参加者が共通して講読する課題図書について、

学期の初めに指定する。また、各人の研究対象にふさわしい個別的な課題図書も別途、学期の初めに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する。

成績評価の方法

・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
 ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)
 以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授	倉石 信乃	

授業の概要・到達目標

本科目では、総合芸術研究1・2で行なってきた資料読解や、芸術を取り巻く課題への考察を受けて、各自の研究分野の歴史的展開と現在の状況に対する見取り図を描出し、修士研究に必要な背景や文脈の獲得に努める。

修士研究においては、それぞれのテーマに関わる先行研究を遺漏なく批判的に分析して、デジタルコンテンツ研究の更新に資するための諸条件を見定めながら、論文や作品制作へとつなげていく。また、資料調査とフィールドワークを継続する。

授業内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第3回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第4回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第5回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第6回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第7回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第8回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第9回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第10回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第11回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第12回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第13回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第14回：まとめ

履修上の注意

日頃から修士研究または修士制作に関連する事項については、インターネットなどを通じて座して得られる情報のみに頼るのではなく、自らの足で現場に出かけることを厭わない態度が求められる。国内外のさまざまな土地の人びと・事物・風景との邂逅や、そこで開催される展覧会、講演会などのイベントに進んで参加することは、研究のための必須条件である。その際に、実際に得た知見をメモやノートをとるなど、整理しておくこと。なお本授業は、他の専任教員との連携を十分に保った授業とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で扱う資料・文献等は事前に指定されるので、目を通しておく必要がある。また授業で扱った内容については、各人の関心にしたがって、復習しなければならない。

教科書

特に用いない。

参考書

本授業の参加者が共通して講読する課題図書について、学期の初めに指定する。また、各人の研究対象にふさわしい個別的な課題図書も別途、学期の初めに指定する。

成績評価の方法

・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
 ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)
 以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授	倉石 信乃	

以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

授業の概要・到達目標

本科目では総合芸術研究3までの成果を踏まえ、特定の分野・対象についての十分な認識と、近接する分野や人文諸学の今日的な研究水準の理解とを統合し、最終的に修士研究にまとめる。まとめるための諸段階において、授業内で発表を行う。修士論文については、論文の内容のみならず、構成から具体的な表記にいたる「形式」についての配慮ある執筆を心がける。修士研究の一環として作品制作を行う場合には、周到な準備を経て修了制作展などを開催し、その成果について広く学内外からの評価を得るものとする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第3回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第4回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第5回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第6回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第7回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第8回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第9回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第10回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第11回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第12回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第13回：課題の設定, 調査, 発表, 討議
- 第14回：まとめ

履修上の注意

日頃から修士研究または修士制作に関連する事項については、インターネットなどを通じて座して得られる情報のみに頼るのではなく、自らの足で現場に出かけることを厭わない態度が求められる。国内外のさまざまな土地の人情と・事物・風景との邂逅や、そこで開催される展覧会、講演会などのイベントに進んで参加することは、研究のための必須条件である。なお、本授業は、他の専任教員との連携を十分に保った授業とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業で扱う資料・文献等は事前に指定されるので、目を通しておく必要がある。また授業で扱った内容については、各人の関心にしたがって、復習しなければならない。

教科書

特に用いない。

参考書

本授業の参加者が共通して講読する課題図書について、学期の初めに指定する。また、各人の研究対象にふさわしい個別的な課題図書も別途、学期の初めに指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する。

成績評価の方法

- ・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(50%)
- ・修士研究/制作の各段階における発表(50%)

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(人間・環境学) 鞍田 崇		

授業の概要・到達目標

現代社会における芸術の役割について考える上での基本理論の理解と思考力を培うことをめざします。具体的には、哲学的な思索力とデザイン的な表現力を獲得することが目標。それらを培う基礎固めを行うのがこの授業の目的です。内容は基本文献の講読と、受講生の研究発表を中心として、的確な現状分析から説得力のあるコンセプトやビジョンを導出するための健全な批判精神の実際を学びます(基本文献は、マルティン・ハイデガーの関連著作です)。

授業内容

[vol. 1]はじめに—いま社会にとって芸術とは?
[vol. 2-14]テキスト(教科書・参考書)を手がかりにしたディスカッションをメインとします

履修上の注意

春学期「環境と人文学」および秋学期「環境とデザイン」は本講義と同趣旨のものです。可能ならあわせて履修してください。
また、学部生向け授業ですが、本講義の内容とおおいに関係するものとして、全学共通総合講座「環境人文学Ⅰ：ローカル・スタンダードをデザインする」(春学期・駿河台)、「環境人文学Ⅱ：インティマシーをデザインする」(秋学期・駿河台)があります。都合のつく人は履修せずとも、いつでもモグリに来てください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの読解が中心になります。
各回担当を決めて、指定範囲の内容をまとめたレジюмеを作成してもらいます。
授業では、まずレジюмеをもとに内容を確認し、そのうえで疑問点など内容に関する議論をします。
進度は、毎回10ページ程度ですので、レジюме担当でなくても、授業前に指定範囲を読んでおくようにしてください。

教科書

『存在と時間(一)』
ハイデガー 著
熊野純彦 訳
岩波文庫
2013年

参考書

『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』
鞍田 崇 著
明治大学出版会
2015年

課題に対するフィードバックの方法

レジюме担当者には、授業内で指定範囲の内容を発表してもらい、適宜コメントをします。

成績評価の方法

成績評価上の割合は、平常点①(レジюме担当)60%、平常点②(ディスカッションへの参加等)40%。

その他

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(人間・環境学) 鞍田 崇		

授業の概要・到達目標

現代社会における芸術の役割について考える上での基本理論の理解と思考力を培うことをめざします。具体的には、哲学的な思索力とデザイン的な表現力を獲得することが目標。それらを培う基礎固めを行うのがこの授業の目的です。内容は基本文献の講読と、受講生の研究発表を中心として、的確な現状分析から説得力のあるコンセプトやビジョンを導出するための健全な批判精神の実際を学びます(基本文献は、マルティン・ハイデガーの関連著作です)。

授業内容

[vol. 1]はじめに—いま社会にとって芸術とは?
[vol. 2-14]テキスト(教科書・参考書)を手がかりにしたディスカッションをメインとします

履修上の注意

春学期「環境と人文学」および秋学期「環境とデザイン」は本講義と同趣旨のものです。可能ならあわせて履修してください。
また、学部生向け授業ですが、本講義の内容とおおいに関係するものとして、全学共通総合講座「環境人文学Ⅰ：ローカル・スタンダードをデザインする」(春学期・駿河台)、「環境人文学Ⅱ：インティマシーをデザインする」(秋学期・駿河台)があります。都合のつく人は履修せずとも、いつでもモグリに来てください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの読解が中心になります。
各回担当を決めて、指定範囲の内容をまとめたレジюмеを作成してもらいます。
授業では、まずレジюмеをもとに内容を確認し、そのうえで疑問点など内容に関する議論をします。
進度は、毎回10ページ程度ですので、レジюме担当でなくても、授業前に指定範囲を読んでおくようにしてください。

教科書

『存在と時間(二)』
ハイデガー 著
熊野純彦 訳
岩波文庫
2013年

参考書

『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』
鞍田 崇 著
明治大学出版会
2015年

課題に対するフィードバックの方法

レジюме担当者には、授業内で指定範囲の内容を発表してもらい、適宜コメントをします。

成績評価の方法

成績評価上の割合は、平常点①(レジюме担当)60%、平常点②(ディスカッションへの参加等)40%。

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(人間・環境学) 鞍田 崇		

授業の概要・到達目標

現代社会における芸術について考える上での基本理論の理解と思考力を培うことをめざします。具体的には、哲学的な思索力とデザイン的な表現力を獲得することが目標。それらを培う基礎固めを行うのがこの授業の目的です。内容は基本文献の講読と、受講生の研究発表を中心として、的確な現状分析から説得力のあるコンセプトやビジョンを導出するための健全な批判精神の実際を学びます(基本文献は、マルティン・ハイデガーの関連著作です)。

授業内容

[vol. 1]はじめに
[vol. 2-13] 各自の発表を手がかりにしたディスカッションをメインとします
[vol. 14]おわりに

履修上の注意

春学期「環境と人文学」および秋学期「環境とデザイン」は本講義と同趣旨のものです。可能ならあわせて履修してください。
また、学部生向け授業ですが、本講義の内容とおおいに関係するものとして、全学共通総合講座「環境人文学Ⅰ：ローカル・スタンダードをデザインする」(春学期・駿河台)、「環境人文学Ⅱ：インティマシーをデザインする」(秋学期・駿河台)があります。都合のつく人は履修せずとも、いつでもモグリに来てください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの読解が中心になります。
各回担当者を決めて、指定範囲の内容をまとめたレジュメを作成してもらいます。
授業では、まずレジュメをもとに内容を確認し、そのうえで疑問点など内容に関する議論をします。
進度は、毎回10ページ程度ですので、レジュメ担当でなくても、授業前に指定範囲を読んでおくようにしてください。

教科書

『存在と時間(一)』
ハイデガー 著
熊野純彦 訳
岩波文庫
2013年

参考書

『民藝のインティマシー「いとおしさ」をデザインする』
鞍田 崇 著
明治大学出版会
2015年

課題に対するフィードバックの方法

レジュメ担当者には、授業内で指定範囲の内容を発表してもらい、適宜コメントをします。

成績評価の方法

成績評価上の割合は、平常点①(レジュメ担当)60%、平常点②(ディスカッションへの参加等)40%。

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(人間・環境学) 鞍田 崇		

授業の概要・到達目標

現代社会における芸術について考える上での基本理論の理解と思考力を培うことをめざします。具体的には、哲学的な思索力とデザイン的な表現力を獲得することが目標。それらを培う基礎固めを行うのがこの授業の目的です。内容は基本文献の講読と、受講生の研究発表を中心として、的確な現状分析から説得力のあるコンセプトやビジョンを導出するための健全な批判精神の実際を学びます(基本文献は、マルティン・ハイデガーの関連著作です)。

授業内容

[vol. 1]はじめに
[vol. 2-13] 各自の発表を手がかりにしたディスカッションをメインとします
[vol. 14]おわりに

履修上の注意

春学期「環境と人文学」および秋学期「環境とデザイン」は本講義と同趣旨のものです。可能ならあわせて履修してください。
また、学部生向け授業ですが、本講義の内容とおおいに関係するものとして、全学共通総合講座「環境人文学Ⅰ：ローカル・スタンダードをデザインする」(春学期・駿河台)、「環境人文学Ⅱ：インティマシーをデザインする」(秋学期・駿河台)があります。都合のつく人は履修せずとも、いつでもモグリに来てください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの読解が中心になります。
各回担当者を決めて、指定範囲の内容をまとめたレジュメを作成してもらいます。
授業では、まずレジュメをもとに内容を確認し、そのうえで疑問点など内容に関する議論をします。
進度は、毎回10ページ程度ですので、レジュメ担当でなくても、授業前に指定範囲を読んでおくようにしてください。

教科書

『存在と時間(二)』
ハイデガー 著
熊野純彦 訳
岩波文庫
2013年

参考書

『民藝のインティマシー「いとおしさ」をデザインする』
鞍田 崇 著
明治大学出版会
2015年

課題に対するフィードバックの方法

レジュメ担当者には、授業内で指定範囲の内容を発表してもらい、適宜コメントをします。

成績評価の方法

成績評価上の割合は、平常点①(レジュメ担当)60%、平常点②(ディスカッションへの参加等)40%。

その他

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授	管 啓次郎	

授業の概要・到達目標

修士研究指導。1年次,2年次ともグループによるセミナーと個別指導を並行して行う。各自の主題に沿ったリサーチ能力と、その成果を明快な散文で書き残す力を養うことをめざす。

授業内容

[第1回] イントロダクション
[第2回～第13回] リーディングと議論
[第14回] 発表とまとめの討論

履修上の注意

出席は絶対。議論に積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

修士研究のための個別のリーディング・リストを作成し定期的な報告を求める。このリストが研究のコアな内容となる。

教科書

毎回、読むべき素材を指示する。

参考書

「教科書」におなじ。

成績評価の方法

個別に進度を判断する。学期末の段階でフォーマルなペーパー1編(日本語の場合、原稿用紙20枚程度、英文の場合はそれに準ずる長さ)を提出すること。

その他

自分が独自の領域を切り開くという気概をもって臨んでほしい。

指導テーマ

批評の理論と実践。

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授	管 啓次郎	

授業の概要・到達目標

修士研究指導。1年次,2年次ともグループによるセミナーと個別指導を並行して行う。各自の主題に沿ったリサーチ能力と、その成果を明快な散文で書き残す力を養うことをめざす。

授業内容

[第1回] イントロダクション
[第2回～第13回] リーディングと議論
[第14回] 発表とまとめの討論

履修上の注意

出席は絶対。議論に積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

修士研究のための個別のリーディング・リストを作成し定期的な報告を求める。このリストが研究のコアな内容となる。

教科書

毎回、読むべき素材を指示する。

参考書

「教科書」におなじ。

成績評価の方法

個別に進度を判断する。学期末の段階でフォーマルなペーパー1編(日本語の場合、原稿用紙20枚程度、英文の場合はそれに準ずる長さ)を提出すること。

その他

自分が独自の領域を切り開くという気概をもって臨んでほしい。

指導テーマ

批評の理論と実践。

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授	管 啓次郎	

授業の概要・到達目標

修士研究指導。1年次,2年次ともグループによるセミナーと個別指導を並行して行う。各自の主題に沿ったリサーチ能力と、その成果を明快な散文で書き残す力を養うことをめざす。

授業内容

[第1回] イントロダクション
[第2回～第13回] リーディングと議論
[第14回] 発表とまとめの討論

履修上の注意

出席は絶対。議論に積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

修士研究のための個別のリーディング・リストを作成し定期的な報告を求める。このリストが研究のコアな内容となる。

教科書

毎回、読むべき素材を指示する。

参考書

「教科書」におなじ。

成績評価の方法

個別に進度を判断する。学期末の段階でフォーマルなペーパー1編(日本語の場合、原稿用紙20枚程度、英文の場合はそれに準ずる長さ)を提出すること。

その他

自分が独自の新領域を切り開くという気概をもって臨んでほしい。

指導テーマ

批評の理論と実践。

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任教授	管 啓次郎	

授業の概要・到達目標

修士研究指導。1年次,2年次ともグループによるセミナーと個別指導を並行して行う。各自の主題に沿ったリサーチ能力と、その成果を明快な散文で書き残す力を養うことをめざす。

授業内容

[第1回] イントロダクション
[第2回～第13回] リーディングと議論
[第14回] 発表とまとめの討論

履修上の注意

出席は絶対。議論に積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

修士研究のための個別のリーディング・リストを作成し定期的な報告を求める。このリストが研究のコアな内容となる。

教科書

毎回、読むべき素材を指示する。

参考書

「教科書」におなじ。

成績評価の方法

個別に進度を判断する。学期末の段階でフォーマルなペーパー1編(日本語の場合、原稿用紙20枚程度、英文の場合はそれに準ずる長さ)を提出すること。

その他

自分が独自の新領域を切り開くという気概をもって臨んでほしい。

指導テーマ

批評の理論と実践。

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究1		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 山本 洋平		

授業の概要・到達目標

修士課程における学術的な素養を磨く。具体的な方法論を身につけるのも大切だが、むしろ、あらたな研究領域を開拓するくらいの気持ちで、まずは隣接分野も含めた領域に対して関心を広くもつことが期待される。そうした広い好奇心に基づいて文献リストを作成し、資料を読み込む。その過程で、おのずからテーマが絞られてゆくの望ましい。

授業内容

受講生の関心に基づいて、研究書を選定し、輪読をおこなう。随時、研究の経過報告が求められる。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、積極的な発言が期待される。

教科書

参考書

成績評価の方法

- ・毎回の発表とコメント(50%)
- ・最終レポート(50%)

その他

科目ナンバー：(ST) ART519J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究2		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(文学) 山本 洋平		

授業の概要・到達目標

修士論文へ向けて、テーマを掘り下げる活動と、論文としてまとめる作業とを並行して進める。学術的な精確さを大前提としつつ、既成の学術分野を揺さぶるような、ユニークかつダイナミックな視点を兼ね備えた論考を用意する。

授業内容

受講生の関心に基づいて、研究書を選定し、輪読をおこなう。随時、研究の経過報告が求められる。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、積極的な発言が期待される。

教科書

参考書

成績評価の方法

- ・毎回の発表とコメント(50%)
- ・最終レポート(50%)

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究3		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(文学) 山本 洋平		

授業の概要・到達目標

修士課程における学術的な素養を磨く。具体的な方法論を身につけるのも大切だが、むしろ、あらたな研究領域を開拓するくらいの気持ちで、まずは隣接分野も含めた領域に対して関心を広くもつことが期待される。そうした広い好奇心に基づいて文献リストを作成し、資料を読み込む。その過程で、おのずからテーマが絞られてゆくの望ましい。

授業内容

受講生の関心に基づいて、研究書を選定し、輪読をおこなう。随時、研究の経過報告が求められる。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、積極的な発言が期待される。

教科書

参考書

成績評価の方法

- ・毎回の発表とコメント(50%)
- ・最終レポート(50%)

その他

科目ナンバー：(ST) ART619J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	総合芸術研究4		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任准教授 博士(文学) 山本 洋平		

授業の概要・到達目標

修士論文へ向けて、テーマを掘り下げる活動と、論文としてまとめる作業とを並行して進める。学術的な精確さを大前提としつつ、既成の学術分野を揺さぶるような、ユニークかつダイナミックな視点を兼ね備えた論考を用意する。

授業内容

受講生の関心に基づいて、研究書を選定し、輪読をおこなう。随時、研究の経過報告が求められる。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、積極的な発言が期待される。

教科書

参考書

成績評価の方法

- ・毎回の発表とコメント(50%)
- ・最終レポート(50%)

その他

科目ナンバー：(ST) ARC531J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	近代建築史特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(工学)	渡邊 研司	

授業の概要・到達目標

近代建築史特論の授業では、近代の始まりを19世紀半ばと捉え、以降21世紀までおよそ200年間に起こった三つのパラダイムシフト(重要な価値観の変化)に着目し、建築家(職能教育)、技術、生命という側面から、それぞれの側面に近代建築史上どのようなパラダイムシフトが起こったのかを検証しながら、これらかの建築並びに都市を考える上での歴史的な視点を養うことを目的とする。

合わせて、講義の中で、指定された建築や事象を自ら調べるとともに、建築の外観や内部空間、ディテール、街並み、平面図、断面図、ダイアグラムなどを手を動かしながらスケッチすることで、ヴィジュアルイメージの記憶と表現の強化を図る。

セッションのまとめとして、セッションテーマに関する課題に対してグループあるいは個人で取り組み、パワーポイントを使って発表を行う。

授業内容

- [第1回] イントロダクション
なぜ建築家は歴史を学ぶのか?
- [第2回] Session1 建築家(職能・教育)のパラダイムシフト1
イギリス19世紀建築家の職能と教育
- [第3回] Session1 建築家のパラダイムシフト2
20世紀建築家像としてのル・コルビュジエ
- [第4回] Session1 建築家のパラダイムシフト3
21世紀建築家像としてのレム・コールハースとAAスクール
- [第5回] Session1 まとめ
プレゼンテーションとディスカッション
- [第6回] Session2 技術のパラダイムシフト1
鉄と近代建築(二つのクリスタルパレス)
- [第7回] Session2 技術のパラダイムシフト2
RCと近代建築(リュベトキンとアラップ)
- [第8回] Session2 技術のパラダイムシフト3
大空間の可能性(ウツォンと丹下)
- [第9回] Session2 まとめ
プレゼンテーションとディスカッション
- [第10回] Session3 生命のパラダイムシフト1
生命進化論から文化(建築)進化論へ
- [第11回] Session3 生命のパラダイムシフト2
有機主義建築とフランク・ロイド・ライト
- [第12回] Session3 生命のパラダイムシフト3
人新世時代の建築とは メタボリズム的保存
- [第13回] Session3 生命のパラダイムシフト まとめ
プレゼンテーションとディスカッション
- [第14回] 全体まとめ
補講 総合課題レポート提出

履修上の注意

近代建築および建築史に関する知識と政治・経済・文化など時代背景に関する基本的な知識があることが望ましい。授業で指示する文献や配布資料を読み、理解を深めること。なお、スケジュールや各回のテーマは履修人数に応じて変更される場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に指定しない。各回の授業で資料を配布する。参考文献についても授業で指示する。

教科書

渡邊研司, スケッチで学ぶ建築文化史, 理工図書, 2022

参考書

特に指定しない。各回の授業で資料を配布する。参考文献についても授業で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜に対応する。

成績評価の方法

授業への参加度30%, レポート課題70%により評価する。

履修者全員が必ず発表することとし、総合の課題レポートとして学期末に提出してもらう。授業への参加状況(出席、質問への回答、議論への参加)も考慮に入れる。配点は授業への参加30点、発表30点、最終レポート40点とし、合計60点以上を合格とする。

その他

授業スケジュール

[第1回]	[第2回]	5月17日	1限・2限
[第3回]	[第4回]	5月24日	1限・2限
[第5回]	[第6回]	5月31日	1限・2限
[第7回]		6月7日	2限
[第8回]		6月14日	2限
[第9回]		6月21日	2限
[第10回]		6月28日	2限
[第11回]		7月5日	2限
[第12回]		7月12日	2限
[第13回]	[第14回]	7月19日	1限・2限

科目ナンバー：(ST) ARC531J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築意匠特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(工学)	大河内	学

授業の概要・到達目標

[建築の先端デザインをリサーチする]

建築意匠特論では、最先端の建築デザイン理論について考える。今日の建築デザインはますます高度化、複雑化しているため、複眼的な視点に基づき、あらゆる方向から理解し、検討を加える必要がある。ここでは建築デザインの今日的な問題を、便宜上、大きく以下の5つのテーマ(カテゴリー)に分けて考える。本講では、こうしたいくつかのトピックに精通することにとどまらず、それらのコンセプトが相互に関連づけられて、いかにしてひとつの建築が構築されているか、それぞれの受講者が理解し、概念の見取り図を構築することを目的とする。

1. 【空間理論】
 - ・造形手法、スタディ手法
 - ・空間構成の方法、新しいプランニングの開発
 - ・意味形成のメカニズムについての理論
2. 【環境計画、サステイナブルデザイン】
 - ・環境負荷低減型建築
 - ・CASBEE建築物総合環境性能評価システム
3. 【設備エンジニアリング】
 - ・設備デザインの現在
4. 【構造デザイン】
 - ・アルミ等の新素材
 - ・構造新解析手法
5. 【新素材】
 - ・リサイクル材
 - ・高意匠/多機能ガラス
 - ・遮熱塗料

授業内容

進行計画

この講義では、学生による研究発表形式を前提とする。はじめに履修者を少人数のグループに分け、各グループが分担して分析を行う。発表に際しては、作品の資料(図面など)だけではなく、その計画の理論的背景、言説についても収集し、作品と理論の関係を横断的に捉えることをねらいとする。こうした発表と分析の流れを通じて、全体としての体系的な整理を行う。学期末には、履修者全員が協力して成果をドキュメントとしてまとめる。

- [第1回] ガイダンス
- [第2回] 空間理論①
- [第3回] 空間理論②
- [第4回] 空間理論③、建築見学会
- [第5回] 環境計画、サステイナブルデザイン①
- [第6回] 環境計画、サステイナブルデザイン②
- [第7回] 設備デザイン①
- [第8回] 建築家のスライドレクチャー
- [第9回] 設備デザイン②
- [第10回] 構造デザイン① 構造家のスライドレクチャー
- [第11回] 構造デザイン②
- [第12回] 新素材①
- [第13回] 新素材②
- [第14回] ドキュメントの作成

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に十分な資料収集、分析を行うこと。事前に所定の

書籍や関連書籍に目を通しておくこと。不明な部分があれば講義で質問すること。

教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書

講義の内容に応じて、参考図書リストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の冒頭に前回の講義に内容について簡単な振り返りを行う。

成績評価の方法

毎回出欠をとる。学期末に課すレポートにより評価する。単位取得の条件は、レポートの得点が満点の60%以上とする。

その他

プリントを配布。パワーポイントにより発表。

科目ナンバー：(ST) ARC541J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築計画特論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	専任講師 博士(学術)	連	勇太郎

授業の概要・到達目標

〈授業の概要・到達目標〉

建築計画学とは、人間、空間、環境、社会のより良い関係の構築に向けて、何らかの変化を生み出すための「計画」に関わる学問領域である。建築物の実現のためには、機能、プログラム、ゾーニング、寸法・規模・動線計画、事業コスト、スケジュール等の要素を十分に検討し構成しながら、有機的にひとつの物理的実体へと統合する力が求められる。特定のビルディングタイプを前提とした戦後の「施設計画学」は、合理化や量産という目標のもと、機能を限定することで取り扱う変数を絞ることが可能であったが、社会が高度に複雑化・多様化していることにより、現代の建築計画のデザインの対象は拡大・拡張し続けている。従来の方法論的枠組みでは十分に対応しきれないユーザー参加、運営形態、メンテナンスなど新たな要素を扱う必要が求められているのである。理論的にも実践的にも、時代の不確実性が高まり続ける状況において、「計画」概念そのものの有効性も問われている。

本授業は、上述の問題意識を前提とし、建築計画の最前線の知見や実践例を学びながら、現代社会で求められる多様な建築を計画するための課題や論点を、実践的に学ことを目的とする。そして、理論と技術の両面から建築計画・建築設計に関する実践力を養う。

具体的な到達目標：

- (1) 建築計画学の理念・役割の理解
- (2) 企画・設計・運用までの建築設計に関連する一連のプロセスの理解と関連する知識、技法、発想法の理解・習得
- (3) 社会構造が大きく転換していく時代を前提とした、変化する状況や与件に回答するための技法としての建築計画学の可能性と限界の理解と、独自の問題意識の設定

授業内容

- [第1回] イントロダクション・課題提示
授業の概要・目的・進め方を説明し、必要となる基礎的理論の確認と今日的課題の説明を行う。また、課題の提示を行う。
- [第2回] 枠組みのデザイン(1)
建築物を実現するための様々な枠組みについて、基礎的な理論と計画技術に関して講義を行う。
- [第3回] 枠組みのデザイン(2)
建築物を実現するための様々な枠組みについて、今日的な論点、課題を解説し、討議を行う。
- [第4回] 枠組みのデザイン(3)
建築物を実現するための様々な枠組みについてより深く理解するため、課題で扱うプロジェクトサイトを見学する。
- [第5回] 建築のプレ・デザイン(1)
建築設計の初期段階で行う条件設定に関わる「プレデザイン」の基礎的な理論と計画技術に関して講義を行う。
- [第6回] 建築のプレ・デザイン(2)
建築設計の初期段階で行う条件設定に関わる「プレデザイン」の今日的な論点、課題を解説し、討議を行う。
- [第7回] 建築のプレ・デザイン(3)
建築設計の初期段階で行う条件設定に関わる「プレデザイン」に関連する先端事例を見学する。
- [第8回] 建築のポスト・デザイン(1)

建築物の竣工後の運営やマネジメントに関わる「ポストデザイン」の基礎的な理論と計画技術に関して講義を行う。

- [第9回] 建築のポスト・デザイン(2)
建築物の竣工後の運営やマネジメントに関わる「ポストデザイン」の今日的な論点、課題を解説し、討議を行う。
- [第10回] 建築のポスト・デザイン(3)
建築物の竣工後の運営やマネジメントに関わる「ポストデザイン」に関連する先端事例を見学する。
- [第11回] グループワーク+ディスカッション(1)
今までの学びを踏まえ、最終課題の提出に向けて、グループごとに提案内容について検討・討議する。
- [第12回] グループワーク+ディスカッション(2)
今までの学びを踏まえ、最終課題の提出に向けて、グループごとに提案内容について検討・討議する。
- [第13回] 課題の発表・講評(1)
最終課題の発表を行い、講評・討議を通して、今日における建築計画学の可能性と課題について考察する。
- [第14回] 課題の発表・講評(2)
最終課題の発表を行い、講評・討議を通して、今日における建築計画学の可能性と課題について考察する。

履修上の注意

建築計画に関する専門知識を学びたいものは受講すること。授業は集中科目であるため、ガイダンス時に授業スケジュールを共有する。初回イントロダクションの授業では、ガイダンスを含めて行なうので、必ず出席すること。初回授業日時はOh-o! Meiji等で告知する。「建築計画」(学部3年春学期)を事前に履修していることが望ましい

準備学習(予習・復習等)の内容

特に指定しない。

教科書

特に指定しない。

参考書

毎回の講義時にリストを作成し、配布する。
課題に対するフィードバックの方法
授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

- 1) 最終課題の内容
 - 2) 授業への参加度・貢献度、ディスカッションへの参加状況など
- 上記について、最終課題80%、授業への参加度・貢献度・ディスカッションへの参加状況20%とし、総合的に成績を評価する。総合点が満点の60%以上を単位取得条件とする。なお、授業への参加度・貢献度は各回の授業で提出する回答表などにより確認する。また、単位取得には、一定以上の参加度・貢献度があることを前提とする。

その他

<オフィスアワー>
日時:水曜日 12:30-13:30
場所: 2号館A館 1107
問い合わせ先: muraji@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC541J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	都市計画特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術)	山本 俊哉	

授業の概要・到達目標

木造密集市街地の問題は、古くから都市計画の重要課題として認識され、常にその対応に追われてきた。この特論ではその歴史を振り返りつつ、その住環境整備と防災都市計画の両面からの都市計画論の系譜を追う。また、都内の木造密集市街地において住環境整備と防災都市計画を具体化してきた現場の視察と関係者の談話を通して理解と認識を深め、東京の歴史文化資源の継承・活用や地域社会の持続可能性の視点を加味し、これからの木造密集市街地における都市計画のあり方を問う。

授業内容

- [第1回] ガイダンス
都市は密集→感染症・災害→都市計画を繰り返してきた。世界にも目を向けてその歴史を振り返りながら、これからの密集市街地の都市計画のあり方を考えるいくつかの問題を提起し、この授業の内容と進め方を説明する。
- [第2回] 江戸から東京の都市計画の変遷(1)
江戸における密集市街地の形成と明暦の大火後の都市改造、東京市区改正条例や震災復興事業、戦災復興事業から現在に至る東京の都市改造の歴史から、江戸から東京の都市計画の変遷を学ぶ。
- [第3回] 江戸から東京の都市計画の変遷(2)
明治以降の都市計画に伴う江戸の大名屋敷と寺社地の変容の具体的な事例を通して江戸から東京の都市計画の変遷の系譜を学ぶとともに、まち歩き面白さについて認識を深める。
- [第4回] 東京の防災都市計画論の系譜(1)
東京都震災慰霊堂と東京都復興記念館を訪問し、その建築と展示資料の解説を通し、関東大震災の被害状況と復興事業について、認識を深める。
- [第5回] 江戸から東京の都市計画の変遷(3)
江東区の清澄庭園及び深川江戸資料館を訪問し、その庭園景観と長屋の展示空間を通し、江戸から東京の都市計画の変遷について、理解を深める。
- [第6回] 江戸から東京の都市計画の変遷(4)
江戸の寺町として発展してきた歴史文化を現在に伝える台東区谷中地区の事例を通し、江戸から東京の都市計画の変遷について、理解を深める。
- [第7回] 東京の都市防災計画論の系譜(2)
江戸時代の都市防火対策から戦前の防空都市計画等を経て東京都の防災生活圏構想に至る都市防火思想と現在の不燃化特区について解説し、市街地大火に対する都市防災計画の系譜を学ぶ。
- [第8回] 東京の防災都市計画論の系譜(3)
墨田区白鬚東防災団地と明治通り沿道の街並みを現地視察して江東防災都市再開発事業と不燃化促進事業の実際に触れ、その成果と課題の認識を深める。
- [第9回] 東京の都市防災計画論の系譜(4)
墨田区一寺言問地区における東京都防災生活圏事業と住民主体の防災まちづくりの実際に触れ、その成果と課題の認識を深める。
- [第10回] 木造密集市街地の住環境整備の事例スタディ(1)
墨田区京島地区の住環境整備事業の実際に触

- れ、その成果と課題の認識を深める。
- [第11回] 木造密集市街地の住環境整備の事例スタディ(2)
墨田区京島地区の長屋のリノベーションの実際に触れ、その成果と課題の認識を深める
- [第12回] 木造密集市街地の住環境整備の事例スタディ(3)
NPOによる東京文化資源の保存活用の実際に触れ、その成果と課題の認識を深める。
- [第13回] 木造密集市街地の住環境整備の事例スタディ(4)
台東区谷中地区の都市計画見直しの実際に触れ、その成果と課題の認識を深める。
- [第14回] まとめ
学生レポートに基づき、これからの木造密集市街地における都市計画のあり方について議論する。

履修上の注意

第2回から第13回までは、隔週2回連続で開催する(「建築マネジメント特論」(春学期)とは調整済みである)。このうち第4回から第13回は学外において連続開催し、9:00現地集合、12:00現地解散とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で使う資料は事前にアップロードするので、それを読んだ上で授業に臨むこと。

教科書

指定なし。適宜プリントして配付する。

参考書

毎回の授業において参考文献を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業のコメントペーパーと最終レポートの採点結果をOh-oi Meijiを通して履修者にフィードバックするとともに、優れたコメントペーパーと最終レポートを選抜し、Oh-oi Meijiを通して履修者と共有する。

成績評価の方法

成績は、第2回～第13回のコメントペーパーと最終レポートにより評価する。コメントペーパーと最終レポートの配点は、それぞれ60%、40%とする。最終レポートは、この授業を振り返り、これからの木造密集市街地の都市計画のあり方について論じる。

その他

受講等に関する問い合わせ等：山本俊哉(A1108)
toshiya@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC571J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築マネジメント特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(工学)	田村 誠邦	

授業の概要・到達目標

建物を建てる、あるいは再生するという「行為」とその「実施プロセス」のことを「建築プロジェクト」と呼ぶとすれば、建築プロジェクトは、一連の「経済行為」として捉えることができる。

本授業においては、こうした建築に係る一連の経済行為について、実際の建築プロジェクトを想定して、グループワークにより疑似体験することにより、建築プロジェクトに係る金融、税制、不動産、法制度等のしくみや、マーケティング、事業の成立性等について理解を深めることとする。具体的には、郊外における未利用地の土地活用(賃貸事業)及び分譲事業と、都心部における既存ビルの再生事業を想定している。

本授業の到達目標は、建築プロジェクトの実施プロセスに係る一連の経済行為やその主体・組織や仕組みについての基本的な知識を身につけるとともに、都市や建築が、社会や経済の様々な活動と相互に影響を及ぼしあう中で存立していることを理解し、これからのストック時代における都市や建築の新たな方向性について、受講生一人一人が考察し、自らの視座を獲得することである。

授業内容

- [第1回] イントロダクション
本授業の目的や全体の構成についてその概要を説明するとともに、建築と経済活動の関係について、いくつかの事例をもとに考察する。
- [第2回] 社会経済変化と建築活動
昨今の社会経済環境の変化と、そうした変化による建築活動への影響について、統計データから解説するとともに、建築プロジェクトの起り方に生じた変化や、現在の建築活動が直面する課題やこれからの方向性について考察する。
- [第3回～4回] 建築プロジェクトの組み立て方
建築プロジェクトにおける企画の意義や市場調査の方法を学び、計画地の具体的な活用方法について、マーケティングの視点から考察する。また、建築プロジェクトの資金調達や事業採算性についての基礎を学ぶ。
- [第5回～8回] 土地活用プロジェクトについてのグループワーク
これまでに学んだ基礎知識をもとに、グループワークを通して、計画地の土地活用についての企画提案をグループごとに作成する。8回目に、各グループで作成した計画地の土地活用の企画提案について発表を行い、グループ間のディスカッションを行う。
- [第9回] 再生プロジェクトの組み立て方
建築再生プロジェクトにおける、事業の組み立て方、法的な留意点、事業採算性等についての基礎知識を学ぶ。
- [第10回] 内外の再生プロジェクトの事例に学ぶ
日本国内及び海外における建築再生プロジェクトの事例を通して、建築再生プロジェクトの組立て方について学ぶ
- [第11回～14回] 建築再生プロジェクトについてのグループワーク
これまでに学んだ基礎知識をもとに、グループワークを通して、既存ビルの再生事業についての企画提案をグループごとに作成する。14

回目(最終回)に、各グループで作成した再生事業の企画提案について発表を行い、グループ間のディスカッションを行う。受講生全員参加によるディスカッションを通して、建築プロジェクト・再生プロジェクトのこれからの方向性や、それらを実現させていくために個々の建築技術者・設計者などのプレイヤーに必要とされる知識や能力などについて、考察を深める。

履修上の注意

都市や建築が、社会や経済の様々な活動と相互に影響を及ぼしあう中で存立しているという視点から、建築プロジェクトの実現のために必要な知識を体系的に身に付けることを目標としている。また、建築に関連する諸産業の実態についても解説するので、大学院修了後の就職やキャリア構築に興味のある受講生も歓迎したい。

なお、「都市計画特論」、「設計スタジオB」を並行して履修することをお勧めする。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で用いる資料は、あらかじめOh-ol Meiji上で公開するので、授業実施前に予習として目を通しておくこと。また、授業中に授業内容に関連する事項や書物等を紹介するので、授業の理解を深めるために、これらの内容を参照するなど復習することにより、理解を深めることが望ましい。

教科書

教科書は特に指定しない
講義は、パワーポイントによる説明を中心とし、適宜資料を配付する。

参考書

- ・「建築生産[第三版]」、松村秀一編著、権藤智之編著、市ヶ谷出版社
- ・「建築再生の進め方」、松村秀一編著、市ヶ谷出版社
- ・「都市・建築・不動産企画開発マニュアル入門版2022-2023」
田村誠・甲田珠子 エクスナレッジ

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢(受講姿勢、発言等、授業への参加度・貢献度)50%、レポート点50%(3回のグループワークのアウトプット)により評価を行う。合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

田村誠邦 E-mail: tamura@abrain.co.jp
ホームページ: <http://www.abrain.co.jp/>

科目ナンバー：(ST) ARC541J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	都市解析特論		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(工学)	薄井	宏行

授業の概要・到達目標

都市計画は、1) 理解したり人に教えることが困難な多くの部分と、2) 客観的に理解し説明できる少しの部分から成り立っている。都市解析は後者の基礎をなし、計量地理学、建築計画学、数理工学などを基礎とする学問分野である。近年、地理情報システム (Geographical Information Systems (GIS)) とGISデータの普及により、理論に基づく実証研究も活発に行われている。

都市解析は、都市デザインにおいて『都市を読む』ための道具としても重要である。とくに、理論に基づくデータ分析とGISを使用した分析結果の可視化によって、都市デザインを客観的に理解し説明できる可能性を秘めている。

都市解析特論では、講義中の演習および演習課題により、GISの技術と概念の両方を学習し、都市空間を分析する技術の習得を目的とする。到達目標は、1) GISへの造詣を深めること、2) QGIS (GIS専用アプリケーション) の操作法の習得すること、3) GISデータを自ら取得して空間参照系等を設定できること、4) GISを応用した都市空間の分析技術の習得することとする。とくに、2)と3)を重視する。

授業内容

1日目

- [第1回] イントロダクション(QGISのインストール)
- [第2回] イントロダクション(GISとは?)
- [第3回] イントロダクション(QGISの基本的な操作法)
(デモ)課題1出題、最終課題出題

2日目

- [第4回] GISデータの取得方法(デモ)
- [第5回] GISデータの可視化(デモ)
- [第6回] GISを使用した空間分析(デモ) 課題2出題

3日目

- [第7回] 目視による建蔽率の推定
- [第8回] GISを使用した建蔽率の計測(デモ)
- [第9回] 簡便な地区建蔽率の推定方法 課題3出題

4日目

- [第10回] 最終課題(GISデータの取得)
- [第11回] 最終課題(GISを使用した空間分析)
- [第12回] 最終課題(同上)

5日目

- [第13回] 最終課題プレゼンテーション(1)
 - [第14回] 最終課題プレゼンテーション(2)
- ※()内「デモ」とあるのはQGISを実際に操作しながらの演習型講義。

履修上の注意

本講義は、GISの操作法を学ぶ演習形式の講義である。フリーのオープンソースのソフトウェアである「Quantum GIS (QGIS)」を使用する。受講者は事前に各自のlaptop PCにQGISをインストールすることが望ましい。PCのOS (windows, mac) および環境を十分に確認し、下記のURLにアクセスのうえ、インストールすること。(https://www.qgis.org/ja/site/)。*Long term releaseのほうをインストールすることを推奨する。

演習課題および最終課題の提出は単位取得のための必須条件となる。演習形式の講義で代替がきかないので、必ず毎回出席すること。

※注意※対面授業の場合においても、Web会議サービス(zoom)の画面共有機能を使用して、操作法をデモンストレーションする予定です。完全オンライン形式を経験し、

画面共有機能を使用するほうが、教室でプロジェクター&スクリーンを使用するよりも、QGISの操作画面の視認性はよいことがわかったためです。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修上の注意として記載したように、事前に各自のlaptop PCにQGISをインストールすることが望ましい。

教科書

指定しない。資料や関連する論文等を配付する。

参考書

河端瑞貴(編著), 2022, 事例で学ぶ経済・政策分析のためのGIS入門QGIS, R, GeoDa対応, 古今書院。
今木洋大, 岡安利治(著), 2022, QGIS入門 第3版, 古今書院。

成績評価の方法

演習課題(3回) 40%, 最終課題30%, 平常点30%
合計が満点の60%以上かつ全課題の提出(期限外提出を含む)を単位修得の条件とする。

その他

【レポートおよび課題内容(予定)】

課題1の概要: 調査・解析してみたい地区(以降、「対象地区」と記す。)を中野区または渋谷区から選定し、1) 対象地区の空間的な特徴、2) 対象地区の空間的な課題を定性的に述べる。

課題2の概要: 対象地区の空間的な特徴や課題を定量的に考察するために、1) 必要なGISデータ、2) 必要な空間分析手法を述べる。必要なGISデータのうち、オープンデータとしての入手可否について検討すること。

課題3の概要: 対象地区の建蔽率について、1) 目視による推定結果、2) GISを使用した計測結果、3) 簡便な推定結果をそれぞれ比較し、違いが生じる理由を考察する。

最終課題の概要: GISおよびその他のソフトを併用して対象地区を調査・解析する。また、修士研究等への応用可能性を検討する。

科目ナンバー：(ST) ARC522J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	設計スタジオA		
開講期	春学期集中	単位	演4
担当者	専任教授 博士(工学) 大河内 学 他		

授業の概要・到達目標

- ・単体建物の設計に必要な基本的な計画・表現技術などを習得するため、戸建住宅、集合住宅、業務施設、教育施設などの基本的なプログラムの建物についての設計演習を行う。
- ・設計の実務に必要な建築基準法の情報を習得し、基本計画、基本設計、実施設計レベルの図面表現を習得する。外部からの実務者による講評を実施し、社会性、安全性、意匠性の高い設計演習を行う。
- ・表層的な建築デザインや抽象的なデザインコンセプトに満足することなく、構造デザインや環境・設備計画的な視点を導入し、高度な建築として統合するための実践的な演習を行う。これを達成するため、指導スタッフには意匠設計の他、構造、環境の専門家が加わる。
- ・本演習は、学部大学院を結ぶバーティカルスタジオと位置付け、4年生春学期の「建築設計スタジオ2-ab」と合同で実施する。

授業内容

- [第1回] ガイダンス
 (1)ガイダンス、課題の説明
 (2)類似事例の紹介
 (3)レクチャー(意匠・計画)
 (4)グループ作業 ※スタジオごと
- [第2回] エスキース(1)
 (1)建築プログラム、ボリュームスタディ、空間構成
 (2)法的条件と形態の関係
 (3)レクチャー(構造計画)
- [第3回] エスキース(2)
 (1)基本プラン
 (2)構造計画・環境計画
 (3)レクチャー(環境設備)
- [第4回] 中間発表会 ※外部の専門家による講評
 (1)進捗状況の確認、今後の進め方の確認、修正点のフィードバック
 (2)基本的な平、立、断のほか構造模型を提出
 (3)プレゼンテーション技術の獲得、図面表現
 /オーラル
- [第5回] エスキース(3)
 (1)平面詳細図、断面詳細図
 (2)構造計画・環境計画 構造形式、環境計画とそれに伴う設備
- [第6回] エスキース(4)
 (1)平面詳細図、断面詳細図
 (2)構造計画・環境計画 構造形式、環境計画とそれに伴う設備
- [第7回] エスキース(5)
 (1)平面詳細図、断面詳細図
 (2)構造計画・環境計画 構造形式、環境計画とそれに伴う設備
- [第8回] 最終講評会・学内展示会
 (1)講評会(プレゼンテーション技術の獲得、図面表現/オーラル)
 (2)外部の専門家による講評
 (3)優秀作品数点を学内に展示する。

履修上の注意

- ・学内インターンシップ
- ・演習の指導を担当する専任教員、及び兼任教員は、設計実務に精通した有資格者(一級建築士など)とする。
- ・「建築設計スタジオ2-ab」(学部4年春学期)、及び卒業設計を履修していることが望ましい。
- ・本演習は、学部大学院を結ぶバーティカルスタジオと位置付け、4年生春学期の「建築設計スタジオ2-ab」と合同で実施する。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回のエスキースや講評で受けたアドバイスや指摘事項を振り返り、適切に案の修正や改善を行うこと。また、次回のエスキースに向けてスケッチ、図面、模型を作成しながらスタディを進めること。不明な部分があれば、エスキースの際に質問し、指導教員とのやり取りの中で設計を発展させること。

教科書

課題内容(設計条件)はプリントを配布し説明する。

参考書

適宜、参考資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

中間発表、最終発表会を開催し、課題に対する講評を行う。また、最終発表会には外部から建築家を招聘し、講評をいただく。

成績評価の方法

各週のエスキース内容、中間発表の評価、最終提出の作品で評価する。指定された期限に作品を提出することが原則であり、期限に遅れた作品は減点対象となる。単位取得の条件は一級建築士が、建築設計について理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

- ・授業のうち実習の実時間(ガイダンス、展示を除く)は13回×200分=43.3時間。
- ・学生は上記の時間以外に履修期間を通じて合計77時間以上の設計作業を行う。
- ・履修期間を通じた実習時間は43+77=120時間以上とする。
- ・設計作業の内容は、設計案の検討、図面の作図、模型の作製等とする。
- ・作業の内容は所定の用紙に各自記録を付けること。教員は授業ごとに記録の内容を確認する。

科目ナンバー：(ST) ARC522J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	設計スタジオB		
開講期	秋学期集中	単位	演4
担当者	専任講師 博士(学術) 連 勇太郎 他		

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中にフィードバックを行う。

成績評価の方法

作業状況20%、最終講評会の提出物・発表を80%とする。
単位取得の条件は、一級建築士が建築設計について理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を当該水準の60%とする。

その他

授業の概要・到達目標

- ・既成市街地や集落などの特定地域をフィールドとした具体的で実践的な演習科目である。
- ・今日の地域社会が抱える諸問題やニーズを把握・分析・表現するスキル、問題解決だけでなく来るべき社会＝空間像を描く構想力、関連する法制度や事業計画の立案に関する一定の知識、これらを結合して具体的な地区や公共空間・建築物の計画および設計を行う能力の習得をめざす。
- ・今日の建築設計において前提となる、あるいは要請される構造・設備あるいは構工法・材料などの技術的水準、収支計画を含む事業計画の立案についても、当該年度の課題設定に組み込んで履修生にその基礎的な知識を習得させる。
- ・演習の指導を担当する教員は設計実務に精通した有資格者(一級建築士)とする。

授業内容

- [第1回] ガイダンス(計画・設計の課題と計画地の関連情報の説明)
- [第2回] ミニ課題:市場調査(調査方法の説明と演習・発表)
- [第3回] フィールドワーク(計画地及びその周辺地域の調査)
- [第4回] 事例スタディ(類似事例の現地調査・関係者ヒアリング)
- [第5回] グループディスカッション(現地関係者との意見交換)
- [第6回] ミニ課題(収支計画等の検討方法の説明と演習・発表)
- [第7回] エスキース(事業計画の提案仮説、コンセプト等)
- [第8回] 中間発表会(計画のコンセプト+事業スキーム)
- [第9回] エスキース(計画のコンセプト+事業スキーム)
- [第10回] 中間発表会(建築計画・設計案)
- [第11回] エスキース(建築計画・設計案)
- [第12回] エスキース(建築計画・設計案)
- [第13回] 課題提出・プレ講評会
- [第14回] 最終講評会(外部からの有識者等による講評)

履修上の注意

特にない。

準備学習(予習・復習等)の内容

- ・授業内で得られた指摘事項やアドバイスを振り返り、適切に案の修正や改善を行うこと。
- ・グループを編成して演習を実施するため、グループ単位で予習・復習等の作業を行うこと。

教科書

特に指定せず、参考資料を適宜配布する。

参考書

特に指定せず、参考資料を適宜配布する。

科目ナンバー：(ST) ARC561J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	構造性能特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(工学)	福田	隆介

授業の概要・到達目標

「構造性能特論」では、現在の構造設計に必要な不可欠な構造解析技術の基礎的な知識と技能を習得する。まず建設業における構造解析技術の利用状況を概観し、必要性を理解する。具体的な構造解析手法として、バネ要素を対象としたマトリクス構造解析の考え方と求解過程を習得する。次に、より一般的な有限要素法について理解するために、支配方程式の離散化について学習し、1次元問題の定式化を習得する。2次元の連続体要素に拡張するため、弾性力学の基礎を学習し、二次元アインパラメトリック要素の定式化および数値積分について習得する。併せて、建築構造に関わる最近の研究開発の概観し、構造設計技術者として必要な知識を習得する。

〈到達目標〉

構造設計に必要な構造解析の仕組みを理解し、正しく利用するための基本的な知識を学習する。有限要素法の考え方や要素の特徴を理解し、適切なモデル化の方法と解析結果の判断について学習する。

具体的な到達目標:

- (1) 力学モデルと数学モデルの関係を理解する。
- (2) 有限要素法の概念を理解する。
- (3) 実際の構造計算で有限要素法を利用する場合の注意点を理解する。

授業内容

- [第1回] 構造性能特論の授業の主旨説明
担当講師の自己紹介に引き続き、本授業の構造性能特論の主旨説明と受講者の自己紹介(研究テーマを含む)を行う。実務における構造解析の使われ方を紹介し、本講義の意義を理解する。
- [第2回] 構造解析のための基礎数学
構造解析の数学的扱いを理解するために、行列・ベクトル、微分積分を復習する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第3回] マトリクス構造解析
バネ/トラス要素から構成される力学モデルを数学モデルへ置換する方法について学習する。全体剛性マトリクスの構成と特徴を理解する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第4回] 連立方程式の解法
静的な力の釣合方程式が多元連立一次方程式で表されることを理解し、連立方程式をコンピュータで解く方法について理解する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第5回] 支配方程式の離散化(その1)
構造解析を構成する平衡方程式、適合条件式、構成方程式について学習し、支配方程式が変分方程式で表されることを学習する。偏微分方程式の差分法での離散化を学習する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第6回] 支配方程式の離散化(その2)
偏微分方程式の弱形式による表現について理解し、強形式と弱形式の関係を学習する。1次元問題を例にして、剛性行列の導出を学習する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第7回] 梁要素の定式化
梁要素の曲げ剛性を有限要素法に基づいて

導出し、有限要素法による定式化の理解を深める。

- [第8回] 弾性力学の基礎
連続体要素の理解に必要な応力やひずみなど弾性力学の基礎について学習する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第9回] 2次元問題の定式化
2次元アインパラメトリック要素を例として弾性力学に基づいた剛性マトリクスの導出方法を学習する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第10回] 数値積分法
剛性マトリクスの計算に必要な数値積分法について学習する。厳密解と数値積分によって得られる解との比較を行い精度について理解する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第11回] 有限要素解析(その1)
実際の構造設計に必要なモデル化の概念と手法について学習する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第12回] 有限要素解析(その2)
これまでの学習成果を復習し、理解を深めるとともに例題を通して有限要素解析の理解を深める。
学習目標:前回までに学んだ内容が実際の構造解析にどのように生かされているかを理解する。
- [第13回] 最適化の基礎
今後の構造設計で重要な技術の一つである最適化の基礎的な知識を学び、構造解析と最適化技術の関係について理解する。
学習目標:上記内容を理解すること。
- [第14回] 構造解析を行う上での注意点について理解する。講義を通して学んだことに対するレポートを作成する。

履修上の注意

内容を理解するために必要な力学に関する力学的な予備知識は構造力学と構造解析である。数学的予備知識としては、微積分学、線形代数の基礎的なレベルが必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業配布資料の内容について、わからないことを明確にしておくこと。授業後は配布資料や参考書を参照しながら、関係式の導出過程や構造解析の手続きを復習すること。

教科書

講義時に必要な資料を配布する

参考書

「有限要素法 ABAQUS Student Edition付」, 丸善出版
「構造解析のための有限要素法実践ハンドブック」, 森北出版
「よくわかる連続体力学ノート」, 森北出版

成績評価の方法

レポートによって評価する。レポートは前半と後半の2回提出を求める。合計得点が60%以上を単位取得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC561J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	鉄筋コンクリート構造特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(工学) 晉 沂雄		

授業の概要・到達目標

〈科目種別〉：インターンシップ関連科目(講義)

〈授業の概要〉

鉄筋コンクリート(RC)構造の力学特性及び地震時挙動、現行の耐震設計基準及び耐震性能評価法、また既存建築物の耐震診断基準及び震災建築物の被災度区分判定基準について実例題を含め講義する。設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。

〈到達目標〉

現行の耐震設計基準に基づく鉄筋コンクリート造建物の構造計算及び耐震性能評価法について理解し、既存建築物の耐震診断及び震災建築物の被災度区分判定を通じて、耐震構造設計のあり方について理解することを目的とする。

授業内容

- [第1回] 鉄筋コンクリート構造の力学特性：鉄筋及びコンクリートの材料特性、鉄筋コンクリート構造の要求性能について説明する。
- [第2回] 鉄筋コンクリート部材の曲げ及びせん断挙動：鉄筋コンクリート部材の曲げ及びせん断挙動・耐力計算法について説明する。
- [第3回] 地震被害及び構造設計の歴史：過去の地震における鉄筋コンクリート造建物の被害と耐震設計基準の変遷について説明する。
- [第4回] 現行の耐震設計基準(1)：建築基準法施行令における現行の耐震設計基準について説明する。
- [第5回] 現行の耐震設計基準(2)：現行の耐震設計基準に基づき、鉄筋コンクリート造建物の構造計算(許容応力度設計・終局強度設計)を行う。
- [第6回] 既存建築物の耐震診断(1)：耐震診断の必要性、耐震診断基準の概要について説明する。
- [第7回] 既存建築物の耐震診断(2)：耐震診断基準に基づき、鉄筋コンクリート造建物の耐震診断を行う。
- [第8回] 震災建築物の被災度区分判定(1)：被災度判定の必要性、震災建築物の被災度区分判定基準の概要について説明する。
- [第9回] 震災建築物の被災度区分判定(2)：被災度区分判定基準に基づき、震災した鉄筋コンクリート造建物の耐震性能残存率を算定し被災度の判定を行う。
- [第10回] 靱性保証型の耐震設計法：鉄筋コンクリート造建物における各種限界状態及び靱性保証型の耐震設計法について説明する。
- [第11回] 耐震性能評価(1)：鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価指針の概要及び耐震性能評価の手順について説明する。
- [第12回] 耐震性能評価(2)：限界耐力計算に基づき、鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価を行う。
- [第13回] 柱梁接合部の設計：柱梁接合部に発生するせん断破壊及び曲げ降伏破壊機構について説明し、柱梁接合部の設計法について説明する。
- [第14回] プレストレストコンクリート構造：プレストレストコンクリート構造の力学特性、施工技術、耐力及び変形の評価法について説明する。

履修上の注意

本講義は、鉄筋コンクリート構造及び建築構造分野に関する科目との関連性が深いので、これらの科目を履修していることが望まれる。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義内容を踏まえ、配布資料について復習・予習を行うこと。

教科書

特に定めない。授業の内容に応じて適宜関連資料を配布する。

参考書

- 「鉄筋コンクリート構造」、市之瀬敏勝、共立出版
- 「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」、日本建築学会
- 「既存鉄筋コンクリート建築物の耐震診断基準」、日本建築防災協会
- 「震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針」、日本建築防災協会
- 「鉄筋コンクリート造建物の靱性保証型耐震設計指針・同解説」、日本建築学会
- 「鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価指針(案)・同解説」、日本建築学会

成績評価の方法

演習及びレポート課題によって評価する。満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC511J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	先端建築特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(工学) 門脇 耕三 他		

授業の概要・到達目標

- 〈科目種別〉：インターンシップ関連科目(講義)
- ・建築計画, 建築設計, 建築環境, 建築設備, 建築材料, 建築構造に関する最新の技術動向等について, 各界実務者が講義を行う。
 - ・21世紀に入って建築や都市空間に対する要求条件は大きく変化してきた。それは価値観の多様化や地域立脚志向の強化あるいは地球環境問題への対応などである。しかし, 一方で建築や都市を支える建築技術や計画技術などの進化や変化が著しい。本科目では建築に関する社会経済情勢, 情報技術等の実務に直結する動向を理解し, 建築の実践に繋がる知識を習得することを目的とする。
 - ・建築実務の設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。

授業内容

- [第1回] 建築・都市づくりの新パラダイム:門脇耕三
一世界の人口動向, 地球環境問題, IT技術の進展等のマクロな動向
一建築・都市と密接に係る社会・経済動向
一21世紀型のパラダイムへ
- [第2回] 建築デザインの最先端の動向:大河内学
一現在社会における新たな課題を踏まえた上で, 現代の建築デザインの動向について解説し, それが何を指そうとしているかについて学ぶ
- [第3回] 免震技術の現状と来るべき大地震への備え:小林正人
一近年一般化しつつある免震技術の原理とその仕組みを解説し, 免震技術がもたらす建築デザインの可能性について講義する
- [第4回] マルチハザード時代の建築・都市計画:山本俊哉
一近年、世界的に地震や洪水等の自然災害、犯罪や感染症の拡大といった様々な危機(マルチハザード)に対処できる社会環境の整備が重要な課題になっている。これからの建築・都市計画が担う役割を考える
- [第5回] 排水がかわると建築がかわる?:光永威彦
一従来の排水システムの課題と, それを解決する拡張排水システムの技術および適用事例について学び, 排水による制限がなくなると建築がどのようにかわるかを考える
- [第6回] VR・AR・パーソナルファブリケーション等のITと建築のクロス:宮下芳明
一ITと建築の境界で立ち上がるプロジェクトについての知識を習得し, そのデザイン上・エンジニアリング上の課題と可能性について学ぶ
- [第7回] カーボンニュートラルに向けた建築環境設備デザイン:樋山恭助
一ファサードや設備設計の際に求められる環境性能や仕様を, 運用時のエネルギー使用の抑制と共にエンボディドカーボンの観点を含め考える
- [第8回] 建築プロジェクトと構法デザイン:門脇耕三
一建築プロジェクト形成の仕組と構法デザインの最先端の動向について学ぶ
- [第9回] アーバンデザインとまちづくり:未定
一都市や建築の成り立ちとその文脈を読み取り, 修復型の再生建築・都市デザイン分野を行う方法を探る。また, 公共空間のありかたや人間の生活について考察し, 持続可能な環境の保全を考える

- [第10回] シェル・空間構造の設計法の現状と今後の展開:熊谷知彦
一一般的なラーメン構造とは異なるシェル・空間構造の特徴について俯瞰した上で, 本構造に関する設計法の現状および課題について概説する
- [第11回] 木質構造の可能性とエンジニアリング業務:梶川久光
一現在社会における新たな課題を踏まえた上で, 現代の建築デザインの動向について解説し, それが何を指そうとしているかについて学ぶ
- [第12回] エンジニアリング, デザイン, BIM:小山明男
一デザイン, Eng.ツール, 資材調達ツール, CM, 現場管理ツールなど建築生産活動の支援ツールとしてIT(情報技術)が不可欠となっている。ここでは建築・都市づくり現場でのそれについて学ぶ
- [第13回] 不動産分野におけるプロジェクト評価の方法:山村能郎
一時代の先端に位置する代表的なプロジェクトをとりあげ, それぞれに内包されているプロジェクト評価の基本的手法を紹介するとともに, プロジェクトが周辺空間に及ぼす影響(社会的便益)の計測手法を解説し, 評価システムを活用する都市環境整備について学ぶ
- [第14回] 授業の総括:門脇耕三

履修上の注意

建築・都市デザイン, プロジェクト&マネージメント, 建築構造・材料, 環境・設備等の各分野を横断的に捉えた授業である。したがって, 受講者は自身の専門分野にかかわることなく履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業時に配布された資料を復習すること。講義に関連した書籍等を読み込み, 講義内容の理解が深まるように準備すること。

教科書

授業内容は, 毎回プリントしたものを配布する。

参考書

必要に応じて, 授業において提示する。

成績評価の方法

毎回, コメントシートを提出し, 14回分を総合して評価する。単位取得の条件は, 一級建築士が建築設計の実務において理解すべき水準に達しているか否かで判定し, その下限は60%とする。

その他

〈オフィスアワー〉
授業の内容に関する質問等がある場合の対応は, メール【kkad@meiji.ac.jp】によるアポイントメント制とする。質問に対する回答は, 原則として授業時間中に履修者全員と共有する。

科目ナンバー：(ST) ARC561J			
建築・都市学専攻 (建築学系)	備考		
科目名	シェル・空間構造特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士 (工学)	熊谷 知彦	

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

シェル・空間構造とは、大きな空間を柱無しで覆うことのできる構造形式の総称である。身近な建物としては、体育館、展示場等が挙げられる。本講義では、この構造形式について、発展の歴史、構造的特徴、構造形式の種類、理論などの観点から講義する。また、実構造物を例に挙げて、その構造設計の考え方についても講義する。

〈到達目標〉

シェル・空間構造の構造形式、理論などを理解し、通常のラーメン構造との違いを理解することを目標とする。具体的な到達目標：(1)各構造形式の特徴を理解する、(2)シェル理論を理解する。(3)実構造物の構造設計の考え方を理解する。

授業内容

- [第1回] シェル・空間構造の構造形式と歴史
シェル・空間構造には様々な構造形式が存在する。それらの構造形式の概要を説明した上で、発展の歴史について概観する。学習目標：構造形式の種類と特徴について把握し、その背景にある発展の歴史を理解すること。
- [第2回] シェル・空間構造における力の流れと支え方のデザイン
シェル構造とサスペンション構造を例にとり、それらの関係を論じることで相互の位置づけを試みる。その中で力の流れ方と支え方について解説する。学習目標：シェル構造とサスペンション構造の曲面内での力の釣り合いのメカニズムと境界での支え方について理解すること。
- [第3回] シェル・空間構造の構造形式1:アーチ構造
シェル・空間構造の最も基本的な構造形式であるアーチ構造についてその原理と力学的特徴(座屈荷重の計算法)について解説する。また、この構造形式を利用した実構造物等について紹介する。学習目標：アーチ構造の力学的特徴について理解すること。
- [第4回] シェル・空間構造の構造形式2:シェル構造
連続体により構成されるシェル構造についてその概要(定義、分類)と力学的特徴(座屈荷重の計算法)について解説する。また、設計事例や近年建設されている自由曲面シェルについても紹介する。学習目標：シェル構造の力学的特徴について理解すること。
- [第5回] シェル・空間構造の構造形式3:折板構造、膜構造
互いに傾斜した平面同士を接合した構造である折板構造と膜を屋根材兼構造物材として利用した膜構造について、それらに用いる材料や力学的特徴について解説する。学習目標：折板構造と膜構造の力学的特徴について理解すること。
- [第6回] シェル・空間構造の構造形式4:テンション構造
引張にのみ抵抗するケーブルやロッドをテンション材として利用した構造であるテンション構造の中でもケーブル材料を取り上げ、ケーブルの種類や力学的性質について解説する。また、簡単な形状解析についても取り扱う。学習目標：テンション構造の力学的特徴およびケーブル形状、応力、反力の算出法について理解すること。

- [第7回] シェル・空間構造の構造形式5:トラス構造
三角形により構成されるトラス構造についてその発展の歴史、組み方、接合部について概説する。また、ラチスドームの応力と座屈荷重の概略計算法についても解説する。学習目標：トラス構造の力学的特徴および応力、座屈荷重の概略計算法について理解すること。
- [第8回] シェル・空間構造の実例紹介：国立代々木競技場(半剛性吊構造)
シェル・空間構造の実例として国立代々木競技場を取り上げ、映像により理解する。学習目標：映像から実際のシェル・空間構造の構造的特徴を理解すること。
- [第9回] 幾何剛性を利用した構造デザイン
外力に対する変形やひずみが大きい構造では、構造物の形状変化により剛性が変化する。このことを幾何学的非線形と呼ぶ。シェル・空間構造では幾何学的非線形性が強く現れることが多く、適切に把握しておく必要がある。ここでは、幾何剛性を利用した構造デザインや幾何剛性マトリクスの導出について解説する。学習目標：幾何学的非線形性について理解すること。
- [第10回] 構造デザインにおけるスケール概念
実際の構造設計ではスケール概念を考慮しながら進める必要がある。特にシェル・空間構造はスケールの大きな構造物となることが多く、スケール概念が重要となる。ここでは、スケール概念の意味、それに関わる歴史上の出来事、概念の一般化について説明する。学習目標：スケール概念の重要性を理解すること。
- [第11回] シェル・空間構造の事例紹介1
シェル・空間構造の実物件を数例取り上げ、第10回までに理解した内容を基にその構造設計の考え方について発表し、履修者全員で議論する。学習目標：実構造物の構造設計の考え方について理解すること。
- [第12回] シェル・空間構造の事例紹介2
シェル・空間構造の実物件を数例取り上げ、第10回までに理解した内容を基にその構造設計の考え方について発表し、履修者全員で議論する。学習目標：実構造物の構造設計の考え方について理解すること。
- [第13回] シェル理論:曲げを伴わないシェル1
シェル面内に発生する力の釣り合いを微小な要素内の力の釣り合いから誘導する方法(シェル理論)について解説する。学習目標：シェル理論を理解すること。
- [第14回] シェル理論:曲げを伴わないシェル2
第13回に引き続き、シェル理論について解説する。ここでは、シェル内部の応力が一定である定強度シェルのシェル厚、形状の計算を例に解説する。学習目標：シェル理論を理解すること。

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に参考書の該当箇所を読み、次回の授業内容に関する専門用語について調べておくこと。また、復習として、ノート及び参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

特になし

参考書

「力学・素材・構造デザイン」、坪井善昭、他8名、建築技術「建築学構造シリーズ 建築空間構造」、皆川洋一 編著、オーム社
「建築構造のしくみ 第二版」、川口 衛、他3名、彰国社

「板とシェル理論〈上〉、〈下〉」、チモシェンコ、ヴォアノフスキーリーガー、ブレイン図書出版

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度解説する。

成績評価の方法

発表の資料(50%)および課題のレポート(50%)により成績評価を行う。満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC561J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築振動特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(工学)	小林 正人

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

建築物の合理的な耐震設計は、地震に対する建築構造物の動的挙動の正しい理解に基づく必要がある。この講義では構造物の動力学の基礎ならびに地震応答解析に関する基本的な事柄を取り上げ、今日の耐震設計の実務にどのように取り入れられているのかを講義する。

〈到達目標〉

構造物のモデル化、固有値解析・振動解析および地震荷重の算定を行うことができ、それぞれの関係性を把握できることを到達目標とする。

授業内容

- [第1回] a モジュール:イントロダクション。b モジュール：地震と地震動、マグニチュードと震度、強震観測の概況を解説し、その理論的背景について学習する。
- [第2回] 地震動データ1：国内外の強震観測や設計用地震動の状況を把握し、主要な地震動データを実際に収集して、これらの特徴を理解する。
- [第3回] 地震動データ2：収集した国内外の強震観測データや設計用地震動について、その背景や特性を分析し、授業内で発表する。さらに履修者とのディスカッションを通じてその理解を深める。
- [第4回] 建物のモデル化(振動解析モデル)：構造設計に必要な構造解析モデルについて把握し、特に地震応答解析に利用される振動モデルの種類とその特徴について理解する。
- [第5回] 1質点系の減衰自由振動：減衰自由振動の運動方程式を解き、過減衰の場合も含めてその解の性質を分析する。
- [第6回] コンピュータ演習1：1質点系の減衰自由振動の性質についてコンピュータを利用した分析を行い、その内容に関する発表を行い、ディスカッションする。
- [第7回] 1質点系調和加振の強制振動：正弦波入力に関する強制振動の運動方程式を扱う。さらに、入力振動数および建物の減衰定数をパラメータとする共振曲線、動的増幅率、位相差関数の分析を行う。
- [第8回] コンピュータ演習2：動的増幅率、位相差関数の理解を深めるために、コンピュータを利用した分析を行い、その内容に関する発表とディスカッションを行う。
- [第9回] ランダム地動入力の強制振動：ランダム地動入力による建物の地震応答を扱う。また、その応答計算に必要な数値積分法について理解する。
- [第10回] 地震応答スペクトル：耐震設計において必要不可欠となる地震応答スペクトルについて、その工学的位置づけや分析手法について理解する。
- [第11回] コンピュータ演習3：ランダム地動に対する応答と地震応答スペクトルの理解を深めるために、コンピュータ演習を行う。さらに、その内容に関する発表とディスカッションを行う。
- [第12回] 多自由度系の応答とモーダルアナリシス1：多自由度系の弾性振動とその解析手法について扱う。また、モーダルアナリシスの工学的有用性について理解する。
- [第13回] 多自由度系の応答とモーダルアナリシス2:モー

ダルアナリシスを利用して設計用の地震荷重を算定する演習を行う。さらに、その内容に関する発表とディスカッションを行う。

[第14回]

免震構造と制振構造：免震構造および制振構造の仕組みについて調査し、その具体的な事例を収集する。さらに、その内容に関する発表とディスカッションを行う。

履修上の注意

この授業は、建築構造系科目および構造力学系科目との関連が深いので、これらの科目を履修していることが重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業配布資料の内容について、次のことを準備学習として行うこと

授業前：授業内容に関連する4年次までの応用力学、構造力学の学習内容の振り返り

授業後：参考書などを参照しながら、振動理論および関係式の導出過程を復習し、レポート課題に取り組むこと

教科書

特に定めない。

授業の内容に応じて適宜資料を配布する。

参考書

- 『最新耐震構造解析』, 柴田明德 著, (森北出版)
- 『新・地震動のスペクトル解析入門』, 大崎順彦 著, (鹿島出版会)
- 『DYNAMICS OF STRUCTURES』, ANIL K. CHOPRA, (Pearson Prentice Hall)
- 『免震構造設計指針』, (日本建築学会)

課題に対するフィードバックの方法

レポートの採点結果等は、Oh-ol Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

グループワークの事前準備資料および数回のレポート提出によって、到達目標への到達度を評価する。満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC571J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	資源循環特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(工学)	小山	明男

授業の概要・到達目標

本授業では、「環境負荷の少ない循環を基調とした経済社会の構築」に向けて、「人口」「食料」「環境」「資源」「エネルギー」の5大問題、あるいは我が国における自然災害の発生・被害状況と防災対策の現状を認識し、21世紀においても持続可能な発展が可能な資源循環の方策について学習する。

解体工事や廃棄物処理の現状、ならびに国内外の建築資材(コンクリート、木、ガラス等)の再資源化に関わる技術を中心に紹介し、建築材料の資源循環性とそれが及ぼす環境影響について習得させる。リサイクル製品の品質確保のための諸条件について、材料特性や社会的な背景など様々な面から検討することで、今後の建築材料、建築生産のあり方について習得させる。

授業内容

- [第1回] 持続的発展に関する世界の5大問題の位置づけについて解説する。
- [第2回] 資源循環および環境汚染の歴史的経緯について講義する。
- [第3回] 過去におけるリサイクルの実践例について講義する。
- [第4回] 建築のライフサイクルと資源循環等について講義する。
- [第5回] 世界および日本を襲った過去の大災害の記録(地震、津波、台風、洪水、火山等)をリストアップし、その被害例を分析し、我が国の自然災害の特異性を明らかにするとともに防災対策の現状を講義する。
- [第6回] 我が国における建築資材のマテリアルフローを示し、建設産業における膨大な資源消費・ストックなどについて認識させ、資源循環性を中心とした建設資材が環境に及ぼす影響について講義する。
- [第7回] 循環型社会構築のための国や企業の取り組みなど現在の動向と今後将来のあり方について概説する。
- [第8回] 建設資材再資源化のための技術開発として、コンクリートの再資源化技術を解説する。
- [第9回] 建設資材再資源化のための技術開発として、木材の再資源化技術を解説する。
- [第10回] 建設資材再資源化のための技術開発として、ガラスの再資源化技術を解説する。
- [第11回] 建設資材再資源化のための技術開発として、プラスチック等の仕上げ材の再資源化技術を解説する。
- [第12回] リサイクル製品の開発のために必要な建築物の解体から再資源化原料製造までの諸条件、リサイクルを阻害する要因について学び、リサイクル促進のための取り組み方について解説する。
- [第13回] 環境影響を考慮した建築材料の評価システムとして環境物品の認証等に使用されているものについて概説し、環境共生型建設資材の製造、建設、供用、解体・廃棄、再資源化といったライフサイクルを通じての評価方法・材料選定方法を習得する。
- [第14回] 21世紀の持続的発展に係わる諸問題について、復習・総括する。

履修上の注意

リサイクル施設や廃棄物処理施設などの見学会を企画する。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回授業の内容に係わる建築材料の特性について復習しておくこと。また、授業で説明したトピックについて自ら調べること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。資料はその都度配布する。

課題に対するフィードバックの方法

各回に提出させるコメントシートについて、次の授業内等でフィードバックする。

成績評価の方法

各回のコメントシートおよびレポートによって評価する。合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC571J			
建築・都市学専攻（建築学系）	備考		
科目名	建築施工特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(工学) 松沢 晃一		

授業の概要・到達目標

〈科目種別〉：インターンシップ関連科目(講義)

建築生産における施工について、工事監理・施工管理あるいは部位・材料の品質管理と、設計および工事監理の考え方を習得する。施行管理・品質管理業務および設計・工事監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。

授業内容

建築生産における施工について、建築のライフサイクルを通じて理解を深める。施工管理および品質管理と、設計および工事監理の現状、今後の動向を理解させるとともに、倫理観についても建築技術者として必要な考え方を示す。

具体的な授業計画は以下のとおりである。

- [第1回] 建築施工・概説
講義内容の概略、本講義の根幹をなしている建築生産の中での施工の位置付けについて概説する。さらに、施工管理および品質管理と、設計および工事監理の基本的な考え方を説く。
- [第2回] 施工管理
建設業および建築工事について、QDCS (Quality, Cost, Delivery, Safety) & E (Environment) の側面から概説し、建築におけるリスクの考え方、施工管理の要点および建築技術者に求められる能力や倫理について学ぶ。
- [第3回] 土工事、山留め工事、杭・地業および基礎工事
土工事、山留め工事、杭・地業および基礎工事に用いる材料、各種工法などについて概説し、施工管理および品質管理と、設計および工事監理の要点などについて学ぶ。
- [第4回] 鉄筋コンクリート工事(その1)
鉄筋コンクリート工事の流れを概説し、品質管理・検査方法やその要点を学ぶことで工事監理者として必要な知識の習得を図る。
- [第5回] 鉄筋コンクリート工事(その2)
鉄筋コンクリート工事の流れについて、その詳細を解説し、コンクリート品質の確保に必要な工事監理・施工管理方法の要点を学ぶ。なお、プレキャストコンクリート工法の種類や特徴についても概説する。
- [第6回] 建築施工と倫理(その1)
建築における最近の課題や問題点に関する具体的事例を取り上げ、コンプライアンスと品質管理のあり方などについて討議(ディスカッション)を行う。
- [第7回] 鉄骨工事(その1)
鉄骨工事の流れ、鉄骨の種類と特徴などについて概説する。また、鉄骨の製作方法を解説し、鋼材材質の検査、溶接接合・高力ボルト接合および製品検査の要点を習得する。
- [第8回] 鉄骨工事(その2)
大空間建築物などを事例として、実際の鉄骨工事の要点について解説する。また、不具合事例等を参考に品質管理のあり方を学ぶ。
- [第9回] 建築物の保全と長寿命化(その1)
建築物の保全に必要な点検・診断、維持管理技術の要点などについて解説する。
- [第10回] 建築物の保全と長寿命化(その2)
建築物の耐久性を考慮した設計・施工ならびに延命化のための補修・補強技術の要点などについて解説する。

- [第11回] 建築施工と環境(その1)
建築工事と建設副産物対策について概説する。さらに、事例を交えて解説し、法令に則した環境対策のあり方を習得する。
- [第12回] 建築施工と環境(その2)
コンクリート塊のリサイクルを題材として、再生資源特有の設計や品質管理方法などについて解説する。
- [第13回] 建築施工と倫理(その2)
建築における最近の課題や問題点に関する具体的事例を取り上げ、建築施工に携わる技術者に必要な能力と倫理について討議(ディスカッション)を行う。
- [第14回] 総まとめ
講義の総まとめを行い、一級建築士として必要な監理能力や倫理観の習得を図る。

履修上の注意

本講義のほかに「建築材料特論」を履修すると理解が深まる。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義では、前回の内容を復習するため、前回の資料について内容を整理し、疑問点等を纏めておくことよい。

教科書

特になし。必要に応じて講義内容にふさわしい資料(文献、プリント等)、スライド(PPT等)を用意する。

参考書

- ・日本建築学会:建築工事標準仕様書・同解説(JASS 3 土工事および山留め工事, JASS 4 杭・地業および基礎工事)
 - ・日本建築学会:建築工事標準仕様書・同解説(JASS 5 鉄筋コンクリート工事)
 - ・日本建築学会:建築工事標準仕様書・同解説(JASS 6 鉄骨工事)
 - ・日本建築学会:鉄筋コンクリート造建築物の環境配慮施工指針(案)・同解説
- その他、必要に応じて適宜紹介する。

成績評価の方法

レポートによって評価する。一級建築士として必要な監理能力や倫理観に関するレポート(課題は講義時に提示する)で60%以上の知識の習得によって単位を与える。

その他

特になし。

科目ナンバー: (ST) ARC562J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	構造設計演習A		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	兼任講師 博士(工学)	兼近 稔	

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

鉄筋コンクリート構造を主な対象とし、構造設計実務に即した課題を用いて構造設計の演習を行う。

この演習は、構造設計の実務に精通した一級建築士が担当する。

〈到達目標〉

設計・監理業務に関連して必要不可欠な事項を演習により身につける

授業内容

- [第1回] 構造設計業務の概要
(1)構造設計者の仕事
(2)構造設計図面の説明
- [第2回] 自重による荷重の計算
(1)自重時に考慮する各種荷重の算定
(2)剛性計算, C, Mo, Qoの算定
- [第3回] 自重時の応力計算
(1)自重時の応力算定演習
(2)鉛直荷重時柱軸力の算定演習
- [第4回] 地震による荷重の計算
(1)地震時に考慮する各種荷重
(2)地震時荷重の算定演習
- [第5回] 地震時の応力計算
(1)地震時応力の算定演習
(2)地震時柱軸力算定演習
(3)自重と地震による応力の組合せ
- [第6回] 鉄筋コンクリート梁の設計
(1)梁の設計法
(2)梁の設計演習
- [第7回] 鉄筋コンクリート床スラブの設計
(1)床スラブの設計法
(2)床スラブの設計演習
- [第8回] 鉄筋コンクリート柱の設計
(1)柱の設計法
(2)柱の設計演習
- [第9回] 鉄筋コンクリート造保有水平耐力の計算
(1)保有水平耐力の計算法
(2)必要保有水平耐力の計算演習
(3)保有水平耐力の計算演習
- [第10回] 建設会社研究所視察-1
(1)展示施設関連施設視察
(2)構造実験関連施設視察
- [第11回] 建設会社研究所視察-2
(1)荷重実験関連施設視察
(2)地震観測関連施設視察
- [第12回] 鉄筋コンクリート造構造設計事例演習-1
(1)課題説明
(2)課題に対する荷重および応力算定演習
- [第13回] 鉄筋コンクリート造構造設計事例演習-2
(1)課題に対する梁構造設計演習
(2)課題に対する柱構造設計算定演習
- [第14回] 鉄筋コンクリート造構造設計事例演習-3
(1)課題に対する保有水平耐力算定演習

履修上の注意

この授業は、建築構造系科目および構造力学系科目との関連が深いため、これらの科目を履修していることが重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容を踏まえて、配布資料について復習を行うこと。
不明な部分があれば授業で質問すること。

教科書

特に定めない。
授業の内容に応じて適宜資料を配布する。

参考書

- ・鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説—許容応力度設計法一，日本建築学会
- ・建築工事標準仕様書JASS 5鉄筋コンクリート工事，日本建築学会
- ・2015年度版建築物の構造関係技術基準解説書，全国官報販売協同組合

課題に対するフィードバックの方法

提出された資料に基づき、Oh-ol Meiji内で指摘，確認をおこなう。

成績評価の方法

成績は、構造設計演習結果で評価する。単位取得の条件は一級建築士が構造設計について理解すべき水準に達しているか否かで判定しその下限を60%とする。

その他

特になし

科目ナンバー：(ST) ARC562J			
建築・都市学専攻（建築学系）	備考		
科目名	構造設計演習B		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	兼任講師	博士（工学）	對比地 健一

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

構造設計実務に即した課題を用いて、鉄骨造の構造設計の演習を行う。

この演習は、構造設計の実務に精通した一級建築士が担当する。

〈到達目標〉

設計・監理業務に関連して必要不可欠な事項を演習により身につける。

授業内容

鉄骨造の構造設計実務に即し、以下の内容の構造設計演習を行う。

- [第1回] 設計者の役割と構造設計
- [第2回] 設計用荷重と使用材料
- [第3回] 応力計算および保有水平耐力
- [第4回] 引張材・圧縮材の設計
- [第5回] 曲げ材の設計
- [第6回] 曲げと軸力を受ける部材の設計
- [第7回] 接合部の設計(1)
- [第8回] 接合部の設計(2)
- [第9回] その他の設計
- [第10回] 積算，耐震診断
- [第11回] 工事監理
- [第12回] 設計者の責任と技術者倫理
- [第13回] 実施設計例
- [第14回] まとめ

なお、
構造計算を伴う構造設計演習では、構造計算プログラムを利用する場合がある。
工事監理演習に際しては、映像視聴を行う場合がある。
構造設計演習に際し、学外実習を伴う活動を行う場合がある。

履修上の注意

この授業は、建築構造系科目および構造力学系科目との関連が深いため、これらの科目を履修していることが重要である。

構造設計演習には、関数電卓を使用する。

なお、構造計算プログラムを利用する場合には、PCを使用する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容を踏まえて、配布資料について復習を行うこと。
不明な部分があれば授業で質問すること。

教科書

特に定めない。
授業の内容に応じて適宜資料を配布する。

参考書

- 『2020年版建築物の構造関係技術基準解説書』，全国官報販売協同組合
- 『鋼構造許容応力度設計規準』，日本建築学会
- 『鋼構造塑性設計指針』，日本建築学会
- 『鋼構造限界状態設計指針・同解説』，日本建築学会
- 『建築工事標準仕様書JASS 6鉄骨工事』，日本建築学会

課題に対するフィードバックの方法

演習課題の解答および解説は、授業内の演習にて随時行う。

成績評価の方法

レポートで評価し、単位取得の条件は、一級建築士が理解すべき水準に達しているか否かで判断し、その下限を60%とする。

その他

特になし

科目ナンバー：(ST) ARC551J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築環境工学特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(工学)	酒井 孝司

授業の概要・到達目標

概要：地球環境に配慮し、健康かつ安全で快適な建築・都市環境を実現するための諸技術を対象に、環境設計手法のコンセプト、長所・短所、評価手法について講義する。また、環境性能評価手法について解説し、環境性能に優れたプロジェクトについて、考察する。

到達目標：本講義では、建築物の環境設計手法の理解、環境性能評価手法の理解、日射遮蔽手法、外気導入手法の把握を到達目標とする。

授業内容

- [第1回] 地球環境問題と建築環境工学の役割
 建築が地球温暖化に及ぼす影響と、建築が果たすべき役割について学ぶ。
 目標：地球温暖化問題、建築のエネルギー消費構造の理解。
- [第2回] ヒートアイランド問題
 人工被覆物が大気に及ぼす影響について学ぶ。
 目標：建築物が周辺環境に及ぼす影響と対処法の理解緑化
- [第3回] 建築と消費エネルギー
 建築のエネルギー消費構造について学ぶ。
 目標：エネルギー消費原単位の理解。
- [第4回] 建物の環境性能評価1
 環境に配慮した建築の評価手法について学ぶ。
 目標：CASBEE評価、省エネルギー法の理解。
- [第5回] 建物の環境性能評価2：環境性能
 CASBEE評価の環境性能を構成する要素の性能と役割について学ぶ。
 目標：CASBEE評価における環境性能の理解。
- [第6回] 建物の環境性能評価3：環境負荷
 環境負荷を構成する要素の性能と役割について学ぶ。
 目標：CASBEE評価における環境負荷の理解。
- [第7回] 環境品質：室内の温熱的快適性
 居住者の快適性に関わる物理現象と環境制御の必要性について学ぶ。
 目標：人体熱収支に影響を及ぼす要因に関する理解。
- [第8回] 環境共生手法1：日射遮蔽
 CASBEE事例を通して、夏期における日射遮蔽手法の原理と適用例について学ぶ。
 目標：日射遮蔽手法の原理、適用方法の理解
- [第9回] 環境共生手法2：通風・自然換気
 CASBEE事例を通して、通風・自然換気の原理と利用可能性について学ぶ。
 目標：風力換気、自然換気の原理、適用方法の理解。
- [第10回] 環境共生手法3：日射熱取得手法
 CASBEE事例を通して、冬季における日射取得手法の原理と具体例について学ぶ。
 目標：日射取得手法の原理、適用方法の理解
- [第11回] 環境共生技術1：太陽エネルギー利用
 太陽エネルギー利用建築を通して、太陽熱利用、太陽光発電の具体例について学ぶ。
 目標：太陽エネルギー利用可能性の理解。
- [第12回] 環境共生技術2：熱源設備と蓄熱利用技術
 ヒートポンプ、燃料電池の原理と、CASBEE事例を通して蓄熱利用技術について学ぶ。

- 目標：ヒートポンプの理解。CO2排出原単位の理解。
- [第13回] 環境共生技術2:断熱・気密性能の確保と施工法
断熱性能の評価手法について学ぶ。
- [第14回] 環境建築の将来
環境建築について総括し、将来の方向性を考える。

履修上の注意

建築環境・設備に関する科目を受講していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

翌週の講義内容に関連する予習を求める（60分程度）。
環境共生手法の設計・計算法に関する課題（日射遮蔽、通風、断熱性能、日射利用）、環境共生建築の事例調査に関する課題を課す（各週当たり60分程度）。

教科書

毎回、資料配布

参考書

自然エネルギー利用のためのパッシブ建築設計手法事典、彰国社、2800円
環境建築ハンドブック:建築ジャーナル、2200円
事例に学ぶCASBEE、日経BP社

課題に対するフィードバックの方法

課題レポートの解説および点数については、Oh-o! Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

環境共生手法の設計・計算法に関する課題（日射遮蔽、通風、断熱性能、日射利用）、環境共生建築の事例調査に関する課題で評価する。単位取得の条件は、一級建築士が環境共生手法の設計・計算法について理解すべき水準に達しているか否かで判定し、その下限を60%とする。

その他

〈科目種別〉：インターンシップ関連科目（講義）
・講義を通して、インターンシップを行う上で、建築設備設計者として必要な環境設計における考え方等の必要な知識を身につけさせる。
・設計・監理業務におけるインターンシップに関連して必要不可欠な講義である。

科目ナンバー：(ST) ARC551J			
建築・都市学専攻（建築学系）	備考		
科目名	建築環境評価特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士（工学）	上野 佳奈子

授業の概要・到達目標

〈到達目標〉
住居・建築・都市などの環境評価における主要な調査分析手法を習得することを目標とする。
〈授業の概要〉
当該研究分野における調査分析法・基礎理論を概観した後、調査分析手法の講義とその手法を用いた演習により学習を行う。

授業内容

- [第1回] 建築環境心理分野における調査分析手法概観
環境に対する人の要求や評価・課題を知るための調査・分析手法について概観する。
- [第2回～4回] 人間と環境のモデル
環境が人に与える影響を記述するための基礎理論、心理モデルについて学ぶ。
- [第5回～7回] 評価構造の調査
評価グリッド法などの探索的調査手法について学び、実施とまとめを体験する。
- [第8回～9回] アンケートによる調査
アンケートの作成・実施に関わる基本事項を学び、事例から有用性を考察する。
- [第10回～11回] 心理評価実験
心理評価実験を行う際の基本事項、実験計画法について学び、事例から有用性を考察する。
- [第12回～13回] データ分析の方法
調査・実験により得られた量的データを解釈するための統計的手法を理解し、分析を体験する。
- [第14回] まとめ
本講義で学んだ手法を各自の研究に活用する可能性を考察する。

履修上の注意

パソコンを用いた分析演習を行うので、ノートPC等を適宜、用意すること。授業時間内に終了しない演習課題については各自で取組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業資料を再読して復習し、授業内容の理解の定着に努めること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

「よりよい環境創造のための環境心理調査手法入門」、日本建築学会編、技報堂
「住まいと街をつくるための調査のデザインーインタビュー/アンケート/心理実験の手引き」、日本建築学会編、オーム社

課題に対するフィードバックの方法

各課題の解説は授業中に行う。

成績評価の方法

毎回の授業・演習への取組みと、レポートによるものとで総合的に行う。評価の重みは、それぞれを50%とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC551J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築水環境特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(工学)	光永 威彦	

授業の概要・到達目標

地球、地域・都市、建築の水および給排水設備について概観し、給排水設備の位置づけと将来の水環境について考察する。これにより、水の物理・化学的特性、水使用や水循環に関する基礎知識と応用技術を習得する。

授業内容

各回下記に示すテーマに沿って、輪講方式により議論・討論する。

- [第1a回] ガイダンス・イントロダクション
- [第2回] 地球と水
- [第3回] 水の不思議(物理・化学的特性)
- [第4回] 気象と水
- [第5回] 文明と水
- [第6回] くらしと水
- [第7回] 未来の水
- [第8回] 感染症と水
- [第9回] 人と水
- [第10回] 産業・教育と水
- [第11回] レジリエンスと水
- [第12回] 水循環
- [第13回] 気候変動対策と水
- [第14回] 総括

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

対象テーマに関する指定図書および関連資料について予め学習し、発表資料をまとめる。

教科書

特に指定しない。随時資料等を配布する。

参考書

- ・清田佳美:水の科学 第2版 水の自然誌と生命、環境、未来、オーム社
- ・給排水設備研究会創立40周年記念事業出版記念誌委員会: NPO給排水設備研究会創立40周年記念誌 水の未来-過去から現在、そして未来へ続く水の営み-
- ・坂上恭助:トラップ 排水システムの歴史と役割、彰国社
- ・日本地下水学会、井田徹治:見えない巨大水脈 地下水の科学-使えばすぐには戻らない「意外な希少資源」、講談社
- ・ダヴィド・ブランシュン:地図とデータで見る水の世界ハンドブック、原書房
- ・菅沼栄一郎、菊池明敏:水道が危ない、朝日新聞出版

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する解説は、その授業における輪講時に実施する。

成績評価の方法

毎回の講義・演習への取り組み(50%)と演習課題の成果発表(50%)で評価する。単位取得の条件は、専門用語の理解度、水環境について、理解すべき水準に達しているか否かで判断し、その下限を60%とする。

その他

特になし。

科目ナンバー：(ST) ARC656J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築数理情報分析特論 [M]		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(工学)	池田 伸太郎	

授業の概要・到達目標

深層学習(ディープラーニング)技術の飛躍的な進歩によって学術研究の発展のみならず産業や社会に大きな変革をもたらされている。画像認識AIやゲームAIは既に人間の能力を超えていることが示されており、古典的な最適化・探索技術も常に新しいアルゴリズムが提案・実用化されている。併せて、量子コンピューティングも限定的な場面(例えば組合せ最適化)において適用事例が徐々に報告されている。今後これらの先進技術に関する基礎的な知識や技術的限界に関する理解は、情報工学の専門家のみならず多様な産業の従事者にも求められる。

本講義では建築学を学ぶ学生を対象としているため、数学の詳細な理論解説はなるべく回避し、深層学習や最適化にまつわる基礎的な知識を幅広く習得することを目的とする。また、プログラミング実習を通じて簡易的なモデル作成を行うことで先端技術のメリット・デメリットやその適用範囲を受講者自身が正しく理解することを目的とする。なお、本講義で扱うプログラミング実習は、Pythonの初学者に対応したレベルを想定している。機械学習の初学者でも無理なく学習できるよう配慮し、各手法の適用事例を踏まえつつ、アルゴリズムの原理及び簡易的な手法の実装力を身につける。

授業内容

- [第1回]人工知能の歴史と動向及び建築環境・設備分野の最適化研究動向 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第2回]機械学習手法の分類と評価指標 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第3回]ニューラルネットワークとディープラーニング [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第4回]時系列データ処理① 理論 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第5回]時系列データ処理② プログラミング演習 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第6回]デマンド予測コンテスト(グループワーク) [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第7回]ベイズ統計と機械学習の基礎 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第8回]深層強化学習と建築設備応用 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第9回]最適化の概要と線形計画法① 理論 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第10回]線形計画法② プログラミング演習 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第11回]非線形計画法と動的計画法 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第12回]組合せ最適化とメタヒューリスティクス① 理論 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第13回]組合せ最適化とメタヒューリスティクス② プログラミング演習 [メディア授業(リアルタイム配信型)]
- [第14回]量子コンピューティングの基礎及び建築設備への応用 [メディア授業(リアルタイム配信型)]

履修上の注意

この授業はメディア授業科目として開講される。授業はすべて、リアルタイム配信型で行う。オンライン講義への接続情報は、クラスウェブを通じて案内する。出席はオンライン上で確認する。学生等と教員は、講義中にオンライン

上で意見交換ができる。履修者からの連絡窓口は「その他」に記載。

授業は講義を中心に行うが、一部Pythonによるプログラミング演習及びグループワークを行う。Pythonはブラウザベースの開発環境(Google Colab)を用いる予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

学修効果を上げるため、参考書や配付資料等の該当箇所を参照し、「毎授業」授業内容に関する予習と復習（課題含む）を行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『深層学習教科書 ディープラーニングG検定（ジェネラリスト）公式テキスト第2版』猪狩宇司ら（翔泳社）2021年

課題に対するフィードバックの方法

グループワークの講評は第6回にて実施する。

成績評価の方法

講義・プログラミング演習への参加（30%）、レポート提出（70%）により評価する。対面形式での試験は行わない。

その他

本講義に対する質問は、建築環境デザイン研究室 (hiyama@meiji.ac.jp) まで

科目ナンバー：(ST) ARC551J			
建築・都市学専攻（建築学系）	備考		
科目名	空調設備特論		
開講期	秋後期	単位	講2
担当者	専任教授 博士（工学）	樋山 恭助	

授業の概要・到達目標

カーボンニュートラル社会の実現を目指し、「先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを旨とした建築物」と定義されるZEBを実現するため、必要となる空調設備に関する知識と技術を習得を行う。

授業内容

[第1回] イントロダクション（社会背景と空調設備設計に求めるもの）

[第2-5回] ZEBと空調設備
・ZEBの定義と社会要求
・ZEBの評価手法
・新築ZEBの実現に向けた空調設備の設計
・改修ZEBの実現に向けた空調設備による省エネ化

[第6-9回] 空調設備と温暖化ガス排出
・カーボンニュートラルの基礎知識
・ライフサイクルアセスメントによる二酸化炭素排出量の評価
・建築物の低炭素化と空調設備
・環境配慮における低炭素化期待値の試算

[第10-13回]
・建築設備を取り巻く社会動向
・環境建築物の最新動向
・低炭素に寄与する建築設備・都市設備の最新動向
・環境価値向上に寄与する建築設備の最新動向

[第14回a] まとめ

履修上の注意

パソコンを用いた計算演習を実施するので、ノートPC等を適宜用意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配布するプリントを用い講義内容をふりかえり、授業で示された演習問題を的確に解答できるよう復習をすること。また、不明な部分があれば次の授業で質問すること。

教科書

指定なし。適宜プリントを配布する。

参考書

「空気調和・衛生工学便覧」など、適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説を講義中に行う。

成績評価の方法

毎回の講義・演習への取り組み（50%）と、演習課題の成果発表内容（50%）で評価し、単位取得条件の下限を60%とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ARC652J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	建築設備設計演習		
開講期	秋前期	単位	演2
担当者	兼任講師 博士(工学)	生田 紀夫	

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

施主の要求事項を理解し、事務所建築の建築設備のうち、特に空調・換気設備について、設計を通してそれらの設計法を理解する。併せて設計実務に即した演習の中で、設備設計者に必要な視点での考え方を学び、統合的に建物の機能性を考える。

<到達目標>

- 実務に即した建築設備の設計を行う。
- (1) 要求事項に適合する建築設備の設備内容と設計法を理解する。
 - (2) 環境建築に適合する建築設備の設備内容と設計法を理解する。
 - (3) 統合的に建物の機能性を考えられる知識を習得する。

授業内容

- [第1回] 授業予定と序論
建築設備設計の流れについて解説し、授業内容と予定を説明する。
- [第2-4回] 設備設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
実務に即した課題の下で事務室の設計変更への対応を行う。
- [第5-6回] 環境配慮型建築の理解
環境建築を見学し、その設備構成を理解する。
- [第7-12回] 環境配慮型建築の提案Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ
環境配慮型庁舎の基本設計をグループワークにより議論し、まとめる。
- [第13-14回] 発表・講評
演習を通して作成した成果物の発表・講評を行い、講義における学びを深める。

履修上の注意

建築設備概論、空調計画、空調設備、給排水衛生設備を習得していることが望ましい。
発表資料の作成にパソコンを利用するので、授業参加時に各自持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に完成しなかった課題は次回授業まで完成させること。
次回の授業内容に関する専門用語について参考書や辞典等で調べること。

教科書

指定なし。

参考書

1. 『建築設備計画基準』、国土交通省大臣官房官庁営繕部 設備・環境課監修、(公共建築協会)
2. 『建築設備設計基準』、国土交通省大臣官房官庁営繕部 設備・環境課監修、(公共建築協会)
3. 『空気調和・衛生工学便覧Ⅰ～Ⅴ』、空気調和・衛生工学会編、(丸善)
4. 『建築環境工学用教材環境編・設備編』、日本建築学会編、(丸善)
5. 『建築設備学教科書』、建築設備学教科書研究会編、(彰国社)

課題に対するフィードバックの方法

授業中でのエスキスや第13-14回の発表時に講評を行う。

成績評価の方法

到達目標の(1)は、課題成果物で評価し、目標の(2)(3)はグループによる発表内容で評価する。成績評価の割合は、課題成果物(50%)、発表内容(50%)とする。合計が満点の60%以上を単位取得の条件とする。

その他

授業についての質問は建築環境デザイン研究室へ。この質問に対する回答は、原則として授業中に行う。

科目ナンバー：(ST) ARC652J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	先端環境設備設計スタジオ		
開講期	春前期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(工学)	樋山 恭助	

授業の概要・到達目標

<教育目標>

- ・建築設計、特に環境計画及び設備計画の発展のために必要となる実務的な能力を磨き、建築プロジェクトにおける環境設備設計のマネジメント能力を身につける
- ・統合デザインの実現に向け、建築空間計画と設備計画の調和を考える視座を身につける
- ・環境問題といった社会的な課題解決に資する環境建築プロジェクトを主導するために必要とされる論理的思考法を習得する

<授業の概要>

建築物の平面計画から建築物ファサードの仕様検討まで、広い視点での環境計画および設備計画を具体的な設計課題を通して経験すると共に、その実現に向けた具体的なアプローチ方法を身につける。課題を通して建築環境工学的視点に立って建築設計を探求することで、科学的合理性に基づく設計解を導く術を身につける。

授業内容

第1回：イントロダクション（建築設計における環境計画及び設備計画）

第2-7回：課題演習A、建築外皮の環境性能予測

1. 課題の理解、エスキス
2. 建築モデルの作成
3. 建築環境系シミュレーションの応用技術の習得
4. 建築環境系シミュレーションによる環境性能予測
5. 建築環境系シミュレーションによる環境性能の最適化
6. 成果物の発表と討論

第8-13回：課題演習B、建築物の環境設計

1. 課題の理解、エスキス
2. 建築モデルの提案
3. 建築環境性能の予測
4. 建築環境性能の改善
5. 建築環境性能の最適化
6. 成果物の発表と討論

第14回：総括

履修上の注意

専門分野に拘わらず建築の環境設備設計に興味を持つ学生の履修を推奨する。

学部との共通講義である。毎年課題設定を変更するうえ、学部履修者と大学院履修者では達成目標を分けるため、学部講義履修済みのものも履修が可となる。

演習では建築環境系シミュレーションを使用するため、WindowsをOSとしたPCを受講用に準備すること

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の演習時や講評時に受けた指摘事項やアドバイスを振り返り、次回講義に向けたプログラム修正や必要知識の事前学習を実施すること

教科書

特に指定しない

参考書

講義時に適宜紹介する

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説を講義時に実習を通して行う

成績評価の方法

成績評価は課題提出物のアイデア、評価性能及び完成度に加え、課題解決に向けた計画と実践のマネジメント内容を総合的に判断し、総合評点60点以上の場合に単位取得ができる

その他

オフィスアワー：月曜日12:30～13:30、場所：4号館4階4303A室(建築環境デザイン研究室)

電子メールによる質問も可とする (hiyama@meiji.ac.jp)。

この質問に対する回答は、原則として授業中に行う。

科目ナンバー：(ST) ARC642J			
建築・都市学専攻(建築学系)	備考		
科目名	地域デザイン特論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(工学) 川島 範久		

授業の概要・到達目標

環境ポテンシャルをいかすエコロジカルな地域・建築デザインに向けたリサーチと実践
 これまで人間は地球を改変してきており、人間の生存条件である地球環境が不安定化してきている。このような時代における新たな地域のあり方を考えるヒントは、都心部よりも辺境である中山間地域や離島、地方中小都市や大都市近郊といった地域にあると考えている。そしてその地域の環境は、気候、地理・地形・地質、植生、生物・人間活動などの多角的な要素によって形成されている。本講義では、その環境ポテンシャルをいかすエコロジカルな地域・建築デザインのリサーチと実践(演習)を通して、地球環境危機の時代における新たな地域と建築の在り方を追求する。
 ・既成市街地や集落などの特定地域をフィールドとしたリサーチと実践(演習)を行う科目である。
 ・その地域が抱える問題やニーズ、およびその地域の環境ポテンシャルを把握・分析・表現するスキル、この地球環境危機の時代に求められる環境配慮型技術を用いた地域～建築の新しい在り方・暮らしの在り方を提案するための知識、これらを統合して具体的な地域におけるエリアや建築物の計画および設計を行う能力の習得を目指す。

授業内容

- [第1回] ガイダンス(対象フィールドと課題の説明)
- [第2回] 基礎情報のリサーチ(地形・気象データ分析・環境シミュレーション等)
- [第3回] リサーチ手法の習得(デジタル機器を用いた実測手法)
- [第4回] 現地フィールド・サーベイ
- [第5回] 現地フィールド・サーベイ
- [第6回] グループディスカッション(現地関係者との意見交換)
- [第7回] 中間発表(リサーチまとめ、提案コンセプト)
- [第8回] ドローイングエスキス
- [第9回] ドローイングエスキス(ゲスト有)
- [第10回] ドローイングエスキス(ゲスト有)
- [第11回] ドローイングエスキス
- [第12回] プレゼンテーションエスキス
- [第13回] 課題提出
- [第14回] 最終講評会(外部からの有識者等による講評)

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業内で得られた指摘事項やアドバイスを振り返り、適切に案の修正や改善を行うこと。

教科書

特に指定せず、参考資料を適宜配布する。

参考書

特に指定せず、参考資料を適宜配布する。

成績評価の方法

作業状況20%、最終講評会の提出物・発表を80%とする。この点数が満点の60%以上であることを単位取得の条件とする。

その他

特になし

科目ナンバー：(ST) ARC591E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Independent Study A		
開講期	春学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸		

授業の概要・到達目標

〈Course Summary & Learning Objectives〉

To acquire practical ability in architectural and urban design.

Specific Objectives

- (1) Acquire communication and coordination abilities.
- (2) Acquire international ability.

〈Course Summary〉

- ・Studies and practical trainings in architectural and urban design that students implement independently.
- ・Studies and practical trainings involve international workshops in general.
- ・Students who will register for this course are required to state the subject of study or training in advance and obtain instructor's approval.
- ・This course consists of independent study or training and a written report and presentation.

授業内容

Class Subjects

1. Guidance

The instructor explains the details of registration and course procedure.

2. Application for registration

Each student who will register for this course states the subject of study or training and obtain instructor's approval.

3. Implementation of Study or Training

Each student implements study or training independently according to the submitted application.

4. Report Submission and Presentation

Each student submits a proposal or a written report by a specified date and gives a presentation regarding the study or training.

履修上の注意

Note to Registrants

- ・Students who register for this course are required to attend the guidance.
- ・Each student who practices extramural practice is required to submit an application for extramural practice in advance and buy insurance.
- ・International workshops shall be conducted in English.

準備学習(予習・復習等)の内容

Preparation for Course

Nothing in particular

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through

discussions in the final presentation session and each class.

成績評価の方法

Grade Evaluation

The grade is determined by the total evaluation of proposal or written report and the presentation. A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) The acquisition of communication and coordination abilities.
 - (2) The acquisition of international ability.
- 2 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is an elective course and covers learning objectives as follows:

(M) Communication and Coordination Abilities

(N) International Ability.

〈Office Hours〉

on Tuesdays 12:40-13:30

@ Nakano Campus 7th floor instructors' room

科目ナンバー：(ST) ARC591E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Independent Study B		
開講期	秋学期集中	単位	演2
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸		

授業の概要・到達目標

〈Course Summary & Learning Objectives〉

To acquire practical ability in architectural and urban design.

Specific Objectives

- (1) Acquire communication and coordination abilities.
- (2) Acquire international ability.

〈Course Summary〉

- ・Studies and practical trainings in architectural and urban design that students implement independently.
- ・Studies and practical trainings involve international workshops in general.
- ・Students who will register for this course are required to state the subject of study or training in advance and obtain instructor's approval.
- ・This course consists of independent study or training and a written report and presentation.

授業内容

Class Subjects

1. Guidance

The instructor explains the details of registration and course procedure.

2. Application for registration

Each student who will register for this course states the subject of study or training and obtain instructor's approval.

3. Implementation of Study or Training

Each student implements study or training independently according to the submitted application.

4. Report Submission and Presentation

Each student submits a proposal or a written report by a specified date and gives a presentation regarding the study or training.

履修上の注意

Note to Registrants

- ・Students who register for this course are required to attend the guidance.
- ・Each student who practices extramural practice is required to submit an application for extramural practice in advance and buy insurance.
- ・International workshops shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation for Course

Nothing in particular

教科書

Text Books

Nothing in particular

参考書

References

Nothing in particular

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through

discussions in the final presentation session and each class.

成績評価の方法

Grade Evaluation

The grade is determined by the total evaluation of proposal or written report and the presentation. A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) The acquisition of communication and coordination abilities.
 - (2) The acquisition of international ability.
- 2 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is an elective course and covers learning objectives as follows:

(M) Communication and Coordination Abilities

(N) International Ability.

〈Office Hours〉

on Tuesdays 12:40-13:30

@ Nakano Campus 7th floor instructors' room

科目ナンバー：(ST) ARC522E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Design Studio A		
開講期	春学期	単位	演6
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸 他		

授業の概要・到達目標

〈Course Category〉 : Internship in the University

〈Learning Objectives〉

- ・Acquire advanced skills of planning and expression necessary for building design through specific building design practices of residential, office, institutional, commercial and other facilities.
- ・Acquire advanced skills of district design through design practices of district consisting of multiple buildings and public spaces.
- ・Through specific building design practices learn provisions of the Building Standard Law necessary for building design practice.
- ・Through specific building design practices acquire drawing skills at the levels of basic design, schematic design, and detailed design
- ・Implement practical training in structural design and equipment planning in addition to building design and planning.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective as an architect or urban designer
- (2) Acquire ethics and conceptual ability as an architect or urban designer.
- (3) Acquire technical and design expertise on architectural and urban design.
- (4) Acquire expertise in architecture and urban design.
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge on architecture and urban design
- (6) Acquire communication and coordination abilities necessary for architects and urban designers.
- (7) Acquire international ability for architects and urban designers.

〈Course Summary〉

- ・Experts on structural design and environmental design in addition to experts on building design instruct the studio.
- ・Invite extramural practitioners to review sessions to introduce social, safety and design aspects of high quality.
- ・All instructors in charge are qualified architects and practitioners.

授業内容

Session Topics

[1st Session] Guidance

- (1) Guidance, Briefing regarding Course Assignment and Focused Area

- (2) Grouping

[2nd Session] Field Work

- (1) Field Work/Field Survey

- (2) Understand characteristics of focused area

[3rd Session] Information Gathering regarding Focused Area

- (1) Research on history, topography, demographics, existing development etc.

- (2) Research on related regulations

[4th & 5th Sessions] Desk-Crit: Existing Condition Analysis

- (1) Focused Area Characteristics
- (2) Issues & Opportunities

- [6th Session] Review (1): Existing Condition Analysis
 (1) Focused Area Characteristics
 (2) Issues & Opportunities
- [7th, 8th & 9th Sessions] Desk-Crit
 (1) Vision
 (2) Development Concept
- [10th Session] Review (2): Vision & Development Concept
 (1) Vision
 (2) Development Concept
- [11th, 12th, 13th & 14th Sessions] Desk-Crit
 (1) Envisioned Future
- [15th Session] Mid-term Review: Vision, Development Concept & Envisioned Future
 ※review by extramural experts
 (1) Vision
 (2) Development Concept
 (3) Envisioned Future
- [16th Session] Desk-Crit
 (1) Architectural Program
 (2) Volume Study/Spatial Framework
 (3) Regulatory Conditions and Forms
- [17th Session] Case Study
 (1) Research Reference Project
- [18th Session] Review (3) Case Study
 (1) Reference Project
- [19th & 20th Sessions] Desk-Crit
 (1) Basic Design
 (2) Structural Planning/Environmental Planning
- [21st & 22nd Sessions] Desk-Crit
 (1) Plans, Elevations, Sections
 (2) Structural Planning/Environmental Planning
- [23rd Session] Review (4) Architectural Design
 (1) Plans, Elevations, Sections
 (2) Structural Planning/Environmental Planning
- [24th Sessions] Desk-Crit
 (1) Detailed Plans, Detailed Sections
 (2) Structural Planning, Environmental Planning, Equipment Planning
 (3) Regulatory Compatibility
- [25th Session] Final Review: Architectural Design
 ※review by extramural experts
 (1) Concept
 (2) Basic Design
 (3) Detailed Design
 (4) Oral Presentation
- [26th Session] Refine Products
 (1) Existing Condition
 (2) Vision, Development Concept & Envisioned Future
 (3) Architectural Design
- [27th Session] Final Submission
- [28th Session] Summary

履修上の注意

Note to Registrants

Completion of Planning & Design Studio 3 (Undergraduate 4th year, Spring semester) and Thesis Design 1 & 2 (Undergraduate 4th year, Spring & Fall semesters) is desirable.

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Each student shall develop design studies for each session based on discussions in previous sessions.

教科書

Text Books

Assignments are explained by distributing hand-outs.

参考書

References

References are distributed as needed.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided through discussions in the mid-term and final presentation sessions as well as in each class.

成績評価の方法

Grading Criteria

Grade based on mid-term presentation (40 %), final presentation (40 %), and final products (20 %). Submittal delay causes deduction of points. A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits. The accomplishment is evaluated based on the understanding of architectural design required for registered architects of the first class.

- (1) The acquisition of social awareness and a broad perspective
- (2) The acquisition of ethics and conceptual ability
- (3) The acquisition of technical and design expertise
- (4) The acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (5) The acquisition of applied ability of technical knowledge
- (6) The acquisition of communication and coordination abilities
- (7) The acquisition of international ability

7 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

・Sessions are 13times × 200minutes + 12times × 100minutes = 63.3hours (excluding guidance, final submission, and summary)

・Students spend more than 117hours on design practice through the semester. Each student records his or her study hours in the designated format and instructors review the records.

・Actual study hours through the semester is more than 180hours (63 + 117hours)

・Design work includes studies of design schemes, preparation of drawings, making models and so forth.

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

(H) Social Awareness and a Broad Perspective

(I) Ethics and Conceptual Ability

(J) Technical and Design Expertise

(K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)

(L) Applied Ability of Technical Knowledge

(M) Communication and Coordination Abilities

(N) International Ability

〈Office Hours〉

Consultation with instructors by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC522E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Design Studio B		
開講期	秋学期	単位	演6
担当者	専任教授 博士(環境学) 庄 ゆた夏		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Learning Objectives (Learning Objectives)

- Acquire advanced skills of planning and expression necessary for building design through design practices of residential, office, institutional, commercial and other facilities.
- Acquire advanced skills of district design through design practices of district consisting of multiple buildings and public spaces.
- Learn provisions of the Building Standard Law necessary for building design practice.
- Acquire drawing skills at the levels of basic design, schematic design, and detailed design
- Implement practical training in structural design and equipment planning in addition to building design and planning.

Specific Objectives

- Acquire social awareness and a broad perspective as an architect or urban designer
- Acquire ethics and conceptual ability as an architect or urban designer.
- Acquire technical and design expertise on architectural and urban design.
- Acquire expertise in architecture and urban design.
- Acquire applied ability of technical knowledge on architecture and urban design
- Acquire communication and coordination abilities necessary for architects and urban designers.
- Acquire international ability for architects and urban designers.

(Course Summary)

- Experts on structural design and environmental design in addition to experts on building design instruct the studio.
- Invite extramural practitioners to review sessions to introduce social, safety and design aspects of high quality.
- All instructors in charge are qualified architects and practitioners.

授業内容

Session Topics

[International Workshop # 1] *the schedule of workshop will be determined through the coordination with partner university.

[1st Session] Guidance & Field Work

- Guidance, Briefing regarding Course Assignment and Focused Area
- Grouping
- Field Work

[2nd Sessions] Group Work & Desk-crit

- Understand characteristics of focused area

[3rd Session] Mid-term Review

- Issues & Opportunities, Vision

[4th Sessions] Group Work & Desk-crit

- Development Concept & Design Development

[5th Sessions] Final Review

- ※review by extramural experts

 - Vision
 - Development Concept

(3) Envisioned Future

[International Workshop # 2] * the schedule of workshop will be determined through the coordination with partner university.

[1st Session] Guidance & Field Work

- Guidance, Briefing regarding Course Assignment and Focused Area
- Grouping
- Field Work

[2nd Sessions] Group Work & Desk-crit

- Understand characteristics of focused area

[3rd Session] Mid-term Review

- Issues & Opportunities, Vision

[4th Sessions] Group Work & Desk-crit

- Development Concept & Design Development

[5th Sessions] Final Review

- ※review by extramural experts

- Vision

- Development Concept

- Envisioned Future

[Normal Design Studio]

[1st Session] Volume Study

- Architectural Program
- Volume Study/Spatial Framework
- Regulatory Conditions and Forms

[2nd Session] Case Study

- Research Reference Project

[3rd Session] Review (1) Case Study

- Reference Project

[4th & 5th Sessions] Desk-Crit

- Basic Design
- Structural Planning/Environmental Planning

[6th, 7th & 8th Sessions] Desk-Crit

- Plans, Elevations, Sections
- Structural Planning/Environmental Planning

[9th Session] Review (2) Architectural Design

- Plans, Elevations, Sections
- Structural Planning/Environmental Planning

[10th, 11th & 12th Sessions] Desk-Crit

- Detailed Plans, Detailed Sections
- Structural Planning, Environmental Planning, Equipment Planning
- Regulatory Compatibility

[13th Session] Mid-term Review

- Detailed Design

[14th Sessions] Desk-Crit

- Detailed Design

[15th Session] Final Review: Architectural Design

- ※review by extramural experts

- Concept

- Basic Design

- Detailed Design

- Oral Presentation

[16th & 17th Sessions] Refine Products

- Existing Condition
- Vision, Development Concept & Envisioned Future
- Architectural Design

[18th Session] Final Submission

履修上の注意

none

準備学習(予習・復習等)の内容

Based on discussions in previous sessions, students should prepare improved schemes.

教科書

Text Books

Assignments are explained by distributing hand-outs.

参考書

References

References are distributed as needed.

課題に対するフィードバックの方法

not specifically

成績評価の方法

Grading Criteria

Grade based on final presentation of international workshops (15% each), mid-term presentation (30%), final presentation (40%). Submittal delay causes deduction of points. A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits. The accomplishment is evaluated based on the understanding of architectural design required for registered architects of the first class.

- (1) The acquisition of social awareness and a broad perspective
- (2) The acquisition of ethics and conceptual ability
- (3) The acquisition of technical and design expertise
- (4) The acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (5) The acquisition of applied ability of technical knowledge
- (6) The acquisition of communication and coordination abilities
- (7) The acquisition of international ability

7 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

- Sessions are 15times × 3hours + 15times × 1.5hours = 67.5hours
 - Actual study hours in sessions (exclude guidance and exhibition) is 61.5 (67.5-6) hours.
 - Students spend more than 118.5hours on design practice through the semester. Each student records his or her study hours in the designated format and instructors review the records.
 - Actual study hours through the semester is more than 180hours (61.5 + 118.5hours)
 - Design work includes studies of design schemes, preparation of drawings, making models and so forth.
- 〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and a Broad Perspective
 - (I) Ethics and Conceptual Ability
 - (J) Technical and Design Expertise
 - (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 - (L) Applied Ability of Technical Knowledge
 - (M) Communication and Coordination Abilities
 - (N) International Ability
- 〈Office Hours〉

Consultation with instructors by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC522E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Design Studio C		
開講期	春学期集中	単位	演6
担当者	専任教授 博士(建築学) 田中 友章 他		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Learning Objectives

〈Learning Objectives〉

- Acquire advanced skills of planning and expression necessary for building design through design practices of residential, office, institutional, commercial and other facilities.
- Acquire advanced skills of district design through design practices of district consisting of multiple buildings and public spaces.
- Learn provisions of the Building Standard Law necessary for building design practice.
- Acquire drawing skills at the levels of basic design, schematic design, and detailed design
- Implement practical training in structural design and equipment planning in addition to building design and planning.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective as an architect or urban designer
- (2) Acquire ethics and conceptual ability as an architect or urban designer.
- (3) Acquire technical and design expertise on architectural and urban design.
- (4) Acquire expertise in architecture and urban design.
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge on architecture and urban design
- (6) Acquire communication and coordination abilities necessary for architects and urban designers.
- (7) Acquire international ability for architects and urban designers.

〈Course Summary〉

- Experts on structural design and environmental design in addition to experts on building design instruct the studio.
- Invite extramural practitioners to review sessions to introduce social, safety and design aspects of high quality.
- All instructors in charge are qualified architects and practitioners.

授業内容

Session Topics

[1st Session] Guidance

- (1) Guidance, Briefing regarding Course Assignment and Focused Area
- (2) Grouping

[2nd - 5th Session] Intensive Workshop by Instructor A
※ The workshop will include following item. Details will be announced in the Guidance.

- (1) Field Work/Field Survey
- (2) Understand characteristics of specific methodology for research and/or analysis
- (3) Examination of Issues & Opportunities based upon the research and/or analysis
- (4) Exploration and Development Concept based upon the outcomes

[6th- 9th Session] Intensive Workshop by Instructor B

※ The workshop will include following item. Details will be announced in the Guidance.

- (1) Field Work/Field Survey

- (2) Understand characteristics of specific methodology for research and/or analysis
- (3) Examination of Issues & Opportunities based upon the research and/or analysis
- (4) Exploration and Development Concept based upon the outcomes

[10th- 13th Session] Intensive Workshop by Instructor C
 ※The workshop will include following item. Details will be announced in the Guidance.

- (1) Field Work/Field Survey
- (2) Understand characteristics of specific methodology for research and/or analysis
- (3) Examination of Issues & Opportunities based upon the research and/or analysis
- (4) Exploration and Development Concept based upon the outcomes

[14th Session] Mid-term Review: Presentation of outcomes from three workshops, Comparative developments of theories and methodologies

※review by extramural experts

[15th & 16th Session] Desk-Crit

- (1) Architectural Program
- (2) Conceptual Study/Volume Study/Spatial Framework
- (3) Given Conditions and Forms

[17th Session] Review (2):

- (1) Architectural Program and Composition

[18th, 19th, 20th Sessions] Desk-Crit

- (1) Architectural Design Concept
- (2) Architectural Design

[21st Session] Review (3):

- (1) Design Strategy
- (2) Architectural Design Concept

[22nd, 23rd, 24th, & 25th Sessions] Desk-Crit

- (1) Architectural Design Concept
- (2) Architectural Design

[26th Session] Final Review: Architectural Design

※review by extramural experts

- (1) Concept
- (2) Basic Design
- (3) Detailed Design
- (4) Oral Presentation

[27th & 28th Session] Refine Products

- (1) Existing Condition
- (2) Vision, Development Concept & Envisioned Future
- (3) Architectural Design

履修上の注意

Note to Registrants

Completion of Planning & Design Studio 3 (Undergraduate 4th year, Spring semester) and Thesis Design 1 & 2 (Undergraduate 4th year, Spring & Fall semesters) is desirable.

準備学習（予習・復習等）の内容

Each student shall develop design studies with sketches, drawings, and physical models for each session based on discussions in previous sessions.

教科書

Assignments are explained by distributing hand-outs.

参考書

References are distributed as needed.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in class each time.

成績評価の方法

Grading Criteria

Grade based on mid—term presentation (40%) and final presentation (60%). Submittal delay causes deduction of points. A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits. The accomplishment is evaluated based on the understanding of architectural design required for registered architects of the first class.

- (1) The acquisition of social awareness and a broad perspective
- (2) The acquisition of ethics and conceptual ability
- (3) The acquisition of technical and design expertise
- (4) The acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases)
- (5) The acquisition of applied ability of technical knowledge
- (6) The acquisition of communication and coordination abilities
- (7) The acquisition of international ability

7 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

Others

・In order to achieve the objectives, this studio is composed of two different portions. In the first half, three intensive workshops will be conducted with specific orientations by three instructors. After the comparative developments of theories and methodologies that are explored in the workshops, six weeks long studio with pin-ups and desk-critics in regular weekly basis will be conducted in the second half.

※Details will be announced in the Guidance.

・Sessions are 14times × 200minutes + 14times × 100minutes = 4200minutes = 70hours

・Actual study hours in sessions (exclude guidance and exhibition) is 64 (70-6) hours.

・Students spend more than 116hours on design practice through the semester. Each student records his or her study hours in the designated format and instructors review the records.

・Actual study hours through the semester is more than 180hours (64 + 116hours)

・Design work includes studies of design schemes, preparation of drawings, making models and so forth.

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

(H) Social Awareness and a Broad Perspective

(I) Ethics and Conceptual Ability

(J) Technical and Design Expertise

(K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)

(L) Applied Ability of Technical Knowledge

(M) Communication and Coordination Abilities

(N) International Ability

〈Office Hours〉

Consultation with instructors by e-mail appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC625E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Design Studio D		
開講期	春学期集中	単位	演3
担当者	専任教授 博士(建築学) 田中 友章 他		

授業の概要・到達目標

〈Course Summary〉

- In this studio, a short-term international workshop with other overseas universities will be conducted during the summer. Design exercise with a actual site and specific design conditions will require practical skills and knowledge. This makes it possible to apply the knowledge and experience learned in the field practically and to acquire them in reliable manner.
- Experts on building design instruct the studio in association with experts on structural design and environmental design who join to teach as guest instructors.
- Invite extramural practitioners to review sessions to introduce social, safety and design aspects of high quality.
- All instructors in charge are qualified architects and practitioners.

〈Learning Objectives〉

- Acquire advanced skills of planning and expression necessary for building design through design practices of residential, office, institutional, commercial and other facilities.
- Acquire advanced skills of district design through design practices of district consisting of multiple buildings and public spaces.
- Learn provisions of the Building Standard Law necessary for building design practice.
- Acquire drawing skills at the levels of basic design, schematic design, and detailed design
- Implement practical training in structural design and equipment planning in addition to building design and planning.

Specific Objectives

- (1) Acquire social awareness and a broad perspective as an architect or urban designer
- (2) Acquire ethics and conceptual ability as an architect or urban designer.
- (3) Acquire technical and design expertise on architectural and urban design.
- (4) Acquire expertise in architecture and urban design.
- (5) Acquire applied ability of technical knowledge on architecture and urban design
- (6) Acquire communication and coordination abilities necessary for architects and urban designers.
- (7) Acquire international ability for architects and urban designers.

授業内容

Intensive exercises (approximately one week long) will be conducted based on the following contents in a oversea city.

Session Topics

- [1st Session] Guidance
- (1) Guidance, Briefing regarding Course Assignment and Focused Area
 - (2) Grouping
- [2nd Session] Field Work
- (1) Field Work/Field Survey
 - (2) Understand characteristics of focused area
- [3rd Session] Information Gathering regarding Focused

Area

- (1) Research on history, topography, demographics, existing development etc.
 - (2) Research on related regulations
- [4th Sessions] Desk-Crit: Existing Condition Analysis
- (1) Focused Area Characteristics
 - (2) Issues & Opportunities
- [5th Sessions] Desk-Crit
- (1) Vision
 - (2) Development Concept
- [6th Session] Mid-term Review: Vision, Development Concept & Envisioned Future
- ※review by extramural experts
- (1) Vision
 - (2) Development Concept
 - (3) Envisioned Future
- [7th Session] Desk-Crit
- (1) Architectural Program
 - (2) Volume Study/Spatial Framework
 - (3) Regulatory Conditions and Forms
- [8th Session] Review (2):
- (1) Architectural Program
- [9th & 10th Sessions] Desk-Crit
- (1) Architectural Design Concept
 - (2) Architectural Design
- [11th Session] Review (3):
- (1) Design Strategy
 - (2) Architectural Design Concept
- [12th, & 13th Sessions] Desk-Crit
- (1) Architectural Design Concept
 - (2) Architectural Design
- [14th Session] Final Review: Architectural Design
- ※review by extramural experts
- (1) Concept
 - (2) Basic Design
 - (3) Detailed Design
 - (4) Oral Presentation

履修上の注意

Completion of Planning & Design Studio 2 (Undergraduate 3rd year, Fall semester) and/or 3 (Undergraduate 4th year, Spring semester) is desirable.

Prior to class implementation, guidance and/or various briefing sessions will be held in the beginning of the spring semester. Participants of this studio are expected to obtain the information necessary for taking classes in those sessions.

This studio is open to I-AUD students in Nakano Campus and Architecture Major students in Ikuta Campus. In this studio, participating students will be selected to meet the maximum capacity for the international workshop. Details will be announced in the guidance at the beginning of the academic year.

準備学習(予習・復習等)の内容

Prior to intensive summer workshop abroad, prior study session will be conducted from June to July. All the participants are requested to join the prior study session. It is requested to prepare materials before the each portion of the study session and present the outcomes in the session. In addition, reflections from the each session are expected in order to improve the outcomes. During the period of intensive workshop, students are expected to learn autonomously from the various experiences.

Please note that extra prior study session will be applicable to the students who will take this studio as "Design Studio C" that was previously set before "Advanced Design Studio D" in order to meet the requirement for the credits given to the applicable course.

教科書

Assignments are explained by distributing hand-outs.

参考書

References are distributed as needed.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in class each time.

成績評価の方法

Grading Criteria

Grade based on outcomes of prior study session (15%), mid-term presentation (25%) and final presentation (60%). Submittal delay causes deduction of points. A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

- (1) The acquisition of social awareness and a broad perspective
 - (2) The acquisition of ethics and conceptual ability
 - (3) The acquisition of technical and design expertise
 - (4) The acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 - (5) The acquisition of applied ability of technical knowledge
 - (6) The acquisition of communication and coordination abilities
 - (7) The acquisition of international ability
- 7 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

- (H) Social Awareness and Broad Perspective
 - (I) Ethics and Conceptual Ability
 - (J) Technical and Design Expertise
 - (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)
 - (L) Applied Ability of Technical Knowledge
- [Office Hour]

On Wednesday 12:00-13:00 at Nakano Campus 7th floor instructors' room
email: tomo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC541E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Urban Design		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(芸術工学) 佐々木 宏幸		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Goals

〈Learning Objectives〉

To understand the physical environment of cities and the elements that compose city spaces, and acquire practical knowledge regarding the theory, method and process of urban planning and design.

Specific Objectives

- (1) Understand the importance of physical environment of cities as a whole that support social and economic activities.
- (2) Understand the physical environment of cities and the elements that compose city spaces.
- (3) Understand the theories regarding urbanism.
- (4) Acquire practical knowledge regarding the method and the process of urban planning and design.
- (5) Acquire practical knowledge regarding how to visualize urban planning and design ideas.

〈Course Summary〉

The aggravation of global environmental, social and economic issues requires us to change the way to design cities and buildings. Cities need to be designed more diverse, compact and well-connected with street networks and public transit systems. Districts and buildings need to be designed to accommodate a variety of human activities and more responsive to the local environment, context and culture.

This course focuses on the physical environment of cities, city elements, and the relationship between buildings and public spaces, and students will deepen their understanding of these topics through lectures and researches. The course also focuses on the practical method and the process of urban planning and design, and students will acquire the practical ability through lectures and assignments.

授業内容

Session Topics

- [1st Session] Course Introduction, What is Urban Design
- [2nd Session] Site Analysis
- [3rd Session] City What is a City?
- [4th Session] City What is a City?
- [5th Session] City Block
- [6th Session] City Street
- [7th Session] Urban Space in Japan 1
- [8th Session] Urban Space in Japan 2
- [9th Session] Open Space
- [10th Session] Coding 1
- [11th Session] Coding 2
- [12nd Session] Legal Framework
- [13rd Session] District & Neighborhood
- [14th Session (a only)] Summary

履修上の注意

Note to Registrants

All instruction and assignment shall be conducted in English.

All the lectures shall be conducted from April to July, though some lectures shall be rescheduled for the period of the workshop in a foreign country.

In addition to 3 assignments, reading assignments will be given to students accordingly.

準備学習（予習・復習等）の内容

Each student shall prepare presentation materials for each assignment.

教科書

Text Books

Power Point presentations are used for lectures.

参考書

References

Nothing particular.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in the classes following the submission of assignments.

成績評価の方法

Evaluation Criteria

There will be three assignments. Each student's grade is based upon the evaluation of the three assignments and the associated presentation weighed evenly (1/3 each), and the grade is determined by the sum of the evaluations. A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits.

The acquisition of expertise in urban design are weighed evenly for each evaluation.

その他

Others

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is a requisite elective course and covers learning objectives as follows:

(K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases).

〈Office Hours〉

on Tuesdays 12:40-13:30

@ Nakano Campus 7th floor instructors' room

科目ナンバー：(ST) ARC531E			
建築・都市学専攻 (国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Methodology in Architecture		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	専任教授 博士 (建築学) 田中 友章		

授業の概要・到達目標

Course Summary & Learning Objectives

Learning Objectives:

The objectives of this course is to understand the knowledge and skills necessary for exploring further developments of architecture in modern society, and acquire comprehensive knowledge concerning adequate methodologies for them. The course is composed of four sections. In each section, a specific theme is set with a specific field. If necessary, some sections are conducted in intensive course format that incorporates lectures, visits and/or field works.

※Details will be announced in the Orientation session.

Specific Objectives:

- (1) To acquire knowledge about architectural planning and architectural design that responds to new needs and programs in the modern Japanese society where the birthrate is declining and the population is aging.
- (2) Understand the characteristics of Tokyo's urban space, which has changed land use and ownership in the process of modernization, based on the organization of urban structure from the Edo period.
- (3) To acquire knowledge about techniques and methodologies for measuring, grasping, and analyzing the physical context of districts that layered in time.
- (4) To acquire knowledge about theories and methodologies for exploring new concepts for housing in urban space with specific characteristics.

授業内容

Session Topics

[1st Lecture]

Orientation, Introduction to advanced methodologies in architecture

[2nd, 3rd and 4th Lecture]

Methodology #1:

[5th, 6th and 7th Lecture]

Methodology #2:

[8th, 9th and 10th Lecture]

Methodology #3:

[11th, 12th and 13th Lecture]

Methodology #3:

[14th Lecture]

Presentation of students' outcomes. Wrap up session

履修上の注意

Note to Registrants

All instructions shall be conducted in English.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation for the class based on the handouts, and review and/or reflection of the class through the group discussion are recommended.

教科書

PowerPoint presentations and handouts are used for lectures.

参考書

References are distributed as needed.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback on assignments will be provided in class each time.

成績評価の方法

Grading Criteria

Reports will be assigned at the end of each session. These reports will be evaluated together with students' presentation in the 14th lecture in a wholistic manner. A minimum of 60% accomplishment is required for earning credits. The accomplishment is evaluated based on the acquisition of expertise in advanced methodology in architecture.

その他

Others

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is a requisite elective course and covers learning objectives as follows:

(K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases).

[Office Hour]

On Wednesday 12 : 30-13 : 30 at Nakano Campus 7th floor instructors' room

email: tomo@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(ST) ARC541E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Sustainable Design		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	特任准教授 博士(工学) 田村 順子		

授業の概要・到達目標

<Learning Objectives>

This module is to familiarize students with current and emerging discourses and practices pertaining to sustainable cities/urban sustainability. It is composed of both lectures and seminars.

The search for sustainable cities is essentially an inquiry into more balanced relationships between urbanism, nature and context that includes history and culture. Therefore, this module also draws on theories from outside the design and planning disciplines to provide conceptual frameworks for better understanding the relationship between people and the environment.

Specific Objectives

- (1) Provide foundational knowledge on key contemporary topics, theoretical concepts and praxis related to urban design, urban planning and architecture;
- (2) Equip students with appropriate skills for studying urban conditions and conducting urban analysis, including approaches, processes, methods and techniques for observing, documenting, mapping, analysing;
- (3) Develop and enhance students' abilities in designing urban environments in a holistic, critical and integrated manner.

<Course Summary>

- ・This module is composed of both lectures and seminars.
- ・Lectures will explore selected topics related to design and planning.
- ・Seminar aims to relate and apply concepts into fundamental tools and principles for urban analysis and narrative making—urban gallery—practice.
- ・Urban analysis consists of a series of mapping and analysis exercises.
- ・Urban gallery exercise builds upon data gathered in urban analysis, followed by narrating the results and identifying issues and conditions, developing scenarios and proposing interventions to solve the issues.

授業内容

Week 1: Lecture 1 - Introduction to the course, schedule and abstract of lectures

Week 2: Lecture 2 - Ecological Sustainability

Week 3: Lecture 3 - Ecological Footprint

Week 4: Lecture 4 - Shrinking City and City Size

Week 5: Lecture 5 - Social System

Week 6: Lecture 6 - Sustainable Management

Week 7: Mid-term Presentation and Review: all students present the urban analysis exercise.

Week 8: Lecture 7 - Introduction to Urban Gallery

Week 9: Lecture 8 - Spatial Economy

Week 10: Seminar presentation.

Week 11: Lecture 9 - Japanese TOD as sustainable urban development model

Week 12: Lecture 10 - Ise Shrine as ultimate sustainable model

Week 13: Seminar presentation.

Week 14: Final examination.

履修上の注意

All instruction and assignment shall be conducted in English.

All the lectures will be conducted from September to December.

The mid-term assignment shall be conducted in groups.

Final examination shall be conducted individually.

準備学習（予習・復習等）の内容

Preparation for the class based on the handouts, and review of the class through the group discussion are recommended.

教科書

Nothing in particular

参考書

References are distributed as needed.

課題に対するフィードバックの方法

There will be a feedback session during the class.

成績評価の方法

The grade is determined by the total evaluation of interim presentation (50%) and the final presentation (50%). A minimum of 60 % accomplishment is required for earning credits.

Criteria for evaluation are:

- (1) Acquisition of social awareness and a broad perspective.
 - (2) Acquisition of ethics and conceptual ability.
 - (3) Acquisition of technical and design expertise.
 - (4) Acquisition of expertise in architecture (general as well as specialized knowledge bases).
 - (5) Acquisition of applied ability of technical knowledge.
- 5 criteria above are weighed evenly and the grade is determined accordingly.

その他

< Correspondence to Study/Education Goals of the Department >

This is a requisite course and comprehensively covers multiple learning objectives as follows:

(H) Social Awareness and a Broad Perspective

(I) Ethics and Conceptual Ability

(J) Technical and Design Expertise

(K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases)

(L) Applied Ability of Technical Knowledge.

< Office Hours >

Consultation by email appointment.

科目ナンバー：(ST) ARC571E			
建築・都市学専攻(国際建築都市デザイン系)	備考		
科目名	Advanced Project Management		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師	杉山 久哉	

授業の概要・到達目標

To understand the importance of and acquire the practical knowledge of management in architecture, namely, that of organizations, of projects, and of architects themselves in the context of the globally expanding architectural markets.

- 1) Understand the business of architecture in the competitive context of global economy.
- 2) Acquire practical knowledge about the management of architectural practice.
- 3) Acquire practical knowledge on the project management of urban development and architectural projects.

The project management is essential in all aspects of architectural and urban improvement endeavors. Planning, design, and construction can lead to a great piece of architecture or urban improvement only through sensible project management. The needs of management in fact start with the architect's own practice, his/her firm, as well as relationship building with the clients.

As a part of the Professional Course, this course emphasizes, not the design talent and technical and legal expertise in planning and designing of a built environment, which are what architects sell, but how to market, package, and deliver them in a sustainable business context, with a hope that the student will be equipped with the basic knowledge of the real life rigor of business of architecture, once he/she leaves the academia, with an emphasis on the global market. Class discussions will touch on how to run a practice, the importance of design proposal, understanding of client's values and perspectives, human aspects of project delivery, protection of your business, as well as the contribution architects could make by proper management of positions they take towards betterment of a community in the context of a large scale urban redevelopment project. Students are expected to contribute, in class discussions, their experience of and insight about projects they are familiar with.

Students will be evaluated through the mid-term and final examinations, and two take-home assignments.

授業内容

- [1] Course Introduction + Architecture in the Context of Global Economy The course calendar, topics and requirements of assignments, and evaluation criteria shall be introduced. Architecture as a business enterprise shall be looked at in the context of building markets, domestic and international.
- [2] Let's Start a Practice/Studio Management If you cannot design a viable design firm, how could you design a viable building? This session covers basic elements of starting an architectural design firm, such as licensing, clientele, financial backing, team structure, enthusiasm, values and sense of mission in architecture, as well as aspects of studio management to keep your business sustainable.
- [3] Why Your Firm? To give your firm a competitive edge, you must think through what are your strength and marketability. Class discusses some ideas about self-promotion, and examine a sample RFP to

understand how potential clients evaluate your firm.

[Assignment # 1 - Introductory Brochure Design]

- [4] Economics: Time is Money Given a design brief, schedule, and the budget, the project manager sets out to manage a project. The PM must, therefore, have a profound understanding of how the economics works in the business of architecture. The basic accounting of creativity business shall be looked at.
- [5] Economics: Time is Money - Exercises In order to get a firm grip on the financial aspects of the business of architecture, the class will have an in-depth investigation of how numbers work together, and be given a chance to go through some fee proposal exercises to ensure good understanding.
- [6] Mid-Term Examination The exam covers the topics covered in the previous sessions. This is an open-book exam, where you are welcome to bring in and refer to your notes, reference books, dictionaries, etc. You are encouraged to bring a calculator. However, all communication devices including smartphones, keitai phones, and computers must be turned off and securely placed in a bag during the exam.
- [7] Review of Mid-Term Exam The mid-term exam problems are revisited to ensure good understanding of the economic issues of the architectural practice.
- [8] Values on the Other Side: What's on the Minds of Your Clients As an architect, your responsibility is to propose and make possible a piece of beautiful, functional, legal and strong Architecture. Your client, however, is worried about one more thing; the financials of building and operating your work of Art. Depending on the building type, the architect must address different kinds of concerns the client may have. Class will discuss initial cost, operational efficiency, buildability, expandability, and cash flow projection.
- [9] New Business Development: How Do You Find a Project?
When someone needs an architect, why should they call you? How are architects selected? What qualifications do people look for? What are the most effective ways to present your talent, expertise, and your (lovely, passionate, cool, masterly, friendly, professorial, or all of the above) self? This sessions looks at what to do to secure a project.
- [10] Management of People and Documents Because we are operating in a society of litigation, we need to control what goes out of our office. Starting from the proposal to contract, specifications and drawings, a viable business must pay attention to the integrity of documents to be issued. In addition, since architecture is necessarily a process of collaborative production, relationships play a large part in the experience of delivery and the quality of end-results. The discussions will touch on chemistry of people involved in a project delivery.

[Assignment # 2 - Proposal Writing]

【授業内容は「指導テーマ」・「進行計画」につづく】

履修上の注意

Note to Registrants

All instructions and assignments shall be conducted in English. Some graphic production work will be required for a take-home assignment. You are free to, though not required to, use computers in class time, but not during exams, for taking notes and other in-class work. The sessions presented above may have to be reorganized due to possible scheduling conflicts with the overseas workshops which some of the students may undertake.

準備学習（予習・復習等）の内容

In this class, many unfamiliar concepts are introduced in class, and extensive writing is required in the mid-term and final exams. Students are expected to have adequate aptitude in listening comprehension as well as logical writing in the English language. No preparation for each session is required; however, a comprehensive review after each session is strongly recommended to gain meaningful level of knowledge and experience through the semester.

教科書

Textbooks: none

参考書

References: references shall be prepared by instructor as needed.

成績評価の方法

Grading Criteria

Grading is based on the sum of the evaluation of the following assignments weighed as indicated: two take-home assignments at 15% each, mid-term examination at 35% and the final examination at 35%. The examinations shall be given on the scheduled date and time only and no additional testing will be given.

Credits are given through assessment of the student's understanding of issues addressed in this course, evaluated to be at minimum 60% of the level required for the first class architect.

その他

〈Correspondence to Study/Education Goals of the Department〉

This is a requisite elective course necessary for the achievement of (H) Social Awareness and a Broad Perspective; and (K) Expertise in Architecture (general as well as specialized knowledge bases).

〈Office Hours〉

Consultation with instructor by appointment.

指導テーマ

【授業内容つづき①】

- [11] Global Arena for Architects: Inbound vs. Outbound
Japanese Architecture has a special place in the minds of fellow architects, scholars, as well as developers around the world. Yet, it is rather unreachable because only a few Japanese architects (and Japan-trained architects) provide services outside the country. There are many career possibilities as long as the architect is prepared to work in such a context. We will discuss the need for a language of business, the familiarity with the legal system related to our business, peculiarities of the architectural and construction industries as well as the general cultural idiosyncrasies.
- [12] Case Study - International Market # 1: Working for Foreign Architects Mr. Sugiyama will share his experience in working for KPF and RTKL. Students are invited to prepare questions before the session.
- [13] Case Study - International Market # 2: Working on Overseas Projects Mr. Sugiyama will share his experience in working as chief designer for projects in Qingdao, China, Dhaka, Bangladesh, Phnom Penh, Cambodia and Jakarta, Indonesia. Students are invited to prepare questions before the session.

進行計画

【授業内容つづき②】

- [14] Urban Redevelopment - Processes and Architects' Roles A large scale urban redevelopment takes persistent efforts and a strong leadership. Architects are in a unique position to help such projects with insight and expertise. But to be effective, we must understand the values, criteria, and mentality of development. This session will identify and examine relevant issues and steps, and the driving forces acting on the developer and other stake holders. We will also look at the enormous impact a large project would impose on its neighborhood. The programming, planning, design, leasing and operation all influence the quality of life in and around the project. Architects have roles in many of these aspects and understanding how all the pieces come together is essential in fulfilling an advisory role to the developer, as well as providing pertinent discrete services. We will look at the issues surrounding mega-projects of Tokyo as examples.
- [15] Final Examination The exam covers the topics covered throughout the semester. This is an open-book exam, where you are welcome to bring in and refer to your notes, reference books, dictionaries, etc. You are encouraged to bring a calculator. However, all communication devices including smartphones, keitai phones, and computers must be turned off and securely placed in a bag during the exam.

科目ナンバー：(ST) ART511J			
建築・都市学専攻 (総合芸術系)	備考		
科目名	現代美術特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		倉石 信乃

授業の概要・到達目標

この授業では、首都圏の主要美術館で開催されている現代美術に係わる企画展等を調査することを通じて、現代の美術表現の課題を、「造形性」「政治性」「歴史性」など、多様な批評基準を念頭に置きながら浮彫にする。ただしこの授業で扱う時代区分には、狭義の現代美術(21世紀の美術)だけでなく、20世紀美術などモダニズムのそれも含むものとする。

展覧会調査と発表・討議を通じて、今日の美術にかいま見られる多様な現代性もしくは同時代性の一端を、受講生それぞれが設定している自らの関心や研究課題に引きつけて理解することを到達目標とする。

授業内容

事前に指定した展覧会を調査し、展示作品の中から1点を選び、毎回、本文800字程度で展覧会についての解説・報告をまとめ、授業内で発表・提出する。また、発表した展覧会の解説・報告についてクラス全体で討議する。

下記のとおり、原則として偶数回の週は美術館等で展覧会調査を実施し、奇数回の週は教室に集合し発表と討議を行うこととする。初回のイントロダクションにおいて、具体的に調査対象とする展覧会6件程度を紹介する。

- 第1回：a:イントロダクション
b:現代美術の条件
- 第2回：首都圏主要美術館での展覧会調査(1)
- 第3回：上記についての発表および討議
- 第4回：首都圏主要美術館での展覧会調査(2)
- 第5回：上記についての発表および討議
- 第6回：首都圏主要美術館での展覧会調査(3)
- 第7回：上記についての発表および討議
- 第8回：首都圏主要美術館での展覧会調査(4)
- 第9回：上記についての発表および討議
- 第10回：首都圏主要美術館での展覧会調査(5)
- 第11回：上記についての発表および討議
- 第12回：首都圏主要美術館での展覧会調査(6)
- 第13回：上記についての発表および討議
- 第14回：最終討議

履修上の注意

- ・現代美術の多様な表現について、主体的かつアクチュアルな関心と問題意識をもつことを履修の条件とする。
- ・展覧会調査に際しては、観覧料の経費負担が必要となる。
- ・発表時には、事前に履修者分のコピーを用意し、配布すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表と討議の前には、展覧会と出品作家・作品に関する必要な情報を得ておくことが必要となる。

教科書

指定しない。

参考書

各展覧会で発行されるカタログや、作品解説を参考書として用いる。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する。

成績評価の方法

- ・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(70%)
- ・期末レポート(30%)

以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART511J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	映画史特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	管 啓次郎	

授業の概要・到達目標

現代映画論。20世紀後半以後の世界映画のいくつかの作品を見て、特にそこに描かれる文化衝突に焦点をあて、分析し、議論する。記号論的・物語論的・歴史的・人類学的な思考態度への導入を兼ねる。視聴のためにNetflixを使用する予定。

授業内容

[第1回] イントロダクション

[第2回～13回] 毎週1本の作品をとりあげ議論する。
作品選定は議論の流れにより変えてゆく。

[第14回] まとめ

履修上の注意

授業時間外に視聴時間を確保すること。とりあげる作品は、基本的には各自が入手しやすいものを中心に組み立ててゆく。全員による視聴時間を指定する場合もある。必ず初回に出席し、時間の打ち合わせに参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

映像作品についての語り方を身につけるため、ヒッチコックの代表的作品を最低3本くりかえし見て、その物語の展開と技法を語れるようにしておきたい。

教科書

特になし。

参考書

授業中に指示する。

成績評価の方法

出席し、ディスカッションに参加することは絶対に必要。欠席が3回を超えた場合、タームペーパーの提出資格を与えない。評価自体はタームペーパーによる。400字詰め原稿用紙換算で10枚程度の長さを標準とする。

その他

科目ナンバー：(ST) ART511J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	音楽コンテンツ特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 陣野 俊史		

成績評価の方法

学期末にレポートを書いてもらう(60パーセント)。そのほか、平常点(講義での発表、出席など)(40パーセント)。

その他

授業の概要・到達目標

前半で主にポピュラー音楽の歴史を概観し、次に音楽の聴取環境の変化と、変化をもたらした様々な要因について考察する。なぜそうした検討が必要なのかといえ、音楽をめぐる様々な議論は、音楽を聴く環境の変化に即応して変遷しているから。いま問うべき音楽の諸問題のありかを示したい。

授業内容

- [第1回] 聴取環境の変化と私たちの音楽
- [第2回] ポピュラー音楽の歴史(1)プログレ
- [第3回] ポピュラー音楽の歴史(2) 60年代ロック
- [第4回] テクノとブラック・ミュージック
- [第5回] パンクとニューウェイブ
- [第6回] リミックスと作者性 著作権の問題から
- [第7回] 日本の著作権の「厳しさ」について
- [第8回] ラップ・ヒップホップ・映画
- [第9回] 70年代と80年代のアンダーグラウンド・ミュージックシーン
- [第10回] Jポップと経済学 (Jポップは本当に聴かれているのか、など、音楽を日本で聴くことの現在性に迫りたい)
- [第11回] 野外ロックフェスの現在 (閉鎖的な音楽環境の対照的な存在である大規模野外ロックフェスの意義と問題を)
- [第12回] 配信される音楽とノイズキャンセリング・ヘッドホン (さまざまな形で配信される音楽の形式と、その発展によって大きくなったヘッドホン市場について)
- [第13回] 学生によるプレゼン(1)
- [第14回] 学生によるプレゼン(2)

履修上の注意

授業は、大まかな話を講義担当者がしたあと、学生諸君に調べてきてもらったことを発表してもらい、そのうえで更に議論を積み重ねる形にしたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に必要としないが、毎回、新しい音楽との出会いがあるはずなので、そのあたりを復習してもらいたい。

教科書

『その音楽の〈作者〉とは誰か』増田聡、みすず書房、
『ウォークマンの修辭学』、細川周平、朝日出版社、
『ポピュラー音楽と資本主義』、毛利嘉孝、せりか書房、
長谷川町蔵+大和田俊之『文科系のためのヒップホップ入門』、
雑誌(季刊)「アルテス」
竹田賢一『地表に蠢く音楽ども』やトリーシャ・ローズ『ブラック・ノイズ』、
佐々木敦『ニッポンの音楽』(講談社現代新書)
デレク・ベイリー本など、
近年翻訳された、必読図書に関しては、学生によるレポートという形で、講義で取り上げたことにしたい。

参考書

特になし。

科目ナンバー：(ST) ART511J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	写真コンテンツ特論		
開講期	秋学期集中	単位	講2
担当者	兼任講師	笹岡 啓子	

授業の概要・到達目標

一枚の写真がどのような時代背景、経緯、状況のもとで撮られたのか。その写真がなぜ現在まで残されたのか。そして、わたしたちはそれをどのように受け止め、取り扱っていくのか。おもに災厄や戦争の記録として残された写真や映像を中心に、それらをよく見る経験を重ね、現在から過去の出来事を読み直し、継承としての表現の可能性についても考える。

授業内容

- [第1～2回] 写真黎明期～近代：見ることの欲望と見られた側の人権
- [第3～4回] 関東大震災：ニュースメディアとしての写真・映像
- [第5～6回] 原爆：被害と加害
- [第7～8回] ホロコースト：物語化とSNS
- [第9～10回] 旧ソ連：国家とはなにか
- [第11～12回] 日本の災害：雲仙普賢岳噴火／東日本大震災
- [第13～14回] 炭鉱労働：写真万葉録を中心に

履修上の注意

写真や映像の中には、「死」を直接的にかつ衝撃的に扱った場面が含まれる場合があります。そのことをよく理解し、納得した上で履修して下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容

近・現代史に関する基本事項を、鑑賞前・鑑賞後に学習しておくこと。

教科書

特に用いない。

参考書

適宜指示する。

成績評価の方法

授業参加の姿勢と発言・発表の内容(40%)・レポート(60%)以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) LIT521E			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	空間表象特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授	博士(文学) 山本 洋平	

授業の概要・到達目標

現代の環境運動や環境哲学の源流のひとつと目されているヘンリー・ソロー (Henry David Thoreau) の代表作『森の生活』(Walden: Life in the Woods, 1854年)を日本語でじっくり読みます。本書は、ボストン郊外コンコードに住む青年が、街から離れた湖のほとりに小屋を建て、そこに2年間住んだ記録です。元祖アウトドア派のエッセイと考えてもよいのですが、その実践は、現代を生きる私たちに何らかのヒントを与えてくれるはずです。ソローという人は、アメリカで盛んな「ネイチャーライティング」と呼ばれる文芸ジャンル(一人称の語り手が自然や風景、動植物を素描し、自己と環境の関係を思索する環境文学)の祖と見なされています。適宜、英語の原文を示すこともありますが、日本語で内容を理解することに重点を置きますので、英語が得意ではない人も歓迎します。

講義全回を通じて、アメリカ環境文学の起源と展開を辿るべく、前半はソローの『ウォールデン』をメインテキストとし、後半は受講者の関心に応じて、以下の素材を見繕って提供します。エミリー・ディキンソンとホイットマンのエコ・ポエティクス、ジャック・ロンドンの動物表象、ウィラ・キャザーの西部表象、ヘミングウェイの環境的想像力、エドワード・アビーとアニー・ディラードの革新的ネイチャーライティング、国木田独歩『武蔵野』を副読本とした日米環境文学比較、など。

基本的には日本語の翻訳で作品を味読した上で、英語原文を精査するという形式を採用します。

授業内容

- 【第1回】環境文学の起源をめぐって：カント、イギリス・ロマン派、エドワーズ、フランクリン、エマソン、そして、ソロー
- 【第2回】『ウォールデン』を読む：「生計」前半:P8-58
- 【第3回】『ウォールデン』を読む：「生計」後半:P58-113
- 【第4回】『ウォールデン』を読む：「暮らした場所、暮らした目的」「読書」「さまざまな音」
- 【第5回】『ウォールデン』を読む：「一人暮らし」「マメ畑」「村」
- 【第6回】『ウォールデン』を読む：「さまざまな池」「冬の池」
- 【第7回】『ウォールデン』を読む：「高尚な法則(より高い法則)」「動物の隣人たち」「冬の動物たち」
- 【第8回】ライティング・ワークショップ(1)
- 【第9回】エミリー・ディキンソンとホイットマン
- 【第10回】ジャック・ロンドンの動物表象
- 【第11回】ネイチャーフェイカー論争
- 【第12回】アビーとディラードの動物表象
- 【第13回】ヘミングウェイの環境的想像力
- 【第14回】ライティング・ワークショップ(2)

履修上の注意

アメリカ環境文学、アメリカ文化論、都市・場所論に関心をもつ受講生を広く歓迎します。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎週、文学テキスト(随筆、小説、詩、論文)を数十ページ読みこみ、授業内で発言できるようにしておく。学期に数回、レジュメ作成の担当となる。

教科書

受講の意志が固まった方は、以下の文庫を書店で購入すること。キャンパス内の書店では発注予定はありません。

ヘンリー・D. ソロー『ウォールデンー森で生きる』（酒本雅之訳、ちくま学芸文庫ソ-2-1）

参考書

【初学者向けガイドブック】

文学環境学会編『たのしく読めるネイチャーライティング 作品ガイド120』（ミネルヴァ書房、2000）
<https://minervashobo.co.jp/book/b48027.html>…

小谷一明他編『文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック』（勉誠出版、2014）

https://bensei.jp/index.php?main_page=product_book_info&products_id=100394

【初学者向け概説】

野田研一『自然を感じるこころーネイチャーライティング入門』（筑摩書房、2007）
<https://chikumashobo.co.jp/product/9784480687661>…

結城正美『文学は地球を想像するーエコクリティシズムの挑戦』（岩波書店、2023）

【院生以上向け・論考】

野田研一『交感と表象ーネイチャーライティングとは何か』（松柏社、2003）

ハーン小路恭子『アメリカン・クライシスー危機の時代の物語のかたち』（松柏社、2023）

フロム他『緑の文学批評ーエコクリティシズム』（松柏社、1998）

【エコクリティシズム／環境文学研究 論文執筆のための基礎固め】

The Oxford Handbook of Ecocriticism

<https://academic.oup.com/edited-volume/28372>…（目次とサマリーだけでもホットなトピックがわかる）

その他、授業内で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でのフィードバックを基本とします。

成績評価の方法

授業内での発表50%、中間・最終レポート50%

その他

科目ナンバー：(ST) LIT551J			
建築・都市学専攻（総合芸術系）	備考		
科目名	文芸コンテンツ特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(学術)	宮川 絹代	

授業の概要・到達目標

私たちの生活空間は物語に溢れている。街や建物は物語を生み出し、物語の中にも街や建物のイメージが生まれる。この授業では、いわゆる「欧米」の文化や芸術とは一線を画するロシアを中心とした地域の街や建物、そこでの暮らしを文芸コンテンツから探っていく。ロシア文学の古典から、映画やアニメまで、さまざまな作品とともに、関わりのある街や建物、庭園、デザインなどを知り、文芸コンテンツの中の独創的イメージに目を向ける。ヨーロッパを模倣したサンクト・ペテルブルク、非ヨーロッパ的モスクワの他、地方都市、農村、シベリアやコーカサス地方、さらには宇宙といった多様な空間を取り上げ、それらと芸術との関係を探る。

この授業を通して、街や建築などの生活空間と文芸コンテンツの相互の創造的関係を知る。ヨーロッパとアジアのはざままで揺れてきたロシアを中心に取り上げることで、地域の個性と普遍性について考えを深める。

授業内容

- 【第1回】 ヨーロッパでもアジアでもないロシア
- 【第2回】 ヨーロッパ的ロシア、サンクト・ペテルブルクとプーシキン
- 【第3回】 ゴーゴリのサンクト・ペテルブルク
- 【第4回】 ドストエフスキーのサンクト・ペテルブルク
- 【第5回】 20世紀のサンクト・ペテルブルクとその文学的イメージ
- 【第6回】 モスクワの文学的イメージと芸術におけるネオ・ロシア様式
- 【第7回】 ロシア・アヴァンギャルドと未来派の詩
- 【第8回】 社会主義リアリズム
- 【第9回】 集合住宅とその芸術的表象
- 【第10回】 庭園と別荘(ダーチャ)と文学
- 【第11回】 東方正教会と芸術
- 【第12回】 シベリアに見るロシアにおける「東」
- 【第13回】 芸術におけるコーカサスの表象
- 【第14回】 ロシア・コスミズムと宇宙

履修上の注意

授業の進め方は、履修人数により変更の可能性はあるが、関心のあるテーマを選び、発表をしてもらう予定。授業内容についても、履修者の関心によって、若干の変更の可能性はある。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布する資料に目を通し、関連する文芸コンテンツを可能な範囲で参照しておく。

教科書

主に下記の参考書より該当箇所を配布する。

参考書

『ナターシャの踊り 上』オーランド・ファイジズ 白水社 ISBN: 978-4-560-09839-4

『ロシア文化55のキーワード』ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-09225-3

『ロシア文化辞典』丸善 ISBN978-4-621-30413-6

課題に対するフィードバックの方法

発表に関してはその場でコメントする。レポートについてはOh-ol Meijiのシステムを通じてコメントを配信する。

成績評価の方法

・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(70%)
・レポート(30%)

以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

問い合わせなどは以下のメールをお願いします。
kinuyo@mbd.ocn.ne.jp

科目ナンバー：(ST) ART511J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	写真史特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	倉石 信乃	

授業の概要・到達目標

写真作品および資料を手がかりに、「島嶼性island-ness」とは何かを考える授業。「本土」や「中央」から隔てられてある離島などの地域で生まれる写真を、地誌的なテキストや文学作品との関連などさまざまな角度からたどり、そこに示された歴史的、政治的、美学的な意味を考察する。対象地域は、沖縄諸島、先島諸島、奄美群島、北海道、またハワイ諸島に及ぶ。これらの地域はいずれも、日本もしくはアメリカの中央や本土という位置から離れた島嶼部である。このほか、物理的には「島嶼」の地勢を呈していないものの、離島と同様の「隔絶」を歴史的に経験してきた東北地方の一部も、いわば広義の「島嶼性」を備えた場所として取り上げる。

授業内容

- 第1回 はじめに／複数の「島嶼性」をめぐって
- 第2回 沖縄島
- 第3回 奄美・吐噶喇
- 第4回 徳之島
- 第5回 広島 似島
- 第6回 南大東島・北大東島
- 第7回 北海道 長万部
- 第8回 北海道 望来
- 第9回 北海道・福島・徳島
- 第10回 ハワイ諸島 オアフ島ワイキキ
- 第11回 ハワイ諸島 ハワイ島ヒロ
- 第12回 ハワイ諸島 モロカイ島カラウパパ
- 第13回 東北 被災地の表象
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義を中心とするが、場合によっては発言を求め、またクラス全体で討議を行うこともありうる。
写真史研究には複製図版—写真の写真—の参照が不可欠であり、この授業でも、写真、ビデオなど複製イメージの手助けを得るつもりである。しかし美術館やアーカイブに足を運んで、関連する作品・資料を実見する経験も必要であることを認識してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の関心に即して、授業で指示する文献の当該箇所を予習・復習すること。

教科書

特に用いない。

参考書

必要に応じて、授業の前後でpdfファイル等で送付する予定。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で指示する。

成績評価の方法

・授業参加の姿勢と発言・発表の内容(70%)
・期末レポート(30%)

以上の配分に基づき、総合評価100点満点で60点以上を合格とする。

その他

科目ナンバー：(ST) LIT551J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	批評特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	管 啓次郎	

授業の概要・到達目標

批評とは何か。作品をどう捉え、考え、どんな文章表現につなげることができるのか。作品を歴史的に位置づけ、今後の創造への契機を探ることが目的。各自が興味をもつジャンルをとりあげるが、同時に、自分が思ってもみなかった分野のおもしろさを発見できる機会としたい。毎回2、3名が交互にプレゼンテーションを行ない、それに続くディスカッションによって進めてゆく予定。毎回必ず全員に発言を求める。また各ジャンルの最大公約的ジャンルとして映画を重視し、具体的映画作品についての議論を必ず入れる。

授業内容

- [第1回] イントロダクション
- [第2回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第3回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第4回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第5回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第6回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第7回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第8回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第9回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第10回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第11回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第12回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第13回] プレゼンテーションとディスカッション
- [第14回] 最終発表とまとめの討論

履修上の注意

各自の興味を最大限に生かすようにしたいが、自分が選んだ分野についての歴史的見通しを持てるよう、とにかく数多くの作品にふれる機会を各自で工夫すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

特になし。

教科書

特になし。

参考書

授業中に指示する。

成績評価の方法

毎回のディスカッションへの積極的な参加と短いレポート数回は必須。学期末のタームペーパー(400字詰め原稿用紙換算10枚程度)。

その他

科目ナンバー：(ST) IND511J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	ワークショップ・デザイン特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授	博士(文学) 山本 洋平	

授業の概要・到達目標

「ワークショップ・デザイン」の考え方を学術的なスキルに活かす方法論を探求する講座です。ワークショップという言葉は企業の研修や学会などでもよく聞く用語になってきましたが、元々は「工房」を意味するもので、もの作りのための環境を指します。とは言っても、本講座は、教室内で何かモノを作るわけではありません。創造的なコミュニケーションや新しい発想を生み出すための仕掛けを考えだす、いわばプロジェクト・デザイナーを養成するプログラムです。

同時に、本講座の特徴は、ワークショップの考え方を、学術論文の基礎となる思考、発話、協議、論文作成スキルを総合的に高める方法論へと接続する点にあります。この学術ワークショップはモノを〈つくる〉〈かたる〉〈振り返る〉のサイクルを基本とし、具体的には次の2つの到達目標へと向かっていきます。(1) チームの雰囲気やコミュニケーションを生産的なものにしてアイデアを生み出すために、ワークショップを企画し、運営できること。(2) 学術的にも役に立つインプットとアウトプットの学習パターンを意識化し、具現化し、習慣化すること。

授業内容

- [第1回] アイスブレイク
- [第2回] ワークショップ入門1:WSを体験する
- [第3回] ワークショップ入門2:WSの構造を知る コミュニケーション力と質問力
- [第4回] プロジェクト1:ミニ・ワークショップを企画する
- [第5回] プロジェクト1:ミニ・ワークショップを実施する
- [第6回] デイバート入門1:問いと論拠
- [第7回] デイバート入門2:デイバート/ディスカッション/ワークショップの違いを知る
- [第8回] ワークショップの理論1:経験学習とは何か(デューイとピアジェ)
- [第9回] ワークショップの理論2:WSDのコツ(活動目標と学習目標の立て方)
- [第10回] プロジェクト2:研究テーマの報告と質疑
- [第11回] プロジェクト2:研究をワークショップ化する
- [第12回] プロジェクト2:ワークショップ的方法を用いて研究テーマを深める
- [第13回] WSD実践
- [第14回] WSD実践

履修上の注意

グループディスカッションやプレゼンテーションなど、毎回全員参加型の授業を行う。したがって、協調性はもちろんのこと、授業外の活動を厭わず、積極的に楽しく参画してくれるゼミ生を募ります。

準備学習(予習・復習等)の内容

グループでのプロジェクトを行うので、授業外で集まって作業してもらうことがあります。

教科書

『ワークショップデザイン論—創ることで学ぶ』第2版、山内祐平、森玲奈、安斎勇樹、慶應義塾大学出版会、2021年

参考書

安斎勇樹、早川克美『協創の場のデザイン：ワークショップで企業と地域が変わる』藝術学舎、2014年
井庭崇編著『クリエイティブ・ラーニング：創造社会の学びと教育』慶應義塾大学出版会、2019年
安斎勇樹、塩瀬 隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社、2020年

課題に対するフィードバックの方法

授業内にてコメントします。

成績評価の方法

授業内課題50%、プレゼンテーション50% 合計が満点の60%以上を単位修得の条件とする。

その他

授業期間中にプレゼンテーションを課し、使用したファイル(パワーポイントスライド)をレポートとして提出してもらう。

科目ナンバー：(ST) LIT531J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	映画と都市		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	清岡	智比古

授業の概要・到達目標

都市を舞台とする映画の中には、その都市の固有の空間性と深い交感を果たしている作品がある。そうした作品の読解するには、まずは評者が、映画論と都市論が交差する地帯に立つ必要がある。本講義は、特にパリを舞台とした映画を素材とした、その訓練の場である。最終的には、各自がそうした作品を見出し、上述のような分析が展開できるようにすることを目指す。

授業内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 「セーヌ河岸」分析
- 第3回 「16区を遠く離れて」、 「シヨワジー門」分析
- 第4回 『最強のふたり』分析・1
- 第5回 『最強のふたり』分析・2
- 第6回 『サンバ』分析・1
- 第7回 『サンバ』分析・2
- 第8回 『黒いスーツを着た男』分析・1
- 第9回 『黒いスーツを着た男』分析・2
- 第10回 『女はみんな生きている』分析・1
- 第11回 『女はみんな生きている』分析・2
- 第12回 『憎しみ』分析・1
- 第13回 『憎しみ』分析・2
- 第14回 a・まとめ講義 b・発表

履修上の注意

授業で扱う映画以外にも、各自鑑賞してくる作品を指定される場合がある。
また、レポートは随時課される。ブック・レポートもある。

準備学習(予習・復習等)の内容

作品の背景となる時代、空間について、あらかじめ調べておく必要がある。
それが、作品分析の前提となる。

教科書

- 『エキゾチック・パリ案内』清岡智比古(白水社)
- 『となりのイスラム』内藤正典(ミシマ社)
- 『パリのすてきなおじさん』金井真紀(柏書房)
- 『グローバリズム以後』エマニュエル・トッド(朝日新書)

参考書

- 『パリ移民映画』清岡智比古(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じてコメントします。

成績評価の方法

レポートが80%、授業参加が20%。全体で60%以上で、合格とする。
欠席は減点になる。

その他

科目ナンバー：(ST) LIT531J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	文学と都市		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 清岡 智比古		

授業の概要・到達目標

文学作品の中には、そのモチーフを、舞台となった土地の固有性に負っている作品がある。それは換言すれば、作品の構造、あるいは情緒的核心が、語られる「物語」のトポスのそれと呼応し合っていることに他ならない。本講義では、1900年以降の東京を舞台とした詩作品を、時系列に沿って読むことで、東京と詩の関係を辿りなおしてゆく。最終的には、各自が発見した詩作品を、空間との関係で分析できるようにすることが目標である。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 東京詩の出現・1(石川啄木・三木露風)
- 第3回 東京詩の出現・2(北原白秋・室生犀星)
- 第4回 東京詩の出現・3(萩原朔太郎)
- 第5回 震災から大戦まで・1(金子光春)
- 第6回 震災から大戦まで・2(富永太郎)
- 第7回 震災から大戦まで・3(中原中也)
- 第8回 震災から大戦まで・4(耕治人)
- 第9回 戦後・1(鮎川信夫)
- 第10回 戦後・2(吉本隆明)
- 第11回 21世紀へ・1(松任谷由実)
- 第12回 21世紀へ・2(清水哲男)
- 第13回 21世紀へ・3(宇多田ヒカル)
- 第14回 a・まとめ講義 b・発表

履修上の注意

取り上げた作品に登場するモニュメントなどについて、随時発表することが求められる。
また、J-POPなどを含め、東京に関わる作品についての発表が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

作品の背景となる時代、空間について、あらかじめ調べておくことが必要である。
それが、作品分析の前提となる。

教科書

『東京詩』清岡智比古(左右社)

参考書

『都市空間のなかの文学』前田愛(筑摩書房)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji を通じてコメントします。

成績評価の方法

レポートが70%、授業参加・発表が30%。全体で60%以上で、合格とする。
欠席は減点になる。

その他

科目ナンバー：(ST) ENV591J			
建築・都市学専攻(総合芸術系)	備考		
科目名	環境と人文学		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(人間・環境学) 鞍田 崇		

授業の概要・到達目標

本講義は「環境人文学」の一端を体感することをねらいとしています。環境人文学は、いまだ生成途上にある、新しい学問領域です。名称のうち「環境」は研究対象(テーマやフィールド)を、「人文学」は研究方法(アプローチやヴィジョン)を表わしています。つまり、現在進行形の環境問題を人文学的視点で問う。それが環境人文学です。

では、人文学的視点とは具体的にどのようなものなのでしょうか。学問領域としては、自然科学や社会科学では扱いきれない、人間文化に関わる事柄を対象とします。その実際は、人文学を表わす英語 Humanities に端的に示されています。字義通り訳すと「人間らしさ」ないし「人間くささ」、そういうものを体現している事柄のこと。なので、人文学的視点とは、人間らしく、人間くさい視点。なぜそんな視点が求められているのでしょうか。地球環境問題はじめ現代の社会問題は、多様性を損ない画一化へと邁進するグローバル化の「ひずみ」といえます。問われなければいけないのは、このひずんだ社会を変革する道筋です。でも、どうすればよいか。実際のところ、すでに多くの取り組みがなされています。何より多くの方が問題に気がついています。でも動くとしません。ほんとうに問うべき点はここにあります。動きたいけど動けない人が動けるようになるために、あらためて現代社会における人間らしさ、人間くささ、それらを問わなきゃいけない。環境人文学という新しい知の確立が目指すところは、そこにあります。

本講義ではこうした背景のもとに、「哲学」と「芸術」の本質を、テキストに密着しながらみなさんと一緒に考えていきます。

授業内容

- [第1回] いまなぜ環境人文学か
- [第2回] ハイデガーについて
- [第3回] 『芸術作品の根源』を読む 1 序言
- [第4回] 『芸術作品の根源』を読む 2 〔一〕物と作品①
- [第5回] 『芸術作品の根源』を読む 3 〔一〕物と作品②
- [第6回] 『芸術作品の根源』を読む 4 〔一〕物と作品③
- [第7回] 『芸術作品の根源』を読む 5 〔二〕作品と真理①
- [第8回] 『芸術作品の根源』を読む 6 〔二〕作品と真理②
- [第9回] 『芸術作品の根源』を読む 7 〔二〕作品と真理③
- [第10回] 『芸術作品の根源』を読む 8 〔三〕真理と芸術①
- [第11回] 『芸術作品の根源』を読む 9 〔三〕真理と芸術②
- [第12回] 『芸術作品の根源』を読む 10 〔三〕真理と芸術③
- [第13回] 『芸術作品の根源』を読む 11 〔三〕真理と芸術④
- [第14回] 総合討論

履修上の注意

秋学期の「環境とデザイン」は本講義と同趣旨のものです。可能ならあわせて履修してください。
また、学部生向け授業ですが、本講義の内容とおおいに関係するものとして、学部間共通総合講座「環境人文学Ⅰ：ローカル・スタンダードをデザインする」(春学期・駿河台)、「環境人文学Ⅱ：インティマシーをデザインする」(秋学期・駿河台)があります。都合のつく人は履修せずとも、いつでもモグリに来てください。

準備学習（予習・復習等）の内容

第3回以降は、テキストの読解が中心になります。各回担当者を決めて、指定範囲の内容をまとめたレジюмеを作成してもらいます。授業では、まずレジюмеをもとに内容を確認し、そのうえで疑問点など内容に関する議論をします。進度は、毎回10ページ程度ですので、レジюме担当でなくても、授業前に指定範囲を読んでおくようにしてください。

教科書

『芸術作品の根源』(平凡社ライブラリー 645)
マルティン・ハイデッガー 著
関口浩 訳
平凡社
2008年

参考書

『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』
鞍田 崇 著
明治大学出版会
2015年

課題に対するフィードバックの方法

レジюме担当者には、授業内で指定範囲の内容を発表してもらい、適宜コメントをします。

成績評価の方法

成績評価上の割合は、平常点（レジюме担当、ディスカッションへの参加等）60%、学期末レポート:40%。

その他

科目ナンバー: (ST) ENV591J			
建築・都市学専攻 (総合芸術系)	備考		
科目名	環境とデザイン		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(人間・環境学) 鞍田 崇		

授業の概要・到達目標

本講義は「環境人文学」の一端を体感することをねらいとしています。環境人文学は、いまだ生成途上にある、新しい学問領域です。名称のうち「環境」は研究対象（テーマやフィールド）を、「人文学」は研究方法（アプローチやヴィジョン）を表わしています。つまり、現在進行形の環境問題を人文学的視点で問う。それが環境人文学です。

では、人文学的視点とは具体的にどういうものなのでしょう。学問領域としては、自然科学や社会科学では扱いきれない、人間文化に関わる事柄を対象とします。その実際は、人文学を表わす英語 Humanities に端的に示されています。字義通り訳すと「人間らしさ」ないし「人間くささ」、そういうものを体現している事柄のこと。なので、人文学的視点とは、人間らしく、人間くさい視点。なぜそんな視点が求められているのでしょうか。地球環境問題はじめ現代の社会問題は、多様性を損ない画一化へと邁進するグローバル化の「ひずみ」といえます。問われなければいけないのは、このひずんだ社会を変革する道筋です。でも、どうすればよいか。実際のところ、すでに多くの取り組みがなされています。何より多くの人が問題に気がついてあります。でも動こうとしない。ほんとうに問うべき点はこのにあります。動きたいけど動けない人が動けるようになるために、あらためて現代社会における人間らしさ、人間くささ、それらを問わなきゃいけない。環境人文学という新しい知の確立が目指すところは、そこにあります。

本講義ではこうした背景のもとに、「民藝」と「デザイン」の本質を、テキストに密着しながらみなさんと一緒に考えていきます。

授業内容

- [第1回] いまなぜ環境人文学か
- [第2回] 民藝について
- [第3回] 『工藝の道』を読む 1 緒言
- [第4回] 『工藝の道』を読む 2 工藝の美
- [第5回] 『工藝の道』を読む 3 正しき工藝①
- [第6回] 『工藝の道』を読む 4 正しき工藝②
- [第7回] 『工藝の道』を読む 5 誤れる工藝
- [第8回] 『工藝の道』を読む 6 来るべき工藝 (上) 工藝の基礎
- [第9回] 『工藝の道』を読む 7 来るべき工藝 (中) 工藝と個人作家
- [第10回] 『工藝の道』を読む 8 来るべき工藝 (下) 工藝と協団
- [第11回] 『工藝の道』を読む 9 工藝美論の先駆者について
- [第12回] 『工藝の道』を読む 10 概要
- [第13回] 『工藝の道』を読む 11 挿絵について
- [第14回] 総合討論

履修上の注意

春学期の「環境と人文学」は本講義と同趣旨のものです。可能ならあわせて履修してください。また、学部生向け授業ですが、本講義の内容とおおいに関係するものとして、全学共通総合講座「環境人文学Ⅰ：ローカル・スタンダードをデザインする」(春学期・駿河台)、「環境人文学Ⅱ：インティマシーをデザインする」(秋学期・駿河台)があります。都合のつく人は履修せずとも、いつでもモグリに来てください。

準備学習（予習・復習等）の内容

第3回以降は、テキストの読解が中心になります。各回担当者を決めて、指定範囲の内容をまとめたレジюмеを作成してもらいます。授業では、まずレジюмеをもとに内容を確認し、そのうえで疑問点など内容に関する議論をします。進度は、毎回20ページ程度ですので、レジюме担当でなくても、授業前に指定範囲を読んでおくようにしてください。

教科書

『工藝の道』
柳 宗悦 著
講談社学術文庫
2005年

参考書

『民藝のインティマシー「いとおしさ」をデザインする』
鞍田 崇 著
明治大学出版会
2015年

課題に対するフィードバックの方法

レジюме担当者には、授業内で指定範囲の内容を発表してもらい、適宜コメントをします。

成績評価の方法

成績評価上の割合は、平常点（レジюме担当、ディスカッションへの参加等）60%、学期末レポート:40%。

その他

科目ナンバー：(ST) ART591J			
建築・都市学専攻（総合芸術系）	備考		
科目名	総合芸術特論		
開講期	春学期集中	単位	講2
担当者	専任教授	倉石 信乃	

授業の概要・到達目標

総合芸術系の専任教員によるオムニバス授業。
今日の芸術は、地球環境の未来に対する洞察と、人類の歩んできた歴史に対する批判的視座を兼ね備えて制作され、また享受されるものでなければならない。本授業では、こうした社会的要請を踏まえ、文学・美術・映像・写真・工芸・デザイン・アニメーションなどの幅広い分野における具体的な作品・資料の実際を学ぶ。その際には、社会・経済・歴史・地理などの問題領域、さらには都市学や地域研究、比較文化論との関連に留意し、かつ芸術に携わる様々な立場（制作者、批評家、ジャーナリスト、キュレーター、編集者など）の実践についても、併せて基礎的な理解に到達することを目標とする。

授業内容

[第1回] 詩と映像を考える(倉石信乃)

最初に全体のイントロダクションを行なう。続けて、言葉と映像（絵画・写真・映画を含む）、それぞれの表現のパラゴナー（競合・相互影響）を、古代から現代までのいくつかの実例や言説をもとに考える。

[第2回] 批評、理論、実践(管啓次郎)
作品とは何か、批評とは何か。理論とは何か、実践とは何か。言語およびイメージの対象テキストを具体的に考えつつ、その場で生じる差異の経験をいかに言語化するかを試みる。

[第3回] 複数視点の解釈学(山本洋平)

芸術に触れることは、他者のperspectivismを生きることである。この命題を念頭におきつつ、詩の一節、一幅の絵画、映画の一場面を素材として、事象を多角的に捉えるヒントを提供する。

[第4回] パレスチナ問題再考(清岡智比古)

映画作品を題材に、パレスチナ問題を再考する。それはそのまま、未来世界の形、自由というものの意味、文化の可能性、を考えることでもある。

[第5回] トランスディシプリナリティ（超学際）のゆくえ(鞍田崇)

地球環境問題の解決をめざして具体的な社会変革が模索されるなかで、従来の学際（インターディシプリナリティ）を超えた、社会と学問との連携のあり方が問われている。その動向と可能性を考える。

履修上の注意

メインの教室は【中野キャンパス】ですが、授業内容にあわせて、【集合場所】および【開始時間】が異なります。各授業当日の一週間前には、必ず「シラバスの補足」を再確認し、最新情報を得てから出席してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

各授業後に「感想レポート」を作成する際には、授業内容に加えて、みずから調べた資料などを活用することが望ましい。

教科書

各授業で紹介する。

参考書

各授業で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各担当教員から授業内で指示する。

成績評価の方法

各回の講義に関する「感想レポート」(全5回分)によって評価する。各回のレポートの評点を20点満点として、60点以上の評点を得た者を合格とする。

その他